

つ立役に地實ぐす鮮明易平

書用業工械機

中出賣價特及普

最新刊 (再版) ミリング作業手引 (定價二圓) 送料内地十錢	ネチ切の極意 送料 〇〇・九六	工務員必携便覽 送料 〇一・四〇	全日本觀光寫真大鑑 送料 〇二・八二	工作要覽 送料 〇一・四〇	旋盤及ミリングマシン作業法 送料 〇二・三二	工業便覽 送料 〇二・三〇
	探鑛必携 送料 〇二・三六	工務員工業用語と略解 送料 〇一・四二	技工必携 送料 〇一・四六	機械製圖の見方 送料 〇二・〇〇	工業携實用便覽 送料 〇一・八六	見習いになる機械師まで 送料 〇三・〇四

最新刊(三版)
機械工業ハンドブック
(定價三圓五十錢)
送料内地十二錢

番二九二三(25)田神話電
番〇九五〇六京東替振

社進知

町保神區田神市京東
地番二十四日丁一

五三三

程教合綜工械機 **りかわり**
い易

編會學業工本日大

交流理論及電氣機械	電氣材料及工作法	工場通論	金相學	水力學及水力機械	蒸汽原動機及内燃機	機械材料強弱學	機械力學	機械工作實習指導	機械材料及工作法	機械學(キカイのからくり)
送料 〇一・二四	送料 〇二・二〇	送料 〇一・六〇	送料 〇一・八〇	送料 〇一・二〇	送料 〇一・六〇	送料 〇一・二〇	送料 〇一・二〇	送料 〇二・五〇	送料 〇一・六〇	送料 〇一・八〇

最新刊・新刊 一九三八年
工業學校及工場教科書として
獨習書として最適!
本邦最初の平易明解な工學書現る

監修者 工學博士關口八重吉先生
理學博士竹内時男先生 其他數名

覽一書圖業工良優

山田秀男著 日本標準製圖の指針 送料 〇一・八六	山中秀男著 最近實施日本標準實用機械製圖法 送料 〇二・五八	關口八重吉著 關口實用機械學 送料 〇二・〇〇	河合匡著 金屬屬材料 送料 〇九・五〇	木塚大吉著 實際應用鋼の焼入法 送料 〇二・四〇	飛永甚治著 齒車の設計並齒切法 送料 〇三・〇八	田島義造著 機械工作便覽 送料 〇一・〇六	桐淵勘藏著 酸素アセチレン溶接及裁斷法 送料 〇三・五〇	柳町政之助著 煖房と換氣(全三冊) 各冊送料 〇一・〇〇	淺野定次著 冷凍法と其應用 送料 〇三・五八	中村清共著 紙工業 送料 〇三・二〇	高田直屹著 製紙工業 送料 〇三・二〇	岡田楠次郎著 應用化學の常識 送料 〇二・四〇	武藤清著 建築構造力學 送料 〇三・五〇	大岡實著 建築樣式 送料 〇三・〇四	中村只八著 新式規矩術 送料 〇二・三六	吉田全三著 改良日本家屋構造 送料 〇二・五〇	學會編雜誌 工業青年一ヶ月代 送料 〇一・二八
-----------------------------	-----------------------------------	----------------------------	------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------------	----------------------------	----------------------------

番〇八一六京東替振
番〇七四表代段九話電

會學業工本日大

橋ツ一區田神市京東
内館會育教

五三二

醫學叢書
大學部
研究書
一般類

和漢洋古書籍賣買 新刊圖書取次販賣

稻垣書店

支店
神田區神保町停留場前
電話神田(25) 二〇三三九番
振替東京四六六九〇番
神田區神保町一丁目九

東京文理科大学教授
東京高等師範學校教授
陸軍教授理學士
問谷 力先生序
宮田 正彦先生著

受驗補習 代數のちから

上、下、各四三〇餘頁
定價各壹圓五十錢
特價各八拾錢

東京日本橋區
本町四丁目二

文理大 東京高師 教授 問谷力先生評

宮田君が本書を公にさるゝと聞き、汗中充棟も管ならざる程類書の刊行され居る時、屋上屋を架する嫌ひなきやを懸念したが今本書を播いてそれは單なる杞憂に過ぎなかつたことを知つた。

各例題の下には數題宛の類題をあげ徹底的に了解せしむべく仕組れた本書は、巷間往々見ることが如き粗笨なものとは類を異にし、すべてに亘つて些の遺漏もない。余が聲を大にして本書を普く天下の受驗生に推薦する所以である。

本書

- 1 最近の入試問題を範例にとり、基本的事項の理解を徹底せしめ、代數學實力の涵養を期す。
- 2 六百二十餘の例題には示唆的方針と模範的解答を述べ、猶ほ類題を擧げて問題解決の鍵を與へた。
- 3 最近の傾向を示す綜合問題、ぐらふ、整數問題を詳説して、來るべき入試問題を豫測す。

の特長

榊原文盛堂

振替東京
二九〇六六

和田八重造 幸共著

◎内容見本進呈す◎

原色日本岩石圖譜

特色 1. 材料の選擇、説明記述の様式等専ら初心の研究
者及土木、建築、鑛山等の實務に従事する人に適する
者。2. 著者秘蔵の積年蒐集したる標本及製作の様式
レニテ、著者秘蔵の積年蒐集したる標本及製作の様式
目3. 從つて希望者には圖版に納めたる原物をいつても
目にかける事を得。

好評 原色 日本鑛物圖譜 ¥2.80
円 .10

岡崎常太郎著

◎内容見本進呈す◎

昆蟲700種

特色 本書には普通の昆蟲700種を選定し、之を悉く天
然色寫眞にした。昆蟲全部に互る。餘頁の天然色寫眞
版を挿入した。我國に於ては本書を以て嚆矢とす
る。圖版の寫眞は、特に大きな種類を除く外、すべて
物大に撮影してある。天然色にした上、實物大の寫眞
から、之以上便利なものはない。

既刊 蝶類圖説バツタ類圖説トンボ類圖説 ¥1.20
円 .06

平瀬信太郎著

◎内容見本進呈す◎

日本貝類圖譜

特色 本書には斯界の權威平瀬父子多年に渉り蒐集せ
られたる数千種の貝類中特に完全無瑕なる本貝産貝類
の餘種を選定し、悉く實物撮影原色版に附したる。
もの。貝類全部に互る。悉く實物撮影原色版に附したる。
しなるものは本邦に於ては本書を以て嚆矢とする。

既刊 蝶類圖説バツタ類圖説トンボ類圖説 ¥4.20
円 .22

維新史料新聚芳

文部省維新史料編纂事務局纂編

本集は文部省維新史料編纂事務局が
開局二十五周年記念事業の一として
公刊せられたもので、二十五年間に
互り蒐集したる維新史料の中に於て
特に史料として價值あるものを厳選
し御宸翰、皇族方の御眞蹟を始め公
卿、諸侯及び愛國の志士の眞蹟を網
羅し、原本を帝室御物を始め諸名家
の門外不出の秘襲に求めて
孝明天皇御即位の弘化三年より維新
の大業成りし明治四年七月に至る迄
を年代順にこれを精巧なるコロタイ
プ版により原文を收め且つ一々詳細
なる解説を付したもので、國體明徴
日本精神作興の資料として絶好のも
のである。

○菊二倍版 用紙別漉和紙袋綴
乾坤二冊の大和綴帙入
○定價 金拾圓
送料 地方荷造費共五十錢

ローレンスオーセツト
トマスフオーセツト

◎内容見本進呈◎

標準英語作文法辭典

本書の特色 本書は、其の内容及び配列方法に於て、
間流布せる英文参考書と異なり、同じうして語るべき
で、準備を要する練習問題も無い。又強ひて語記すべ
き規則も無い。何れも短所と思ふ箇所を隨時隨意に自
法に添削練習することが出来る。

既刊 英語重要單語統計的研究 ¥2.00
円 .09

河野富子著

◎内容見本進呈◎

新手段ロンドンウオーク

洋裝の襟・袖・裾・煙草セツト敷・花瓶敷・
ク・シヨール・食卓掛・座蒲團カバリー・洋傘・ハンドバツ
業として最も優美で高尙で高價なるものが製作し得るこ
とが出来ます。

既刊 マケラメラリス ¥2.20
円 .14

東京高師若溪會讀物調査部編

優良圖書一覽

第一輯 自大正二年 定價二圓五十錢・送料十四錢
第二輯 自昭和三年 定價一圓五十錢・送料十錢
委員の審査評を載す。索出容易なり。

子規居士編著

四六判四百六〇頁
定價金壹圓八拾錢

承露盤

子規居士による明治俳句革新の大業が成熟したの
は明治廿八年であつた。爾後明治卅三年に至る六年
間が明治俳壇の絢爛時代であつた。此書は其時代の
俳句を子規居士によつて集大成された一大句集であ
る。芭蕉や蕪村の七部集が各々其時代の代表的句集
であるやうに、此書は明治時代の俳聖子規周囲の代
表佳句集で、千載不磨の生命を持つものである。本
來子規全集中に收むべきであつたのを都合上見合せ
たのを、今茲に全集追補の意味に於て刊行したので
ある。

俳壇諸家が一本を座右にし、朴拙清高な韻致に浴
して研讀に資せられんことを勧告すると共に、改造
版子規全集と同型の此書を子規全集所載諸子が全集
追加として收められんことを御勧めする。

東京市日橋區 巧藝社 振替東京四〇六六六
電話 日橋本(24) 三丁目五番地

東京市日橋區 松三堂 振替東京三〇九九
電話 日橋本(24) 三丁目五番地

受驗界の至寶—聖戰突破のキ—

版 9 4 版 1 7 版 內 容 最 新 — 効 果 第 一 —

最近出題傾向の明示

受驗本位 物理學の要點

陸軍教授、理學士 田中 求 共著
東京府立三中教諭 小松 直行

代數・幾何・三角融合問題集

四六判九〇頁
定價三十五錢
送料三錢

一日物理學四週間

中等理學會編
定價八十錢
送料十錢

學習簿記の要點

大谷正義著
定價一圓半錢
送料十錢

受驗本位 幾何學の要點

中等理學會編
定價一圓半錢
送料十錢

受驗本位 物理學計算法

中等理學會編
定價一圓半錢
送料十錢

受驗本位 漢文解釋の要點

光世館編輯部編
定價一圓
送料十錢

受驗本位 化學計算法

中等理學會編
定價一圓半錢
送料十錢

受驗本位 最も覺え易い受驗の英單語

下河茂嗣著
定價一圓
送料九錢

受驗本位 國文法の要點

山本英夫著
定價五十錢
送料六錢

東京府立一中教諭 山本英夫著

受驗本位 國文法要點

新型一〇頁
定價五十二錢
送料六錢

受驗本位 化學の要點

中等理學會編
四六判六百卅二頁
定價四十二錢
送料十四錢



コドモ繪本
教育コドモ
紙工品

合名 會社

金井信生堂

東京市神田區東福田町壹番地

電話浪花(67)代表三一八番(2)
振替東京一三八三七番

東京市本區 光世館 振替東京一三八三七番 電話九一七三六

(呈進第次込申御録目書圖附本見容内)

東京市神田區東福田町一番地

地圖專門 雄文館

合資會社

電話浪花(三一一九番)
振替東京六六二四六番

東京本郷帝大正門前井上書店 電話小石川四三五四番 振替東京五二四一九番

植物文物獻刊行會既刊書目

植物學雜誌

(自第一卷至第十卷) 全十册 覆製

金五十八圓

植物學雜誌は貴重な文獻であります。が十卷位迄は絶版で非常に高價であります。

第一回刊行本(六〇〇部限定)

日本植物誌

シホルト・ツツカリニ共著 一册 網版
跋文 牧野富太郎先生 二分ノ一縮刷 プレートの單色刷

第二回刊行本(三〇〇部限定)

日本有用植物誌

シホルト著 一册 網版
解説 小泉源一先生

第三回刊行本(七〇〇部限定)

日本植物誌

トウンベルジュ著 残部僅少 一册 頒布實費四、八〇
解説 中井猛之進先生 原本通り覆製

第四回刊行本(五〇〇部限定)

日本植物圖譜

トウンベルジュ著 残部僅少 頒布實費一册三、九〇
解説 中井猛之進先生 原本通り覆製五册を合册

第五回刊行本(五〇〇部限定)

植物ノ種類

大リンネ著 残部僅少 頒布實費二册九、〇〇
解説 中井猛之進先生 原本通り覆製

第六回刊行本(五〇〇部限定)

日本植物關係論

トウンベルジュ著 残部僅少 一册七、五〇
文二十七種集録
解説 中井猛之進先生 原本通り覆製合册

第七回刊行本(五〇〇部限定)

植物ノ種類補遺

小リンネ著 残部僅少 頒布實費一册四、五〇
解説 中井猛之進先生 原本通り覆製

臨時出版(三〇〇部限定)

日本動物誌

シホルト著 解説共 五册
學名表 甲殼類 中澤毅一先生 魚類 田中茂穂先生
鳥類 黒田長禮先生 爬虫類 岡田彌一郎先生
哺乳類 江崎悌三先生 原本通り覆製四十一分册を四册に合册

臨時出版(六〇〇部限定)

日本蝶類圖說

ブライヤー著 残部僅少 頒布實費一册七、〇〇
解説 永崎悌三先生 原本通り覆製三册を合册

(七) 青年

書名	昭和の青年と世界の展望 青年と青年運動 十月 青年の世界
著譯者	下位春吉・吾 池園哲太郎・吾 清水幾太郎
定價	圓三〇 圓一〇 一・〇〇
頁數	三〇 一〇 三六
發行所	日本書莊 日本青年館 文館

青年

百四歳の雙子姉妹

姉妹の雙子で百四歳の高齢に達したが、而も相伴つて昨年の末殆んど同時に、この世を去つたと云ふニュースがある。

處はユーゴスラヴィヤのバンヤ・ルカ。その雙子と云ふのは一人をボツチチヤ・テオドジツチと云ひ、他の一人をアンチャ・イベチツチと云ふ。一人は病院で、他の一人は自宅で此の世に別れを告げたのである。

五四五

我出版界最初の創作的獨和

片山正雄著

雙解 獨和大辭典

紙數 2500頁
袖珍本 定價 9.00
總布製本 定價 8.00

片山正雄著

雙解 獨和小辭典

紙數 1300頁
袖珍本 定價 4.50
總布製本 定價 4.00

片山正雄監修

珍袖 獨和辭典

紙數 600頁
袖珍本 定價 2.50

無限の需要は絶対の價値

橋本忠夫監修
假名發音附

標準獨和辭典

獨逸語簡易化

ラヂオが日々伯林から東京へ呼びかける今日、獨逸語の簡易化要望の叫びを聞きに到つたのは寧ろ當然、本書の需要亦依然増大し殊に初學者に絶大な利益となる

紙數 820頁
紙裝 定價 3.80
布裝 定價 4.00

五四四

南江堂編
獨文手紙の書き方
袖珍判 一三四頁 金一・〇〇

辻善定編
簡易日獨會話
袖珍判 一一六頁 金・九〇

高田眞木編
日獨會話伯林生活
袖珍判 一八三頁 金一・三〇

武内大造編
和文の獨譯例
四六判 一三三頁 金一・二〇

アール・ハーン・澤井要一編
なくてならぬ和文獨譯
四六判 三〇〇頁 金一・七〇

辻善定編
獨文和譯最近の伯林
四六判 一一五頁 金一・二〇

東京市都電 振替 三〇五
東京市都電 振替 九六九
東京市都電 振替 九六九
東京市都電 振替 九六九

南江堂株式會社

號數活字(舊活字)の大きさ

活字に就て正確

な數的觀念は容易につき難
いものである。殊に在來の號數活

- 初號
 - 一號
 - 二號
 - 三號
 - 四號
 - 五號
 - 六號
 - 七號
- は一號は四號の四倍であり、一二號は五號の四倍であるから、其差は四號と五號の差の四倍といふやうな複雑な事になる。四號と五號との差などに至つては尙更らである。又ポイント式でない歐文活字のルビーとアラビア或はボルジョイスとロングプライマー等の大きさの差異になると歐文活字に通じた者でない限り直ぐ分るものではない。

(八) 少年・少女讀物

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
明治天皇御傳	松本浩記	三・〇〇	四四	大同館書店
童話史	日本童話協會	三・〇〇	四	日本童話協會
少年國史上の外交關係	長井正治	三・五〇	四二	大同館書店
少年國史物語(五)	前田晁		四七	早稻田大學出版部
少年國史物語	前田晁		四五	早稻田大學出版部

少年・少女讀物

五四七

飛行界の恩人二宮忠八翁の偉業を國定教科書に収録す

文部省では今回飛行界の恩人二宮忠八翁の偉業を國定教科書に収録するに決定したるを以て改正小學國語讀本卷九の第三飛行機の發明の一部を修正して其の苦心研究に成る飛行機の模型の寫眞を挿繪として來年四月から使用せしむることに決定した。

文書國防は同業者から

近代戦争の形態は昔日と異り、人間といはず物といはず國家の在ゆる資源を動員して行はれる様になつた結果、各國間にスパイの暗躍が物凄ばかり跳梁し、軍事上の機密に屬するもののみでなく、國防上外國に對し祕密を保たねばならぬものは非常な廣範圍に擴大された。従つてそれ等のものゝ海外漏洩は、時として國家の利益に大害を及ぼす計りでなく、實に國家の存亡にも關する程の重大性を有するのであるから、國民は夢にも之れを輕んじてはならない事は申す迄もない。

む昨今、たとへ此種の布令が發せられぬ迄も、全國的に斯かる觸れありと心して、假りにも同業者は其營業上より起り得べき、文書圖書類を通じての祕密を保護するに最大の關心を持つべきである。

東京市内では地圖さへ知らぬ人には迂濶に賣るなど注意されて居る位で、歐洲大戰中英國では海峽橫斷汽船の發着時間表さへ公表が禁止され、旅客や汽船會社など非常に困つたのであつたが、其爲めに潜水艦に狙はれたり、撃沈される危険から免れた處を見ると、詰らぬものが非常な効果を擧げてゐる事が肯づかれる。

過般第七十議會を通過して、舊法を改正した軍機保護法が公布されたが、どんな些細な詰らぬものゝ様でも、専門家が見れば其事全貌窺知の端緒となり、我國の戦争能力を推知する事にもなる、我々全國の同業者は銃後の護りを完全にし國防の安全を期する上にも官民一致細心の留意を文書圖書の上

(九) 文學・語學

〇國文學〇漢文學
〇西洋文學

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
純文學概論	李家正文	一・六〇	四三三	建設社
應永本和泉式部日記	有川武彦	三・六〇	一冊	趣味出版部
全輯百間隨筆(一)	内田百閒	一・五〇	四四四	畫版莊
文章の作り方	久米正雄	一・〇〇	四三六	新潮社
現代文章事典	沖野岩三郎	一・八〇	四三六	厚生閣
大日本文庫文學篇	和田利彦	非	四六一	春陽堂書店
南總里見八犬傳	和	一・五〇	四三三	千倉書房
戦争と平和	室伏高信	一・五〇	四三三	千倉書房
岩波文庫(四二一) 四三三	志賀重昂	四	四三八	岩波書店
日本風景論	小島	四	四三八	岩波書店
同 兼好法師家集	西尾實	三	四一八	同
岩波文庫(四二五) 四二六	南總里見八犬傳(一)	四	四二八	岩波書店
白樂天詩集(三)	鶴田久作	四	四九四	國民文庫
國譯資治通鑑(一六)	同	四	四九八	同
萬葉集に現れたる日本精神	久松潜一	一・八〇	四一四	至文堂
崎人に學ぶ	小瀧淳	一・五〇	四三三	日本書莊
紫煙身邊記	土岐善麿	二・〇〇	四三八	書物展望社
文學讀本秋冬の巻	佐藤春夫	一・五〇	四三五	第一書房
トルストイ魂の書	八住利雄	一・五〇	四五六	六藝社
二月	小田貢士	一・〇〇	四一七	興文社
寓話文學	伊豆公夫	一・六〇	四三六	改造社
改造文庫第二部二七三	橋外男	一・〇〇	四三三	春秋社
折たく柴の記	田部重治	一・五〇	四一五	岩波書店
米西戦争の蔭に	デイヴィン	一・〇〇	四三三	春秋社
岩波文庫(四三六) 四三六	阿片常用者の告白	三	四一五	岩波書店
同 日の藝術家の自畫像	名原廣三郎	三	四四〇	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
岩波文庫 一四四〇 肖像畫・馬車 同 (一四一) (一四三) レ・ミゼラブル 一	ゴイブリ 平井肇譯 ヴィクトル・ ユイクトル 豊島與志雄譯	・三〇	一七三	岩波書店	戦を挑むもの 房	松田雪堂	・五〇	一五〇	創人社
文藝評論 續國譯漢文大成文學 部一三 自樂天詩集四 續國譯漢文大成經子史 部七 資治通鑑目錄上	中條百合子 鶴田久作 同	・三〇 ・三〇	二八六 六	國民文庫 刊行會社	乳 農民作家 創作集	中條百合子 鍵山博史	・三〇 ・三〇	三三三 三〇九	竹村書房 日新閣
明 朗 雜 談	平尾善保	一〇〇	七三	同	啄木短歌評釋	矢代東村 渡邊順三	一〇〇	一〇三	泰山房
一 政 隨 筆	中川一政	二〇〇	四二	日本評論社	壯 關鐵腕遺稿集	林房雄	一五〇	一四四	第一書房
ヒマラヤに挑戦して	フリッソ 小池新一譯	一五〇	一〇六	河出書房	萬葉集草本考(四)	關壽野	非	四七	關壽野
冬 雲 雀	水原秋櫻子	一五〇	三〇	改造社	現代源氏物語(中)	岡不崩	七五	六三	建設社
ルネイサンスの 根本概念	岩月太刀夫	二五〇	四三	興文社	語譯 川柳江戸行事	與謝野晶子	一八〇	七四	非凡閣
ツルゲ眞實の書(人生) ネーフ眞實の書(叢書)	米川正夫	五〇	二九	金星堂	岩波文庫 一四三三—一四三四 評釋 猿 集	幸田露伴	四〇	二七	岩波書店
印度文學讀本	平等通昭	二〇〇	三七	印度學研究會	日 丸讀本	相馬基	三〇	二八	東京日日新聞 發行所
長篇詩 敘事詩 オヤケ アカハチ	伊波南哲	二〇〇	四二	株式會社	田園詩人 陶淵明 集	上村忠治	一〇〇	一八〇	春秋社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
芳賀矢一文集 内田嘉吉文庫 稀觀書集覽	芳賀 權 故内田嘉吉 氏記念事業 實行委員	三・五〇	一〇七	富山房	日本古文化研究報告 三 阿蘭陀風説書の研究	日本古文化 研究所	三・五〇	一〇三	關書院
學藝窓 夜話	山岸光宣	一五〇	三七	東宛書房	訂改漢字音の系統 (國文學研究 神祇文學篇)	武田祐吉	三・八〇	四三	大岡山書店
江戸時代の男女關係	田中香涯	一六〇	二八	内外出版社	高等國文法新講 (品詞篇)	木枝増一	五・五〇	九三	東洋圖書 株式會社
俳句作法七講	吉田冬葉	一五〇	五二	交蘭社	(學習指導の研究二) 國語	岩波茂雄	非	六三	岩波書店
松坂文藝史	櫻井祐吉	非	七四	比左古文庫	日本語原の心理的解釋	安井洋	一・三〇	三三	刀江書院
青春詩集	根岸逸郎	二・八〇	七四	交蘭社	支那言語學概論	岩村忍 魚返善雄	四・〇〇	三五	文求堂書店
舞踏藝話	坂東三津五郎 坂東三郎 坂東三郎	四・八〇	二九	建設社	三月				
淨瑠璃所作事全覽	坂東三郎	四・八〇	二九	建設社	續國譯漢文大成資治通 鑑經子史部(一)目錄下	鶴田久作	三・六〇	六四	國民文庫 刊行會
戦ひ勝つ人の道	市原要	一・八〇	一三	春潮社	續國譯漢文大成文學部 一六 蘇東坡詩集(三)	同	三・九〇	九三	同
目醒時計	淺見淵	一・五〇	二八	赤塚書房	學藝わが鑑賞の世界 隨筆	本間久雄	一・五〇	三五	東宛書房
續壹岐島方言集	山口麻太郎	三・〇〇	九〇	春陽堂書店	春秋左氏傳新講	島田鈞一	二・三〇	四〇	有精堂出版部
隨筆 凡夫の道	曉鳥敏	二・〇〇	五二	新英社	隨筆 多角鏡	西村眞次	三・〇〇	四四	章華社
日本文學原論	藤村作	三・八〇	五四	同文書院	賢集	木々高太郎	一・三〇	二三	版畫莊
ねごと草(下)	山田清作	非	三	山堂	柳櫻	石川淳	一・七〇	三九	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
國語史 近世篇	湯澤幸吉郎	一・三〇	四二五	刀江書院	徒然草の鑑賞とその批評	川島益太郎	二・三〇	四四九	大同館書店
歌稿浮 巢	長塚節	二・〇〇	四一冊	書物展望社	象徵主義の文學	アーサー・シモンズ	二・〇〇	四三九	白水社
吐芳庵漫語	高井三郎	一・七〇	四三三	高志書房	日本文學通史	次田潤	二・〇〇	四三六	明治書院
雨安居莊雜筆	伊藤孝道	二・〇〇	四二九	信正社	續村里生活記	結城哀草果	二・〇〇	四四七	岩波書店
東洋古典物語	柳田泉	一・五〇	四四七	千倉書房	日本永代藏新講	大藪虎亮	四・八〇	四六三	白帝社
書紀集 解中卷	河村秀根		四三七	國民精神文化研究所	可樂先生詠歌	乳井龍雄	非	四六三	乳井龍雄
自他辭書	石川縣圖書館協會		四一三	圖書館協會	複刻日本永代藏	來島捨六	六・五〇	四六三	山海堂出版部
一日の放樂	森田草平	二・〇〇	四三四	人文書院	十三松堂閑話錄	正木直彦	二・五〇	四三三	相模書房
拾芥抄紙背文書	同	非		古典保存會	文學讀本春夏の卷	橫光利一	一・五〇	四四一	第一書房
拾芥抄紙背文書	同	非		事務所	紀行文・俳文	高濱虛子	二・五〇	四四一	改造社
文藝朱線	吉江喬松	二・〇〇	四三三	人文書院	櫻と日本民族	佐藤太平	一・三〇	四三三	大東出版社
上に立つ人の書	前波仲子	一・五〇	四三九	教材社	抄	岡山巖	二・〇〇	四三六	人文書院
吐芳庵漫語	高井三郎	一・七〇	四三三	高志書房	現代文學鑑賞原論	湯地孝	五・五〇	四五六	山海堂出版部
現代の文學(一)	高橋健二郎	一・五〇	四三七	建設社	寸感抄	岡山巖	二・〇〇	四三六	人文書院

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
俳句と日本國民性	杉田飄村	一・八〇	四二八	關谷書店	菊以後	伊原青々	二・〇〇	四二九	相模書房
スタンダール選集(七)	佐藤正彰	一・五〇	四三四	竹村書房	現代文學鑑賞原論	湯地孝	五・五〇	四五六	山海堂出版部
全輯百間隨筆(五)	内田百間	一・五〇	四四〇	版畫莊	山鹿素行の配所殘筆	紀平正美	一・五〇	四三六	日本文化協會
森の小徑	若山牧水	一・五〇	四三三	第一書房	小勝特選落語集	高木義賢	一・〇〇	四四〇	大日本雄辯會
文藝化せられたる楠公	堀江秀雄	一・二〇	四三九	奉公會	金語樓新作落語集	同	一・〇〇	四四三	同
隨筆野人言	猪狩史山	一・五〇	四四三	香蘭社	文學讀本春夏の卷	佐藤春夫	一・五〇	四三三	第一書房
ロレンス文學論	伊藤整	一・五〇	四三五	昭森社	綜合古事記讀本 上	荒深道太郎	二・〇〇	四二八	純正眞道本部
傳藤原行成	武田基一	二・三〇	四一冊	武田墨彩堂	世界よ何處へ行く	増富平藏	一・五〇	四三三	第一書房
舶來雜貨店	獅子文六	一・〇〇	四三四	白水社	新聞記者の道草	山田司海	一・三〇	四三五	海外之日本社
改註日本永代藏(上)	守隨憲治	三・八〇	四三四	山海堂出版部	明治文學書目	村上濱吉	六・〇〇	四八〇	村上文庫
四月					夜隨筆	中條百合子	一・五〇	四三九	白揚社
萬葉集新抄	小泉芝三	一・六〇	四二七	栗田書店	福澤文選	宮崎友愛	一・五〇	四三九	慶應義塾
シニイクスピアから	イボリト・テリス	二・八〇	四三六	大山書店	佐藤繁彦著作集 二	ルツタ	一・八〇	四三四	研究會
眞義根譚	立木欣一	一・八〇	四三三	教材社	愚談漫談	德川夢聲	一・三〇	四四〇	實業之日本社
評論集婦人と世相	山川菊榮	一・五〇	四二五	北斗書房					

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
日本自殺考	牧忠勝	一・三〇	一〇一	關西出版	全輯百間隨筆(四)	內田百閒	一・五〇	一〇三	版畫莊
詩經國風篇研究	松崎鶴雄	三・六〇	一〇六	第一出版社	續國譯漢文大成文學部 高青邱詩集(三)	鶴田久作	一・八〇	一〇九	國民文庫
自治學文化篇	長野朗	二・三〇	一〇五	建設社	同 經子史部二一 宋名臣言行錄	同	二・三〇	一〇三	同
英米文藝隨筆	日高只一	一・八〇	一〇六	日本書莊	紫筠堂	櫻井新太郎	非	一〇六	櫻井新太郎
大和魂	鹽見高男	三・〇〇	一〇五	大日本護國會	近代日本文學評論史	土方定一	一・五〇	一〇〇	西東書林
現代俳句の展望	上田都史	三・五〇	一〇四	昭森社	明治代表詩人	河井醉茗	一・五〇	一〇三	第一書房
窄き門・イザベル	竹内道之助	一・〇〇	一〇三	三笠書房	動くジャナーリズム	四至本八郎	一・五〇	一〇六	モンド社
連歌概説	山田孝雄	三・五〇	一〇五	岩波書店	トルストイ最後の日記	文學アカデ 八住利雄譯	二・五〇	一〇七	栗田書店
西洋古典物語	工藤直太郎	一・五〇	一〇三	千倉書房	萬葉集百話	佐々木信綱	一・五〇	一〇五	明治書院
自由律俳句入門	荻原井泉水	一・六〇	一〇七	大東出版社	日本金石文綱要	入田整三	一・六〇	一〇六	雄山閣
淨婚記	細田民樹	一・八〇	一〇七	中央公論社	大分縣方言の研究	三ヶ尻浩	二・三〇	一〇七	朋文堂
レル正義の書	逸見廣	五・〇〇	一〇五	金星堂	ゴリキイ文學論	大竹博吉	一・三〇	一〇三	言叢社
名文鑑賞讀本明治前期	高須芳次郎	四・〇〇	一〇〇	厚生閣	ヘレンケラー書簡集	堤芳江	一・五〇	一〇二	一粒社書店
續もめん隨筆	森田たま	一・七〇	一〇三	中央公論社	近代日本文學	舟橋聖一	一・三〇	一〇八	中興館

文藝學の方法	熊澤復六	一・八〇	一〇一	清和書店	隨筆赤穂浪士	高須梅溪	一・五〇	一〇五	モナス
女人彩色	丹羽文雄	一・六〇	一〇四	河出書房	日本文學概論	伊藤康安	二・五〇	一〇三	木村書店
行云流水	竹下澄人	一・八〇	一〇八	協和書院	高等國文法概説	高橋龍雄	三・〇〇	一〇四	中文館書店
休日の書	太田黒元雄	一・五〇	一〇四	第一書房	上古文學の検討	佐藤仁之助	一・五〇	一〇三	敬文堂書店
頼山陽日本樂府評釋	谷口廻瀾	二・〇〇	一〇三	モナス	新講國語學概論	塚本勝義	三・三〇	一〇三	大明堂書店
唯物論	太田武夫	一・八〇	一〇八	三笠書房	如是説法	フリードリヒ 登張竹風譯	一・八〇	一〇九	山本書店
全書性	尾崎一雄	一・五〇	一〇六	砂子屋書房	街頭評論	岡邦雄	一・八〇	一〇四	相模書房
暢氣眼鏡	東京帝大 獨逸文學會	二・五〇	一〇三	建設社	來るものゝ爲に	吉岡彌生	一・八〇	一〇三	同
獨逸文學研究	五來素川	一・五〇	一〇六	東宛書房	東京文理科大學 文科紀要(一四)	東京大學	五・〇〇	一〇四	東京大學
學藝動亂の靜觀	淀野隆三	一・五〇	一〇三	竹村書房	現代日本詩人論	草野心平	一・八〇	一〇七	西東書林
アンドレ ジイドレ文學讀本	岩崎四郎	一・〇〇	一〇三	黎明社	すぼいしぶき 隨筆集	木島平治郎	一・〇〇	一〇七	輝文堂書房
無條約時代を語る	仁木松雄	一・八〇	一〇五	浩文社	一九三七年汎日本 青年詩集NYGP	土曜會	一・五〇	一〇三	田村政由
興國漢詩講義	夢野久作	一・六〇	一〇七	春秋社	槐記註釋上・中・下	佐伯大太郎	三・〇〇	一〇三	立命館出版部
山羊鬚編輯長	守隨憲治	一・八〇	一〇二	前野書店	映畫探求	滋野辰彦	一・九〇	一〇五	第一藝文社
國文學史總論	矢崎彈	一・六〇	一〇三	昭森社					
過渡期文藝の斷層									

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
殷契粹篇	郭沫若	二〇〇	五册	文求堂書店	古事記のお話	土永國男	一三〇	三三	十字書房
女四書	鈴木忠房	一六〇	三〇	東邦書房	再建	島木健作	一六〇	六六	中央公論社
清獻遺言	鈴木初雄	五〇	二六	三教書院	生態解釋の眞髓と其の取扱の要訣	神戸伊三郎	三〇〇	二二	藤井書店
文章讀本	菊池寛	一五〇	三七	モダン日本社	續國譯漢文大成文學部一七蘇東坡詩集四	鶴田久作	七六	七六	國民文庫會
フランス通信	瀧澤敬一	一六〇	五八	岩波書店	國譯資治通鑑經子史部八	同	九五	同	同
源氏物語總釋(二)	風卷景次郎	二〇〇	五七	樂浪書院	綜合古事記純正講本(一)	荒深道太郎	一〇〇	一〇	純正眞道本部
戀愛讀本	守野千代	一八〇	五九	中央公論社	和漢書道講話	入澤昕江	二〇〇	三三	明星堂書店
漱石の讀書と鑑賞	佐藤春夫	二二〇	五二	小出書店	富士谷御杖集(二)	國民精神文化研究所	五五	五五	國民精神文化研究所
相馬御風歌謡集	相馬御風	二二〇	四〇	厚生	格蘭ト御對話筆記	同	二八	同	同
ルナル日記一九〇七—一九一〇	岸田國士	一五〇	三一	白水社	名文鑑賞讀本(江戸前期)	高須芳次郎	四〇	四〇	厚生
郷愁	窪田空穂	二二〇	三一	書物展望社	短歌鑑賞讀本	高田浪吉	二〇〇	三三	三省堂
古事記(下)	古典保存會	非	三	古典保存會	光る源氏	曾根豐祐	三〇〇	四八	光る源氏叢書會
カレワラ	森本覺丹	五五〇	六〇	日本書莊	短歌詞章	半田良平	二〇〇	六二	人文書院
國譯書論集成	角田秧村	三〇〇	二七	東學社	自由詩以後	百田宗治	一五〇	三四	版畫莊

萬葉延喜染裂鑑卷一	後藤博山	二〇〇	一〇	萬葉延喜會	白鷺集	金子薰爾	一八〇	二五〇	新潮社
海表集	日夏耿之介	二二〇	一七	野田書房	詩篇に生きた人々	原田美實	六〇	一〇	一粒社
隨筆砂上偶語	林安策	一三〇	三〇	實業之日本社	小林多喜二隨筆集	長尾桃郎	一三〇	一〇	書物展望社
諸大名の學術と文藝の研究	福井久藏	一〇〇	八〇	厚生	林芙美子選集	林芙美子	三九	九	改造社
中朝事實	鈴木初雄	五〇	二五	三教書院	五百年句	高濱虛子	二九〇	四五	同
柿本人麿評釋篇卷之上	齋藤茂吉	五五〇	四九	岩波書店	世界の處女地を行く	三好武二	二六〇	三三	信正社
街路樹	中勘助	二〇〇	三五	同	秋	芹澤光治良	一七〇	四〇	竹村書房
やさしい民謡讀本	西川林之助	一〇〇	二八	松光書院	唯物論全書	本間唯一	八〇	三九	三笠書房
隨筆一絃琴	栗原嘉名芽	一五〇	二六	古今書院	七十年を顧みて	齋藤彌太郎	一〇〇	三一	齋藤彌太郎
獨居斷想	門脇正男	二五〇	二七	文求堂書店	未見への出發	安積得也	一〇〇	三〇	三省堂
幾山河	若山牧水	一五〇	三九	第一書房	橫光利一の藝術思想	由良哲次	八〇	九	沙羅書店
手かきみ	津輕照子	一八〇	三七	人文書院	青葉集	吉野信次	二〇〇	三四	相模書房
青年教師に送る	杉平儔治	一八〇	三六	文化書房	道中閑話	和田篤憲	一五〇	二九	協和書院
旅窓讀本	佐藤惣之助	一〇〇	四三	學藝社	旅窓讀本	萩原井泉水	一〇〇	三七	學藝社
					シエークスピアその世界觀と藝術	馬上義太郎譯	一五〇	二五	美瑛堂書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
詩篇神風	土井晚翠	・七	一〇二	春陽堂書店	天夢遺稿	明石吉五郎	非	一〇八	千葉彌次馬
超日月光	松原致遠	・五	一〇七	朝日新聞社	俳文學研究	各務虎雄	・三	一〇九	文藝學社
對源氏物語新釋(一)	吉澤義則	・二	一〇五	平凡社	履蹤錄	谷垣邦義	非	一〇九	谷垣邦義
文學における人間の生成	藤原定一	・一	一〇七	文學社	夢作隨筆	中村武志	・一	一〇九	新日本社
荷田春滿翁二百年祭記念寶永四年日記並書簡集	佐伯有義	・一	一〇三	荷田春滿翁二百年記念	世界文豪讀本	高橋健二	・一	一〇五	第一書房
マルキ・ド・サド	式場隆三郎	・一	一〇六	昭森社	俳句の隨筆	萩原井泉水	・一	一〇五	實業之日本社
現代ユーモア傑作集	オールユイ	・六	一〇五	森田書房	旅窓讀本	中川一政	・一	一〇三	學藝社
水野博士論策と隨筆	モア編輯部	・六	一〇九	水野鍊太郎先生古稀祝賀會事務所	同	北原白秋	・一	一〇六	同
古稀記念	松波仁一郎	・非	一〇九	會務所	海の旗風(大正篇)	中島武	・一	一〇三	芙蓉社
二	育徳財團	・非	一〇三	育徳財團	大衆漫才讀本	林廣次	・一	一〇五	吉本興業社
童話と隨筆	小川未明	・一	一〇三	日本童話協會出版部	一茶志多良	萩原井泉水	・一	一〇三	岩波書店
文學生活	アナトール・フランクス	・一	一〇三	白水社	遺稿志多良	尾山篤二郎	・一	一〇五	交蘭社
日本的なるもの研究	渡部政盛	・二	一〇三	啓文社	新講短歌の作り方	北原白秋	・二	一〇六	アルス
三奏本 金葉和歌集	國民精神文化研究所	・一	一〇三	國民精神文化研究所	全貌(五)	文化研究所	・一	一〇六	文化研究所
源氏物語(三)	鈴木初雄	・一	一〇三	三教書院	川立宗繼文書	文化研究所	・一	一〇六	文化研究所

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
和漢朗詠集	上縣治朗	同	一〇四	同	東亞の子かく思ふ	蔡培火	・一	一〇三	岩波書店
名文鑑賞讀本(明治後期)	高須芳次郎	・一	一〇四	同	青年に贈る	橋本欣五郎	・一	一〇五	平凡社
能藝雜考	竹腰健造	・非	一〇七	竹腰健造	ミクロネシア語の綜合研究	松岡靜雄	・一	一〇五	岩波書店
童心は微笑む	蘆谷蘆村	・一	一〇四	日本童話協會出版部	萬葉集研究年報(七)	藤森朋夫	・一	一〇七	同
平安朝文學史上	五十嵐力	・一	一〇五	東京堂	倭漢滿三合詩經	小山愛司	・一	一〇〇	中央學會
現代人の建設	佐藤正彰	・一	一〇四	創元社	說經節正本集(二)	藤原弘重	・四	一〇三	大岡山書店
判任官の子	十和田操	・一	一〇三	赤塚書房	タバコ・ロード	アリス・スミヤ	・一	一〇五	第一書房
國文學研究(八)	早稻田大學國文學會	・二	一〇三	早稻田大學國文學會	新しき感情	北村小松譯	・一	一〇二	詩集刊行會
七月	編者	・一	一〇三	同	落原拾葉(六)	林時民	・一	一〇二	同
日本作家論	國文學試論編輯所	・一	一〇三	春陽堂書店	田島氏文書	上伊那郡教育會	・非	一〇三	鮎澤印刷所
演劇明暗	西村晉一	・一	一〇九	沙羅書店	雅庵文集	尾崎久彌	・非	一〇六	田島仲高
フロオベール隨想錄	向田悌介	・一	一〇八	平原社	元曆校本萬葉集(一)	鶴橋泰二	・五	一〇三	靜交俱樂部
西鶴襟俎	瀧田貞治	・二	一〇八	巖松堂書店	強齋先生雜話筆記(二一八)	武田基一	・二	一〇三	武田墨彩堂
青年日本の指標	室伏高信	・一	一〇四	モナス		岡次郎	・一	一〇八	虎文齋

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
餘慶編	岡次郎	二〇〇	四〇〇	文齋
國書論集成(十一)	三好凌石	二〇〇	一六〇	東學社
文體論序說	吉武好孝	二〇〇	四〇〇	不老閣書房
餘生隨筆	森岡守成	一〇〇	二〇〇	日本國防協會
落葉日記	岸田國士	二〇〇	三〇〇	白水社
戲曲芭蕉終焉記	足立直郎	一六〇	三〇〇	協和書院
日本革新の書	武藤貞一	二〇〇	三〇〇	モダン日本社
羽陵餘譚(甲部・乙部)	田中慶太郎	一六〇	二五〇	文求堂書店
鑑賞短歌大系 五	北原白秋	一〇〇	二〇〇	藝社
萬葉戀愛歌讀本	折口信夫	一〇〇	二〇〇	藝社
實朝・良經讀本	同	一〇〇	二〇〇	藝社
隨筆變物集	功	一〇〇	二〇〇	明治書房
名文鑑賞讀本(古代)	高須芳次郎	一〇〇	二〇〇	厚生堂
西歐に於ける日本文學	久松潜一	二〇〇	三〇〇	至文堂
人間道中	後藤靜香	一〇〇	二〇〇	教育會社
リタの手紙(三)	リタ	一〇〇	三〇〇	母と子の友社
萬葉集語法私論	萬葉集	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
カント著作集一八	カント	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
ランボオの手紙	ランボオ	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
世界文豪讀本	世界文豪	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
世界名著讀本五	世界名著	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
ノートルダム大寺院	ノートルダム	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
八月	八月	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
蘆の花	蘆の花	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
フランス現代文學の思想的對立	フランス	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
近世歌謡の研究	近世歌謡	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
人生私語	人生私語	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
源氏物語總釋(三)	源氏物語	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
新校萬葉集	新校萬葉集	一〇〇	三〇〇	永井善太郎
兒童言語學	兒童言語學	一〇〇	三〇〇	永井善太郎

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
杏林清風	中野康章	非	四〇〇	中野康章
講演集(一)	藤谷安宅	一〇〇	二〇〇	豐多摩刑務所
甲南閑話	平尾善保	一〇〇	二〇〇	職員俱樂部
彫魂錄(三)	影山正治	一〇〇	二〇〇	日本電話建物株式會社出版部
同(四)	同	一〇〇	二〇〇	同
ラミエル	スタン・ダール	一〇〇	二〇〇	竹村書房
スタンダール日記書簡集	河盛好藏	一〇〇	二〇〇	同
世界文豪讀本 トルストイ篇	氷川正夫	一〇〇	二〇〇	第一書房
未刊國文古註釋大系 (一〇〇)	吉澤義則	非	五七	帝國教育出版部
橘曙覽書簡集	永井環	二〇〇	二五〇	岩波書店
素人の店頭學	相馬愛藏	二〇〇	四二〇	トウシン社
隨筆・浮雲	菅井北夫	二〇〇	三〇〇	躍進社
ジイド新日記抄	小松清	一〇〇	二五〇	改造社
年刊歌集 (昭和十二年度版)	大日本協會	二〇〇	四〇〇	同
令女文學讀本	大木博夫	一〇〇	三〇〇	日本書莊
三家詩よ 郷土の詩經學	三家詩	一〇〇	二〇〇	修養社
隨筆寫經階梯	隨筆寫經	一〇〇	二〇〇	藝社
國語史文字篇	國語史	一〇〇	二〇〇	藝社
林芙美子選集(一)	林芙美子	一〇〇	二〇〇	藝社
アンドレ・ジイド新日記抄	アンドレ・ジイド	一〇〇	二〇〇	藝社
續國譯漢文大成文學部元	續國譯漢文	一〇〇	二〇〇	藝社
蘇東坡詩集六	蘇東坡	一〇〇	二〇〇	藝社
國譯廿二史劄記下	國譯廿二史	一〇〇	二〇〇	藝社
日本書紀新講(中)	日本書紀	一〇〇	二〇〇	藝社
隨筆小春秋	隨筆小春秋	一〇〇	二〇〇	藝社
蒼風隨筆	蒼風隨筆	一〇〇	二〇〇	藝社
文章心理學	文章心理學	一〇〇	二〇〇	藝社
鑑賞短歌大系六 東歌・大伴集讀本	鑑賞短歌大系	一〇〇	二〇〇	藝社
大川節尚	大川節尚	一〇〇	二〇〇	關書院
上田寧	上田寧	一〇〇	二〇〇	吉岡正春
山田孝雄	山田孝雄	一〇〇	二〇〇	刀江書院
林芙美子	林芙美子	一〇〇	二〇〇	改造社
小松清	小松清	一〇〇	二〇〇	同
鶴田久作	鶴田久作	一〇〇	二〇〇	國民文庫
高須芳次郎	高須芳次郎	一〇〇	二〇〇	國民文庫
鶴田久作	鶴田久作	一〇〇	二〇〇	國民文庫
同	同	一〇〇	二〇〇	國民文庫
飯田季治	飯田季治	一〇〇	二〇〇	同
石黒魯平	石黒魯平	一〇〇	二〇〇	同
勅使河原	勅使河原	一〇〇	二〇〇	同
波多野完治	波多野完治	一〇〇	二〇〇	同
折口信夫	折口信夫	一〇〇	二〇〇	同
永井善太郎	永井善太郎	一〇〇	二〇〇	同
岩波書店	岩波書店	一〇〇	二〇〇	同
秋豐園出版部	秋豐園出版部	一〇〇	二〇〇	同
三省堂	三省堂	一〇〇	二〇〇	同
藝社	藝社	一〇〇	二〇〇	同

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
鑑賞短歌大系八 六歌仙・古今選者讀本	北原白秋 折口信夫	・六	函一八九	學藝社	物の見方考へ方	鮎川義介	・五	函一五五	實業之日本社
指微韻鑑	古典保存會	非		古典保存會	女性短歌讀本	今井邦子	・三	函四六	むらさき出版部
綜合古事記純正講本 (一)	荒深道太郎	一・五	函三三	純正眞道本部	小野道風筆(玉泉帖)	武田基一	・二〇〇	變形	武田墨彩堂
殘響	兼常清佐	二・〇	函四二	岩波書店	神皇正統記新釋	森山右一	・二〇〇	函三八	大同館書店
私の詩の吟じ方	山田積善	一・三	函二九	同	隨筆問答	内田魯庵		函三一	双雅房
青春賣場日記	獅子文六	・五	函三元	春陽堂書店	二月以後	若宮卯之助	一・八	函三五	東方書房
マルテイの言語學	小林智賀平	二・〇	函三四	興文社	名文鑑賞讀本(大正時代)	高須芳次郎		函四〇	厚生閣
九月					金澤文庫古文書(一)	關靖	非	函四八	幽學社
秋風帖	野上彌生子	二・〇	函二四	相模書房	瀨下玉芝 俳文集 鶴巢反古枕	町田良一	・二五	函一九	古今書院
芭蕉	齋藤清衛	一・〇	函二〇	樂浪書院	石齋隨筆	田邊朔郎		函五八	田邊朔郎
林芙美子選集(三)	林芙美子	一・三	函三六	改造社	ランボオ詩集	中原中也	一・八	函二五	野田書房
吉田絃二郎選集(一)	吉田絃二郎	一・三	函四九	同	落原拾葉(八)	上伊那郡教育會	非	函一三	上伊那郡教育會
大日本古文書 (家わけ四)	東京帝國大學 國文學部	六・〇	函七〇	東京帝國大學 第一書房	漢詩大觀(下)	佐久節	・八〇〇	函二八〇	關書院
文學讀本(春夏秋冬)	長塚節	一・五	函四一	第一書房	落原拾葉(七)	上伊那郡教育會	非	函二三	上伊那郡教育會

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
國書論集成(一)	角田孤峯	二・〇〇	函六三	東學社	現代學生論	三木清	一・〇〇	函二五	矢の倉書店
世界文豪讀本 ロレンス篇	伊藤整一	・五	函五五	第一書房	偃松の匂ひ	小島鳥水	・三〇	函二九	書物展望社
葉隠(上)	編輯部	・六	函三九	三教書院	山川草木	井伏鱒二	・二〇〇	函三九	雄風館書房
同(中)	同	・六	函二七	同	青年及び壯年(下)	島崎藤村	・二〇〇	函五六	新潮社
鍋島葉隱讀本	大木陽堂	一・〇	函三三	教材社	演說論	八田元夫	一・三	函二七	テアトロ社
論語	佐々木信綱	二・〇	函三四	人文書院	ロダンの言葉	高村光太郎	一・〇	函三〇	叢文閣
歌かたり	原一郎	一・八	函三三	興文社	對源氏物語新釋(二)	吉澤義則	・二八〇	函四六	平凡社
現代詩の問題	雄山閣編輯局	一・五	函三三	雄山閣	平家物語	久松潜一	一・〇	函三八	樂浪書院
趣味の考古學	ポール・ポロ 長谷川善雄譯	二・七〇	函二九	立命館出版部	無からの抗爭	萩原朔太郎	一・五	函三七	白水社
五つの大讃歌	西晋一郎		函三	國民精神文化研究所	貞門時代	藤井乙男		函一七	平凡社
教學と學藝	鶴田久作		函八	國民精神文化研究所	十月				
續國譯漢文大成文學部 經子史部三 通鑑論上	同		函八	國民精神文化研究所	續國譯漢文大成文學部 經子史部二 陶淵明集・王右丞集	鶴田久作		函六元	國民文庫
同 經子文 陶淵明集 王右丞集	同		函八	國民精神文化研究所	國譯讀通鑑論下	同		函三四	同
日本文學の精神	久松潜一	一・〇	函二六	大日本圖書株式會社	日本文化史論纂	加藤玄智	・六〇	函七六	中文館書店
ロテイの日記	落合孝幸	・三	函三三	白水社	日本文化史論纂	加藤玄智	・六〇	函七六	中文館書店
日唐令の研究	加藤泰造	非	函二五	加藤泰造	參宇治拾遺物語新釋	中島悅次	・三八〇	函五八	大同館書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
匠人談義	藤島亥治郎	二・三〇	三九	相模書房	花の位置	林芙美子	一・四〇	三三	竹村書房
リタの手紙	エンリカ・フォ ン・ハンデルトマ ブルノ・フリカ	・七五	二六	母の子の友社	女性線	松田解子	一・三〇	四六	同
寶樹和歌集	伏見宮家	・〇〇	〇	伏見宮家	古鈔本五臣注文選	東方文學院	三・〇〇	一	東方文化學院
書契淵源第五帙	中島 竦	二・〇〇	五册	文求堂書店	アラビヤ年刊歌集	齋藤茂吉	一・五〇	元〇	岩波書店
ロマン・ロラン	片山敏彦	一・五〇	三六	福田久道	名文鑑賞讀本昭和時代	高須芳次郎	〇・〇〇	四六	厚生 生 閣
詩集 帝國情緒	鈴木政輝	三・五〇	四五	書物展望社	アメリカ文學集	山崎一心	三・〇〇	五二	第一書房
日本に捧ぐる力	中崎辰九郎	・七〇	一八	伊藤文信堂	文學讀本 秋冬の卷	横光利一	一・五〇	三四	第一書房
感想影 繪	松本一郎	一・五〇	二〇	時潮社	浮世草子名作集	藤井乙男	〇・八〇	八三	大日本雄辯會 講談社
凡太郎評論隨筆選集	岩船清三郎	非	一九	太陽舎	一茶隨筆	相馬御風	一・五〇	一五	六藝社
林芙美子選集	四林 芙美子	一・三〇	四五	改造社	採訪隨筆	金田一京助	二・〇〇	三七	人文書院
明治文學史 下	本間久雄	非	七〇	東京堂	續ロダンの言葉	高村光太郎	一・〇〇	三三	叢文閣
未刊國文古註釋大系六	吉澤義則	非	四七	帝國教育會 出版部	秋窓記	阿部次郎	一・八〇	六七	岩波書店
隨筆 腰越帖	飯塚友一郎	二・〇〇	三三	書物展望社	萬葉集撰定時代の研究	徳田 淨	四・〇〇	四三	目黒書店
蕉門會 良	今井默夫	一・八〇	二六	信濃民友社	詩	湯淺半月	三・〇〇	五九	アルパ社書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
唐詩評選 下	潘 德衛	五・〇〇	四九	潘 德衛	唐詩評選 上	潘 德衛	四・〇〇	三三	潘 德衛
人間道 中	後藤靜香	一・三〇	三四	教育資料 株式會社	鹿嶺遺稿	加藤忠夫	非	八五	加藤忠夫
隨筆 新雨	内田百閒	二・二〇	三四	小山書店	文藝の日本的形態	大熊信行	一・五〇	三三	三省堂
西藏語文兼綱要	明石惠達	三・〇〇	二二	明石惠達	醉茗詩話	河井醉茗	二・八〇	三三	人文書院
隨筆 黎明をよぶ者	上野いと子	一・三〇	三〇	同志社高等女 學部學友會	世界文豪讀本 ニイチエ篇	阿部六郎	一・五〇	三七	第一書房
歌人内山眞弓	矢ヶ崎 榮次郎	非	三九	歌人内山眞弓 刊行會	花咲く日	大塚幸男譯	一・三〇	三三	同
吾往かかん	中 勘助	二・五〇	三三	岩波書店	中臣祓講義	岡 次郎	〇・四〇	四	虎文齋
言語と文體	小林英夫	三・三〇	五六	三省堂	浮寶隨想	住田正一	一・〇〇	一七	海文堂書店
中朝事實 天廣瀬 豊	〇・〇〇	〇	〇	東京武藏 野書院	吉田絃二郎選集 二	吉田絃二郎	一・三〇	四四	改造社
同 地同	〇・〇〇	〇	〇	立川書店	武藏野に炊ぐ 人を動かす	齋藤清衛	一・八〇	三九	黄河書院
山鹿素行學概論	平尾孤城	二・三〇	一六	立川書店	隨筆 思ひ出草	岡本綺堂	二・〇〇	三六	創元社
承 露 盤	正岡子規	一・八〇	四九	巧藝社	植木良佐文集 上	塚本虎二	〇・七五	三五	相模書房
生活の探究	島木健作	一・八〇	三三	河出書房	十一月	〇・〇〇	〇	刊行會	
風雲文章	尾崎士郎	二・〇〇	二六	雄風館書房	詩集・帝國情緒	鈴木政輝	二・五〇	四五	書物展望社
葉 隱 下	鈴木初雄	六・〇〇	三八	三教書院					

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
讀書の眼	帝國大學新聞社	一・五〇	四二七	帝國大學新聞社
リアリズム文學論	熊澤復六	一・八〇	四一〇	清和書店
藝苑漫筆(五種)	福井久藏	一・二〇	四一六	厚生閣
ホキットマン新研究	清水安治	二・二〇	四三三	清水治作
民族點描	中山太郎	二・〇〇	四三〇	人文書院
世界文豪讀本 ウエルズ篇	深澤正策	一・五〇	四三三	第一書房
土佐方言集	宮地美彦	二・五〇	四四四	富山房
關西學院文學部創立二十五周年記念論文集 未刊國文古註釋大系(七)	松澤兼人	非	四三一	關西學院文學部
萬葉集講義(三)	山田孝雄	七・五〇	四三三	寶文館
隨筆道成寺 名文鑑讀本 (漢詩漢文)	津村秀松	一・八〇	四三三	中央公論社
選擇古書解題	高須芳次郎	非	四三七	厚生閣
股旅の跡	水谷不倒	六・〇〇	四五六	奥川書房
	長谷川伸	二・〇〇	四三七	書物展望社
言語研究(態度篇)	小林英夫	二・八〇	四三〇	三省堂
文化戰線	長野朝	一・五〇	四二五	文化戰線社
日本書紀通證(一)	谷川士清	非	四三三	國民精神文化研究所
和泉式部日記	古典保存會	非	四三三	古典保存會
江戶文藝論考	穎原退藏	三・〇〇	四三八	三省堂
落原拾葉(九)	上伊那	三・〇〇	四三三	上伊那郡教育會
對源氏物語講話(三)	島津久基	二・九〇	四三〇	中興館
古語拾遺	明治聖德會	三・五〇	四一六	明治聖德會
風流連理戀(中之卷)	山田清作	非	四一六	米山堂
懷硯(一)	同	非	四四〇	同
林芙美子選集(二)	林芙美子	一・三〇	四四九	改造社
物語日本文學第二期刊 六西行一代物語・實期 一代物語	藤村作	非	四三三	至文堂
同	同	非	四三三	同
吉田絃二郎選集(四)	吉田絃二郎	一・三〇	四四四	改造社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
現代學生論	三木清	一・〇〇	四二五	矢の倉書店
越後方言考	小林存	四・〇〇	四三四	高志社
上海通信	木村毅	一・八〇	四三三	改造社
蘇峰百絶	徳富猪一郎	一〇・〇〇	四三〇	草木屋出版部
十周年哲學史學文學論 記念哲學史學文集	九州帝國大學 學法文學部	五・八〇	四二七	岩波書店
日本文化と英文學	大澤衛	一・五〇	四三九	協和書院
隨筆貞女	森田たま	一・七〇	四三一	中央公論社
學生生活短篇集	武田麟太郎	一・五〇	四三三	矢の倉書店
評註小學國原據尋三 口譯語讀本集成四篇	新田寛	三・〇〇	四三四	厚生閣
十二月				
南洲手抄言志錄講解	藤井金吾	一・〇〇	四二五	共盟閣
物語日本文學五 保元物語平治物語	藤村作	非	四三三	至文堂
同	同	非	四三三	同
竹田出雲名作集	同	非	四三三	同
新時代の廣告文學	市山盛雄	二・三〇	四三四	大日本出版社
神韻鈔	今井孝三郎	非	四三四	今井孝三郎
文藝鑑賞新講	小山龍之輔	二・〇〇	四四八	潮社
隨想と回想	瀧川幸辰	二・〇〇	四三九	立命館出版部
隨富士を仰ぎて	貝島慶太郎	非	四二八	貝島慶太郎
古今和歌集評釋(下)	窪田空穂	四・八〇	四三二	東京堂
稼堂集	黒本植	非	四三三	稼堂先生著書會
言語文化體系	晚翠會	三・〇〇	四一九	晚翠會
新羣書類徒(四索引二)	川俣馨一	非	四六八	内外書籍株式會社
隨筆集春秋帖	宮城道雄	一・七〇	四四八	小山書店
隨筆集北溟	内田百閒	一・二〇	四三五	同
新萬葉集別卷	山本三生	非	四五六	改造社
蜻蛉日記講義	喜田義勇	五・八〇	四六六	東京武藏野書院
支那書簡文集成	高森強太郎	三・八〇	四六四	三泰書房
俳句入門	高濱虛子	一・五〇	四三〇	大洋社
讀書管見	桐島友一	非	四二五	同
訓吉田松陰殉國詩歌集	福本義亮	六・五〇	四〇八	誠文堂新光社

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
國文學研究(九)	早稻田大學 國文學會	二・五	三〇六	早稻田大學 國文學會
隨筆 朝食前の レセプション	戸川秋骨	一・五	四二八	第一書房
學問と世界の眞實	田村徳治	一・八〇	四二九	立命館出版部
政治 戦争と戦争 詩集	田中喜四郎	一・三〇	四三〇	日本社
遊 歩 道	萩原井泉水	一・八〇	四三三	むらさき 出版部
松本榮司遺稿集一 人間批評及び世界觀	松本榮輔	五・〇〇	四三七	叢文閣
マルクスの藝術論	熊澤復六	六・八〇	四三九	清和書店
古典の親衛隊	芳賀 檀	二・五	四四五	富山房
世界文豪讀本 ドストイエフスキイ篇	神西 清	一・五	四四五	第一書房
白文訓點 小學新釋	岡田 稔	二・三〇	四三九	大同館書店
嚴密對照 書誌學論考	長澤規矩也	二・五	四三八	松雲堂書店
安井先生 頌壽記念	武田祐吉	三・八〇	四四二	大岡山書店
國文學研究 歌道篇	渡邊環美	二・三〇	四四二	精神文化之 統社
世界的精神文化の統一	和田黎三	二・四〇	四三七	京文社書店
ジイド 讀本				
讀 書 法	戸坂 潤	一・五	四三五	三笠書房
ジイド・日記抄	淀野隆三	一・三〇	四三三	同
雲 の 峰	谷川清一	非	四三九	谷川清一
歌人赤彦の鑑賞	高田浪吉	一・八〇	四三五	三省堂
現代處女讀本	福井才平	一・五	四三六	大日本出版社
植木良佐文集(下)	塚本虎二	七・〇〇	四七〇	植木良佐文集 刊行會
リタの手紙(五)	ブルノ・ プリカ	七	四一九	母の子の友社
爐 邊 閑 想	奥田正造	非	四	日本文化協會 出版部
時 花 唄(下)	山田清作	非	四	米山堂
ルナル日記 (一八八七—一八九三)	岸田國士	一・八〇	四三六	白水社

(10) 小説

○小説物語○戯曲

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
藝者屋の先生	和田邦坊	一・五	四四三	新陽社
ヘルン 善人の書	十一谷 義三郎	五	四三三	金星堂
王冠を揺がす戀 ンブンソン夫人秘話	東京毎日新聞社 大阪毎日新聞社	五	四三〇	東京日日 新聞發行所
飼 ひ 難 き 鷹	石川達三	一・六〇	四三三	新英社
これが世間だ!	峰島幸夫	一・五	四三六	富士書房
山窩 瀨降と山双	三角 寛	一・五	四三六	春陽堂書店
戯 畫 漫 文	長谷川春子	二・〇〇	四二四	昭森社
小説の書けぬ小説家	中野重治	一・三〇	四三〇	竹村書房
描寫のうしろに 寝てゐられない	高見 順	一・四〇	四三〇	信正社
江戸 役 者	邦枝完二	一・五	四三九	新日本社
犯罪實話集	杉本清一	一・三〇	四二七	延岡新聞社
三角の雪	木村錦花	一・九〇	四三三	三笠書房
女の日記	林 美美子	一・三〇	四三三	第一書房
深山の棲息者たち	加藤博二	一・五	四二〇	日本公論社
村落 裸 記	和田 傳	一・三〇	四三三	協和書院
改造文庫二ノ一三五 勝利と敗北	シエストフ 中山省三郎譯	三	四一七	改造社
同 體 の 惡 魔	レイモン・ ラフアイゲ	三	四一七	同
同 チロルの谷間他三篇	外 井 雄雄 共譯	三	四一七	同
同 日本小説文庫三九四 唐人	D. H. ロレンス 織田正信譯	四	四二二	同
同 岩波文庫三三三 はるかな國とほい國	ハドスン 壽岳しづ譯	四	四三八	春陽堂書店
同 クレーヴの奥方	ラフアイゲ 生島意一譯	四	四二二	岩波書店
同 ジャンケルブツク	キツプリング 中村爲治譯	四	四三六	同
死と闘ふ人々	ポールド・ フルノフ	一・八〇	四四七	第一書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
二重人格の女	中村古峽	一・五〇	四三二	大東出版社
名士と名妓	菊池武徳	一・五〇	四一五	モダニヤ社
梶井基次郎小説全集上	梶井基次郎	一・三〇	四四六	作品社
同	下同	一・三〇	四三五	同
流轉記	稲畑太郎	一・二〇	四三五	同
罪の女裁判實話	瀬戸口寅雄	一・五〇	四〇〇	柳香書院
盲目物語	谷崎潤一郎	一・〇〇	四二二	創元社
沈黙の環	谷崎潤一郎	一・六〇	四三五	日本公論社
チエリ微笑の書	中村白葉	一・五〇	四二七	金星堂
ホフ微笑の書	中村白葉	一・五〇	四二七	金星堂
南洋千夜一夜物語	仲原善徳	一・五〇	四二五	日本書房
長篇東京市電	竹内昌平	一・三〇	四三三	人民社
小説小織	田信長上	一・八〇	四五六	春秋社
小説小織	田信長上	一・八〇	四五六	春秋社
小説萬有引力	永松定	一・三〇	四二六	協和書院
悦ちやん	獅子文六	一・五〇	四四二	大日本雄辯會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
旅人の眼	川島理一郎	一・五〇	四四四	龍星閣
眞珠郎	横溝正史	二・〇〇	四三六	人社
鐵兵十萬	櫻井忠温	一・八〇	四四三	大都書房
青春迷路	山中峯太郎	一・四〇	四四六	新潮社
女よなぜ泣くか	中村武羅夫	一・四〇	四四六	同
珊瑚の鞭	加藤武雄	一・四〇	四四四	同
時計	菊池武英譯	一・七〇	四七三	誠社
吐芳庵漫語	高井三郎	一・七〇	四三三	高志書房
放送懺悔	永田秀次郎	一・三〇	四三三	實業之日本社
戯曲櫻散る夜	仲木貞一	一・三〇	四三三	東京朝野新聞出版部
道頓堀の女	藤澤桓夫	一・四〇	四三九	信正社
Yの悲劇	井上良夫譯	一・七〇	四七三	春秋社
マダムレア戯曲集	早川三代治	一・五〇	四三三	早川三代治
迎	丹羽文雄	一・三〇	四一七	双雅房
田舎がへり	林芙美子	一・二〇	四二五	改造社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
緑衣の鬼	江戸川亂歩	一・五〇	四六五	春秋社
大	藤澤桓夫	一・五〇	四三三	中央公論社
四月	大	一・五〇	四三三	中央公論社
踏まぬ影	清野謙次	二・五〇	四三四	人文書院
實例法醫學と犯罪捜査實話	小南又一郎	一・五〇	四三〇	同
花影流水	木村富子	非	四一五	中央演劇社
茶煙閑語	岩佐東一郎	一・八〇	四二五	文藝汎論社
ホーソン奇譚集	村山勇三	一・〇〇	四三四	春秋社
共存世はなさけ	小瀧淳	一・〇〇	四二七	交友堂書店
史の日満	關東軍	非	四二七	健國講演會
良人の貞操	吉屋信子	一・七〇	四三〇	新潮社
脳病院風景	杉村幹	一・三〇	四三三	北斗書房
婚約時代	佐々木邦	一・八〇	四三三	春陽堂書店
集金旅行	井伏鱒二	二・〇〇	四三七	版畫莊

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
元の木阿彌物語(上)	山田清作	一・〇〇	四二六	白山社
カンデーロ	池田薫譯	一・〇〇	四二六	白山社
五月	河本哲夫	一・六〇	四一五	新生堂
ゲーテ・フアウスト	河本哲夫	一・六〇	四一五	新生堂
トルス戦争と平和	同	一・六〇	四一五	同
若鮎	水原私櫻子	一・五〇	四三六	第一書房
水門	逸見廣	一・八〇	四三三	赤塚書房
悪童	木々高太郎	一・五〇	四三三	赤塚書房
夜の翼	川崎長太郎	一・四〇	四三六	砂子屋書房
朽花	田内静三譯	一・八〇	四一九	六藝社
白馬の騎者	島崎藤村	一・七〇	四三三	日本書莊
若菜集以前	篠田鏡造	一・八〇	四三一	岡倉書房
銀座百話	今井俊三	二・三〇	四三七	野田書房
饗宴	伊東銳太郎	一・六〇	四一九	春秋社
リエーヂユの踊子	伊東銳太郎	一・六〇	四一九	春秋社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
聖フオリアン 寺院の首吊男	ジョルジュ・イブ 伊東鏡太郎譯	・六〇	四一八	春秋社	已里のうわさ	高橋邦太郎	一・五〇	四二八	岡倉書房
嶮しき快癒	ジャン・ポオラン 堀口大學譯	一・五〇	四七五	伸展社	釣堀にて	久保田万太郎	二・〇〇	四三〇	双雅房
マスタビイス	シエック・スピア 坂井 律譯	一・五〇	四三〇	光堂	海女の	大佛次郎	一・四〇	四四五	新潮社
何處へ行く	シエック・スピア 坂井 律譯	一・五〇	四三〇	同	戀愛の手紙	新井 格	一・〇〇	四三〇	泉書院
死の解放	坂井 律譯	一・五〇	四三〇	同	モンパルナスの夜	永戸俊雄譯	・六〇	四三三	春秋社
裸體の女	イパニエス 中村富士男譯	一・五〇	四三二	同	偉大なる教師	岩橋武潤	一・五〇	四三三	三省堂
現代密行刑事の手記	武野藤介	一・五〇	四三五	北斗書房	百貨店漂流記	飯田信光	一・〇〇	四三五	信正社
怪事件捜査實話	高橋定敬	一・五〇	四三三	大日本雄辯會 講談社	失はれた地平線	生馬隆一	二・〇〇	四三六	巧人社
世間の顔	荒木 蕪	一・三〇	四三八	竹村書房	ねなしかづら	高木佑一郎譯 久保田万太郎	一・三〇	四三一	白水社
崖	新田 潤	一・三〇	四三三	同	さんろてい夜話	山田清作	非	四三三	泥社
坊っちゃん重役	中野 實	・五〇	四三五	春陽堂書店	吉原下職原	堀 辰雄	一・三〇	四三三	山堂
淫魔殺人實話捕物集	伊東鏡太郎	一・五〇	四四〇	傳潮社書店	虚構の彷徨	太宰 治	一・三〇	四三九	新潮社
山の十字路	ジョルジュ・イブ 伊東鏡太郎譯	・六〇	四一九	春秋社					
ロンドンから来た男	同	・六〇	四一七〇	同					

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
オール實話傑作集	讀賣新聞社	・六〇	四二五	森田書房	風 帶	濵澤秀雄	一・八〇	四二五	双雅房
地中海・法廷	富澤有爲男	一・三〇	四四〇	新潮社	聖 惡	渡邊啓助	一・五〇	四三四	春秋社
普 賢	石川 淳	一・〇〇	四三九	版 畫 莊	包圍された日本	石丸藤太	一・六〇	四三三	同
馬喰の果	伊藤 整	一・三〇	四三五	新潮社	三人目の女	浅原六朗	一・六〇	四三七	信正社
浮世風呂	鈴木初雄	・五〇	四三三	三教書院	株と女	岡田三郎	一・六〇	四三三	同
潜水夫	大鹿 卓	一・三〇	四三三	新潮社	元の木阿彌物語下	山田清作	非	四三三	山堂
甲賀山伏とその一族	大伴 茂	一・八〇	四四〇	平凡社	達磨町七番地	獅子文六	一・三〇	四三三	白水社
旅ごころも	瀬田全四郎	二・五〇	四七四	カトリック 中央書院	青山一族	坪田讓治	二・〇〇	四三二	版 畫 莊
獄	島木健作	・九〇	四三二	島谷書店	幻想と怪奇	江戸川亂歩	二・〇〇	四三四	同
源平戦國一騎打物語	菊池 寛	一・三〇	四三九	新日本社	ジイド地上の糧	堀口大學	一・三〇	四三六	第一書房
私 刑	ウオルター・ホワイ 平山米三譯	一・六〇	四三三	日本公論社	北東の風・断層	久板榮二郎	一・三〇	四三九	竹村書房
青春五人男	サトウ・ハチロー	・五〇	四四八	春陽堂書店	母の感 激	三田谷 啓	一・〇〇	四三五	文友堂書店
若きテツの悩み	小松賢治	一・五〇	四六〇	白 揚 社	雪 國	川端康成	一・七〇	四三五	創 元 社
六 月					居 候 勿々	内田百閒	二・〇〇	四三三	小山書店
われ等の空軍	大場彌平	一・五〇	四三三	大日本雄辯會 講談社	ナポレオン戦争物語	菊池 寛	一・三〇	四二八	新日本社

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
夜光蟲	横溝正史	一・四〇	四〇九	新潮社	藝者の國	平山蘆江	二・〇〇	四三二	岡倉書店
旅ゆくこゝろ	吉田絃二郎	一・八〇	四二七	同	人妻椿	小島政二郎	一・〇〇	四三二	新潮社
スタイルズの怪事件	アガサ・クリステイ	一・五〇	四三〇	日本公論社	協同組合	アプトン・シムクレア	一・五〇	四〇〇	第一書房
一休曾呂利良寛	東福寺武譯	一・五〇	四三三	大日本雄辯會	突っかけ侍	前田河廣一郎	一・五〇	四〇〇	新小説社
ノンニ兄弟の冒険	武者小路實篤	一・五〇	四三三	講談社	南の窓	子母澤寛	二・五〇	四三三	新小説社
大神宮物語	上澤謙二譯	一・五〇	四一四	厚生閣	七月	辰野隆	一・五〇	四三三	創元社
愛慾の位置	中山朝之助	一・三〇	四二六	文友堂書店	猶太人ジリウク	ジョルジュ・ジヨル	一・六〇	四一七	春秋社
短篇・長篇小説	丹羽文雄	一・七〇	四三三	竹村書房	情死	山野晃夫	一・六〇	四一七	同
ルビコンを渡る	熊澤復六	一・八〇	四一四	清和書店	ダンケルフの悲劇	ジョルジュ・シムクレア	一・六〇	四二二	同
アマカラ世界	田熊喜作	非	四〇〇	武田洋子	且	山崎草一	一・六〇	四一六	同
戯曲磔梯山	里見 淳	三・四〇	四三三	中央公論社	裁かれる人々	石黒敏七	二・三〇	四三三	雄風館書房
道化役者	山口太郎	一・七〇	四二六	中央演劇社	戀愛參謀長	瀬戸口寅雄	一・三〇	四三七	岡倉書店
リユシエンヌ	新田有明	一・五〇	四一六	生命會出版部	林芙美子選集(七)	林芙美子	一・三〇	四二八	改造社
碧眼紅戀道他四篇	織田泉三郎	一・〇〇	四一八	織田泉三郎	荒木又右衛門	サトウ・ハチロー	一・五〇	四二四	東京閣

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
探偵明石元二郎	綿貫六助	一・五〇	四一四	河出書房	關ヶ原大阪陣物語	長谷川伸	一・七〇	四四七	新潮社
サッコ・ヴァンゼッテ事件	前田河廣一郎	一・五〇	四一三	同	ケテイー物語(家庭の巻)	菊池寛	一・三〇	四二八	新日本社
ゴールド・ラツシュ	木村 毅	一・五〇	四一四	同	涼風夜話	松原至大編	一・八〇	四三三	富山房
寫眞の父ダゲール	石黒敬七	一・五〇	四一五	同	影なき影	澁谷清	二・〇〇	四三三	青年書房
メデューズ號の筏	豊島與志雄	一・五〇	四二六	同	男の償ひ	三木清	非	四二八	三木清
妖姫ロラ・モンテス	黒田禮二	一・五〇	四一四	同	仙女王(一)	吉屋信子	一・五〇	四三三	新潮社
パウンテイ號の叛亂	飯島 正	一・五〇	四一四	同	未開地	外山定男	三・〇〇	四三三	不老閣書房
春の繪卷	中谷孝雄	一・八〇	四二九	赤塚書房	苦心談	安藤 盛	一・六〇	四二九	岡倉書店
國境第二部	古館清朗	一・六〇	四三三	春秋社	探偵捕もの帳	中村義正	一・三〇	四〇八	探偵全集
世界の終り	コーナン・ドイル 妹尾アキ夫譯	一・七〇	四二六	同	明治大正昭和探偵秘話	兵庫縣防犯研究会	一・五〇	四八〇	兵庫縣防犯研究会
處女戦線	大木惇夫	一・五〇	四四四	日本書莊	浮世の法律	宗宮信次	一・八〇	四三三	宗宮信次
糸魚川より	相馬御風	一・八〇	四三三	春陽堂書店	三人の仲間	柳田泉譯	一・八〇	四三三	春秋社
虚實	高見 順	一・七〇	四三〇	竹村書房	處女妻	小島政二郎	一・六〇	四三三	信正社
無聊の硯	高橋秋骨	非	四一七	高橋大吉	聲なき偉人	一文字欽也	一・五〇	四三三	婦人往來社
夢想兵衛河童物語	永淵熊六	二・〇〇	四一三	遺作刊行會	アガペエとエロオス	ニイグレ 佐藤信雄譯	一・八〇	四三三	一粒社

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
花かたみ	檀一雄	二・五	三〇	赤塚書房	超日月光	松原致遠	一・五	三〇	朝日新聞社
髯と口紅	北村小松	一・五	三六	春陽堂書店	女人禁制	丹羽文雄	一・三	三〇	双雅房
八月	他 桑島武夫 名	一・三〇	三三	竹村書房	澤東綺譚	永井荷風	二・〇〇	一三〇	同
匣と亡霊	原田達郎	一・三〇	二六	國民書院	戰亂の翼	坂部護郎	一・六〇	三七	日本公論社
悪者の紅閨情史	シヤルル 村上有一郎 譯	一・三〇	二六	國民書院	生首の行衛	石黒敬七	二・三〇	三八	雄風館書房
世界の謎スターリン	尾瀬敬止	一・〇〇	二六	森田書房	獵奇犯罪苦心の捕繩	中村義正	一・三〇	四四	探偵全集
ヨットの殺人	デニス 丸尾長四郎 名	一・三〇	二五	太白書房	赤軍は嘲笑ふ	研究會	一・五〇	四六	博潮社書店
小説キリスト	加藤一夫	一・五〇	三五	第一書房	劍客逸話集	島村喜勝	一・三〇	三八	武專同窓會
下宿人	ジョルジュ・イタ 伊藤鏡太郎 譯	一・六〇	二四	春秋社	維新戦争物語	菊池寛	一・三〇	三〇	新日本社
ユイモア	サトウ・ハチロー	一・七五	二七	東京閣	猫と庄造と二人のをんな	ポール・ボイル 山内義雄 譯	一・四〇	四四	白水社
續山窩綺談(提)	三角寛	一・五〇	四八	春陽堂書店	世界奇話異聞集	楠瀬正澄	一・三〇	二〇	河出書房
私の雑記帳	吉屋信子	一・三〇	三〇	實業之日本社	強盗と窃盗	谷崎潤一郎	二・五〇	一四	創元社
丸の内夜話	秦豊吉	一・五〇	三五	秋豐園出版部	盛果	尾崎一雄	一・〇〇	二〇	砂子屋書房

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
梨のほつえ	堀真	非	二六	三條家	中村義正	中村義正	一・三〇	三六	探偵全集
師子王戯曲篇(續)	田中巴之助	非	四四	師子王文庫	芹澤光治良	芹澤光治良	一・五〇	二五	竹村書房
銀杏の並木	宮澤俊義	一・七〇	二四	相模書房	津田禮三	津田禮三	非	一〇	福田久道
犯罪捜査實話	恒岡恒一	一・五〇	四三	大日本雄辯會	大日方晰	大日方晰	一・〇〇	二四	青年文學社
ロアー ル館	ジョルジュ・山野晃夫 譯	一・六〇	二二	春秋社	室生犀星	室生犀星	二・〇〇	三〇	竹村書房
戀愛白道	菊池寛	一・五〇	三〇	新潮社	朝鮮統治秘話	編輯總局	一・五〇	三七	帝國地方行政學會
九月	川田順一	一・五〇	三三	第一書房	人生劇場(上)	尾崎士郎	一・六〇	二九	新潮社
晩來抄	A.E.W. 土屋光司 譯	一・六〇	三六	日本公論社	二人で見た夢	中村正常	一・五〇	三七	春陽堂書店
オパールの囚人	黒面冠者 譯	一・〇〇	一八	金江堂書店	國際スパイ實話	木村毅	一・五〇	三〇	大日本雄辯會
戰線	山本實	一・〇〇	二三	野崎書房	崩壊	有馬頼義	二・〇〇	二五	新潮社
國際間スパイ戰の秘密	大濱方志	一・五〇	四六	公聲社	世界大戰物語	菊池寛	一・三〇	二〇	新日本社
東亞の彈痕	鎌田研一	一・五〇	四四	第一書房	新浦情話	熊倉孝平	一・五〇	三〇	大昭堂書店
小説徳富蘆花	萩原朔太郎	一・五〇	三七	白水社	風流連理想(上)	山田清作	一・三〇	二四	米山堂
無からの抗爭	伊東清藏	一・五〇	五六	警世社	ていこん犯罪實話	永田君人	一・三〇	二四	交通經濟社
探偵捕物日記									

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
ケティ物語(學校の巻)	松原至大	一・六〇	三三三	富山房
十月				
吉野朝太平記一	鷲尾雨工	一・三〇	四三三	春秋社
同二		一・三〇	四三八	同
同三	同	一・三〇	四三七	同
流	穎田島 一二郎	一・五〇	四三〇	砂子屋書房
日蔭の村	石川達三	一・三〇	四三三	新潮社
軍事戀の銀翼	仲木貞一	一・二〇	四〇四	東京朝野新開出版部
紅皿かけ皿	花柳章太郎	一・三〇	四三六	双雅房
大地にしく乳房	倉田百三	一・五〇	四三三	能登三四男
人生劇場武俠篇	尾崎士郎	一・三〇	四三三	新潮社
血染の袴	中村義正	一・三〇	四三三	探偵全集
豹の女	丹羽文雄	一・八〇	四三八	河出書房
緑の時代	川島理一郎	二・五〇	四三五	龍星閣
おのづから	佐野一彦	一・八〇	四九三	三省堂
をかした人たち	神山潤	一・七〇	四三三	砂子屋書房
春帯記	長谷川時雨	二・三〇	四三三	岡倉書房
日清日露戦争物語	菊池寛	一・三〇	四三三	新日本社
庭を想ふ心	西川友孝	九〇	四二五	旺玄莊
十一月				
折	蘆木々高太郎	一・八〇	四四五	春秋社
鐵	大下宇陀兒	一・五〇	四三九	同
母の	吉屋信子	一・四〇	四三七	新潮社
小説聖愛	堀季實	一・五〇	四二〇	金文堂書店
悪隣	宮城道雄	二・〇〇	四七〇	版畫莊
垣	村山知義	一・八〇	四三五	河出書房
新選	井東憲	一・八〇	四三三	共盟閣
長篇遊澤榮				

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
冥途桃色珍訴訟	太田靜夫	一・五〇	二八	天仇社
内侍	所三井博	非	四	東海義士會
むささびの冊子	佐藤春夫	二・〇〇	四二四	人文書院
風にひらひら戀の文	和田邦坊	一・五〇	四三九	春陽堂書店
聖戰忠話	小笠原長生	一・三〇	四四〇	實業之日本社
日本海賊史話	金城陽介	一・五〇	四三七	大浸社
支那漫談	村松梢風	一・五〇	四四七	收造社
雪庇	帝國大學新聞社	二・〇〇	四二二	帝國大學新聞社
灰皿の煙	木村錦花	二・〇〇	四二二	相模書院
都市交響樂	徳田戯二	一・七〇	四三〇	隣人社書房
孤兒マリエ	マルグリット・オオドワウ 彌口大學譯	一・三〇	四三六	第一書房
上海女の媚態	水久保 淳	二・〇〇	四元	パンフレット社
薔薇合戦(上)	丹羽文雄	一・五〇	四三三	竹村書房
支那人街	四至本八郎	一・三〇	四三〇	太陽閣
高原の感傷	富士逢見	一・三〇	四三三	資文堂
盗	尾崎一雄	一・五〇	四二五	同
十二月				
泣く丘	横山美知子	一・三〇	四二二	常山堂書店
花	浅原六郎	一・三〇	四二四	同
笑ふビル	南達彦	一・五〇	四三五	春陽堂書店
豹	岸田國士	一・八〇	四三三	三笠書房
諜	小野崎省三	一・二〇	四九	防諜聯盟
福阿部知二	阿部知二	一・八〇	四三八	河出書房
支那女人譚	村田孜郎	一・三〇	四二五	古今莊書房
支那血染の花籠	柄彦市	非	四一〇	柄彦市
皇國に輝(一)	橋口丹後	二・〇〇	四四	皇國之輝編輯部
スパイ實話	山本みのる	一・〇〇	四四	東京パンフレット社
悲風千里	尾崎士郎	一・五〇	四三五	中央公論社
永遠の親の懐へ	曉鳥 敏	四〇	四一七	香草舎
沃	和田 傳	一・五〇	四二五	砂子屋書房
竹	尾崎一雄	一・五〇	四二五	同

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
祖國の鐘	山中峯太郎	一〇〇	三〇〇	偕成社
支那興亡争覇物語	菊池寛	一〇〇	二〇〇	新日本社
續若い人	石坂洋次郎	一〇〇	三〇〇	改造社
凡人非凡人	澤田謙	一〇〇	三〇〇	藤川乃武夫
林芙美子選集(六)	林芙美子	一〇〇	四〇〇	改造社
虹の花	野上彌生子	一〇〇	四〇〇	中央公論社
戦争と横顔	林房雄	一〇〇	四〇〇	春秋社
乖離	初見晴一	一〇〇	一〇〇	串田孫一
ホルモン夫人の虚無僧	深尾須磨子	一〇〇	三〇〇	不盡書院
山窩血笑記	三角寛	一〇〇	五〇〇	大日本雄辯會
ハイア・サフアリ	フオンレツタウ 安田互利共譯 他一名共譯	一〇〇	三〇〇	講談社
馬賊の旗	平山蘆江	一〇〇	三〇〇	宙明社
流木	高見順	一〇〇	三〇〇	岡倉書房
海の	丹羽文雄	一〇〇	三〇〇	竹村書店
紫煙の渦	伊藤真一郎	一〇〇	二〇〇	文明堂
風速五十米	武田麟太郎	一〇〇	二〇〇	新潮社
ペンギンの島	アトオル・ フランクス 水野成夫譯	一〇〇	四〇〇	白水社
目醒時	逸見廣	一〇〇	三〇〇	砂子屋書房
新版鵝の物語	浅見淵	一〇〇	二〇〇	同
女性開眼	川端康成	一〇〇	三〇〇	同
母子叙情	岡本かの子	一〇〇	三〇〇	元社
女の立場	同	一〇〇	三〇〇	同
ルナにんじん	岸田國士	一〇〇	三〇〇	竹村書房
戀愛綱領	立野信之	一〇〇	三〇〇	白水社
農民小説集 收穫	鍵山博史	一〇〇	三〇〇	河出書房
吉田絃二郎選集(八)	吉田絃二郎	一〇〇	四〇〇	日本公論社

ヨルダンの流れ	小出正吾	一〇〇	二九八	坂上書院
女の一生	岡田眞吉	一〇〇	三八〇	白水社
擬装夫婦	栢間航之助	一〇〇	一四〇	江畔文藝社
男女生活の設計	江原小彌太	一〇〇	四九	千倉書房

天津特別市出版物取締

天津特別市は潘毓桂新市長を迎へ明
朗天津市建設に邁進の意氣に燃えてゐ
るが今回その第一歩として事變以來亂
雑になつてゐた各出版物刊行物を取
締り、これに統制を加へることに決し
一月十日特別市新聞事業管理所より十
四條より成る刊行物登記暫行辦法を公
布即日施行した。

斷然評判の高き山海堂の優良圖書

田中邦次郎著	西洋家具様式通論	三・五〇	小倉金之助譯	サンデン實用解析學	二・一五〇
福田武雄著	工業數學	三・八二〇	近藤 鷺	カシヨリ初等數學史	四・二〇〇
小倉金之助著	再訂圖計算及ビ圖表	一・一五〇	小倉金之助譯	ベリイ初等實用數學	二・二五〇
問谷力共著	珍數學公式要覽	一・〇九〇	新宮恒次郎譯註	モルガン初等數學解析	三・二〇〇
森本清吾著	新數學公式(附要項及ビ諸表)	三・〇〇〇	小倉 隆譯	新興物理學	三・一五〇
藤田外次郎編 刈屋他人次郎編 梶島二太郎編	訂補ルンシエコ初等幾何學第二卷	各五・四〇〇 各五・五〇〇	福田光治著	物理學要論	二・一三〇
小倉金之助譯	初等幾何學講義	三・〇二〇	野田哲夫譯	飛行機の力學	三・一五〇
柳原吉次著	サーモン圓錐解析幾何學	四・二〇〇	松崎義雄著	參考高等物理學上卷	五・二〇〇
小倉金之助譯	フリーレー初等代數學	三・五〇〇	松崎義雄著	新編高等物理學上下	各卷四・五六〇 各卷四・五二〇
武邊松衛譯	セテル幾何學作圖題解法	一・五〇〇	松野吉松著	理論化學實驗法	四・二〇〇
三守 守譯	初等解析學(解析幾何及ビ微積分學)	二・一〇〇	箕作新六著	膠質化學	二・一五〇
中川千之助著	ボレル代數學	二・九〇〇	四方敬一著	氣體製法化學	三・一〇〇
佐藤良一郎譯	ボレル代數學	二・九〇〇	四方敬一著	氣體分析化學	三・一〇〇
石井省吾譯	ボレル平面三角法	二・一〇〇	尾形輝太郎著	感光色素	三・一〇〇
石井省吾譯	クラック初等數學の基礎	二・四〇〇	有賀 輝著	光化學	五・二〇〇
新宮恒次郎譯		二・四〇〇			

東京市神保町二丁目 山海堂出版部 電話九段一三〇番

斷然評判の高き山海堂の優良圖書

武原熊吉 四方敬一 共著	有機化學	二・一三〇	峯岸義秋著	國文學の批評的研究	一・一五〇
加藤武夫著	三訂自然地理學	二・一五〇	新樂金橋著	文法應用漢文速成	一・九〇〇
楠木外岐雄著	自然科學概論	二・一三〇	伊藤月草著	最新俳句の作り方講義	一・一五〇
久保田勉之助著	自然科學概論	二・一八〇	中野三允著	古川柳評釋(情本位)	一・二〇〇
湯地 孝著	現代文學鑑賞原論	五・五〇〇	坂井久良岐補	明治文學(合本)	二・二五〇
守隨憲治著	歌舞伎通鑑	五・二二〇	明治文學會編纂	思想問題研究	一・〇五〇
守隨憲治著	歌 舞 伎 通 鑑	五・二二〇	深作安文著	思想問題研究	一・〇五〇
井原西鶴著	註放日本永代藏上卷	三・一八〇	入澤宗壽著	現代教育思想概説	一・一五〇
武田祐吉著	徒然草新解	三・一〇〇	紀平正美著	論理學及哲學の基礎概念	一・一八〇
武田祐吉著	萬葉集新解	各三・一〇〇 各三・一〇〇	清水 澄序	教育勅語讀本	一・〇三〇
中島悅次著	古事記評釋	三・二五〇	無 名 氏	教育に關する勅語の本義	一・〇三〇
和田萬吉著	謠 曲 選 釋	三・二五〇	蛭川虎三譯	經濟統計綱要	二・一五〇
藤村作 久松潜一 共著	明治文學序説	二・一五〇	清家 正著	熟練機械工養成對策	一・〇三〇
藤村作 藤田清人 共著	明治文學序説	二・一五〇	隈部一雄著	どらいぶうえい	一・一八〇
藤村作 藤田清人 共著	明治文學序説	二・一五〇	金森誠之著	社交ダンス	一・〇五〇
藤村作 藤田清人 共著	明治文學序説	二・一五〇	稻葉幹一著	その理論と正しい踊り方	一・〇五〇
藤村作 藤田清人 共著	明治文學序説	二・一五〇	小野磐彦著	職業	二・一五〇

東京市神保町二丁目 山海堂出版部 電話九段一三〇番

文部大臣・教學局長官
文部政務次官・文部教學官
文部次官・文部督學官
文部參與官・(全部献本濟)

再訂正
四十五版

三浦藤作先編

五九二
菊上製
四頁
定價八圓
送料廿四錢

國體の本義精解

文部省から全國へ三十萬冊
配布された「國體の本義」の
最確・最精・最良の解説本

本書の内容

①各節の要旨 ②全文の讀方(總振假名) ③語義解釋 ④註解釋 ⑤各分節毎に精解及補説 ⑥引用人名・職名・役名の解釋 ⑦引用書名・詩歌・文章の解釋 ⑧引用各主義・各思想・各宗派の解釋・其他必要事項を滿載詳述す

廿五版・文部大臣木戸侯爵題字 三浦藤作先編著 四六版上製定價金一圓 二四八頁送料十二錢

▼國民精神總動員の本義を精解し關係文書を總集し關係國家方案を示し關係國家總動員の關係を新著したる内容
●國民精神總動員の要旨
●國民精神總動員の關係文書
●國民精神總動員の關係文書
●國民精神總動員の關係文書

東京市神田區小川町三丁目二十八番地
振替東京一六一六七 電話神田二七三
七三〇一京東替振・一町保神區田神市京東
六五五九三阪大替振・町堂安內・區南市阪大

東洋圖書株式會社

國民精神總動員原義

法學博士 高窪喜八郎監修 法律評論社編

法律年鑑

每年一回發行

四六判背革六號密植

第一卷	價九圓九拾錢	第七卷	價九圓九拾錢
第二卷	價八圓五拾錢	第八卷	價九圓五拾錢
第三卷	價拾二圓	第九卷	價九圓五拾錢
第四卷	價拾二圓	第十卷	價九圓五拾錢
第五卷	價九圓	第十一卷	價九圓五拾錢
第六卷	價九圓	第十二卷	價九圓五拾錢

送料各一冊 内地卅六錢 屬領七十五錢

各最近一個年間雜誌及新聞紙上に發表せられたる學說●判例
●決議●訓令回答の要旨全部●著書●雜誌●諸統計●諸法令
●裁判所職員●在野法曹●學校職員等法律に關する事項及純
學理に涉るもの並に補助科學に屬する事項をも集録し之を民
法商刑法以下十部門に分ち精密なる目次及イロハ索引を附
したるを以て最近一個年間の法律學說判例を一目して知り得
べき良書なり

法學博士 高窪喜八郎編

法律學說判例總覽 刑法各論編(上)

定價拾四圓 送料内地三十六錢 屬領七十五錢

同要旨集 全四冊

價三十五圓 同 内地壹圓十七錢 屬領貳圓四十錢

法學博士 高窪喜八郎編

法律學說判例總覽(正) 民法商法 全二十冊

價百五圓六十錢 送料七圓廿錢

法律學說判例總覽續編 民法七冊 既刊

價百拾圓 送料四圓三十二錢

破產法(上下) 定價各八圓

送料内地三十錢 屬領六十五錢

和議法(完) 定價八圓

送料内地三十錢 屬領六十五錢

發行所 法律評論社

振替東京一六一六七 電話神田二七三

好評

昭和十年版 勞働年鑑

菊判全一冊

七三〇頁 定價 金 參 圓 送料二十一錢

本書は日本及海外の二部より成り日本の部は産業勞働界概観、無産政黨運動、勞働組合運動、勞働爭議、國家主義運動、協同組合運動、農業界、農政問題、農民運動及小作爭議、勞働者教育に分ち、海外の部は勞働事情を經とし政治、經濟、社會の情勢を緯として先づ當該年度の勞働運動の概況を説き更に國別に就き詳細論述したもので本書によりて日本及海外二十有餘箇國の勞働界の情勢が一瞥して大觀出來る様に纏めたものである。

日本人口問題研究

(第一輯) 菊判 定價一圓五十錢 送料二十一錢
(第二輯) 菊判 定價二圓五十錢 送料二十一錢
(第三輯) 菊判 定價三圓 送料二十一錢

慣用小作權に關する研究

菊判 三六〇頁 定價一圓五十錢 送料二十一錢

ナチス勞働法

菊判 三三五頁 定價一圓二十錢 送料二十一錢

徒弟制度と技術教育

菊判 三九〇頁 定價一圓五十錢 送料二十一錢

農村に於ける塾風教育

菊判 四五七頁 定價一圓八十錢 送料二十一錢

改訂工場鑛山勞働法規

四六 定價四十錢 送料不要

勞働者災害扶助法令及勞働者災害扶助責任保險法令

並説明

四六 定價三十錢 送料不要

五九六

發行所

東京芝公園六丁目四番地

協調會

古本のデパート 凡ての古書の御用は一誠堂へ!!

大部數揃物
美術書一般
和 本
唐 本
錦 繪
日支關係原書
學術雜誌
古文書寫本
古 寫 經

等

御買入の節は是非一誠堂へ!!

御注文の節は是非御照會を!!

合名 一誠堂書店

本店 東京市神田區神保町一ノ七

電話 神田七五

支店 東京市神田區神保町一ノ二

電話 神田七五〇

取次規定御申越次第送呈 要郵券三錢

五九七

圖書出版代辨

東京市麴町區九段一ノ一
二松堂代理部

振替東京三四〇九番

自費で書物を出版して見たいと思ふ方々のために顧問と成り相談相手として、出版の代辨を勉めます。極くきれいにお安く如何なる書物でも調製致しますから盛に御利用を願います。印刷所へ御任せになるよりも必ず安く體裁良く出来ますから返信料を添へ本の形、組方、活字の大小、夏敷、紙質、製本體裁、等詳記御照會下さい。見積書を送ります。又販賣に就ても御便利を計ります。

東京帝大教授 農學博士 宗 正雄先生著

農地法と思想國防

四六判二九〇頁美本
定價金壹圓貳拾錢
送料 金 九 錢

奥平中將題辭・野崎圭介先生著

支那忠烈の皇軍

四六判三三〇頁上製美本
定價金壹圓貳拾錢
送料 金 十一 錢

國民精神總動員に就て 國民に檄す

四六判一八〇頁美本
定價金七拾錢・送料六錢
國民精神總動員指導會
四六判二四四頁美本
定價金壹圓・送料九 錢

二松堂發行の新刊

前日本郵船會社々長 白仁 武著 伸びんとする青年へ

東京九段一ノ一 二松堂書店
振替東京三四〇九番

井上 翠編著

新刊 井上ポケット日華辭典

¥ 3.00
〒 .09

ポケット型・一〇五〇頁・別漉辭典用紙印刷・總革製本

袖珍型日華辭典の決定版!!

平假名五十音圖の順排列に依り、且檢索の便を考慮し畫引索引を附してあります。用紙は別漉辭典用紙を用ひ、印刷鮮明、製本は上等羊皮を用ひ柔軟に開き易く、瀟洒な裝釘のポケット型とし、携帯至便であります。

東京市本郷區二丁目

發行所

文求堂書店

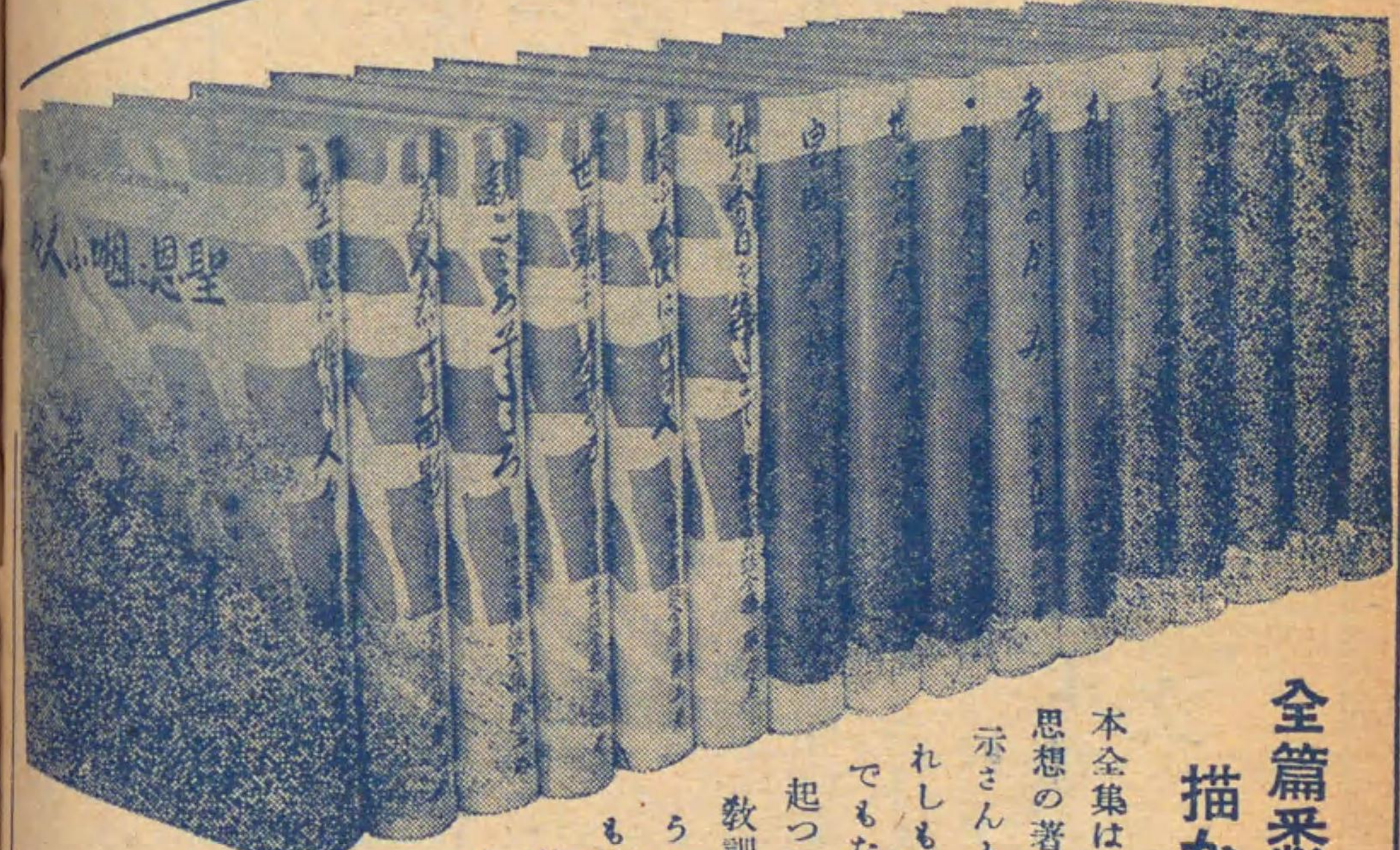
振替東京二一八番

助賛氏十五士名野朝め初相首前林

感 激 實 話 全 集

卷六十全
正篇十卷
續篇六卷

判六四
頁〇七三
製上紙表色彩極



全篇悉く血を以て
描かれた活教訓!!

本全集は、國家の非常時に直面して國民思想の著しく動搖せる時、これが歸趨を示さんとし、朝野諸名士賛助の下に編まれたもの。本全集は小説ではない昔話でもない、現に生ける人または最近に起つた實話のみを集めた眞に生きた教訓である。然も吾人の及び難いやうな大偉人の傳記ではなく、何人も達し得る平凡人の埋もれた美談徳行を市井に拾つたものであるから、誰にでも親しみ易く、その上平易な美文で書いてあるから女子供にも小説より面白く讀まれるだらう。

定價壹圓貳拾錢

送料 内地 十四錢
鮮滿 十五錢

東京市神田區 金星堂
電話九段四〇八番
振替東京三五二八番

東京市神田區 保三ノ二番
電話九段四〇八番
振替東京三五二八番

六〇二

九州帝國大學 農學博士 佐々木清綱序
元九州帝國大講師 境野惠佐著 (梧桐書院刊)

最新畜産讀本

菊判洋布裝五七一頁 定價四圓五十錢
函入寫眞版多數挿入

いよく發賣! 好評裡に重版又重版
畜産工業の重要視される今日、畜産に關する學理と實際を詳説して殆んど漏らす處なく、農學校は勿論其の他の諸學校及實際家待望の増補版發賣。

理學博士 福井玉夫 閱 植村利夫 著
梧桐書院 刊

原色通俗動物圖鑑

四六判布裝函入 定價一圓五十錢
全精密原色刷

待望の通俗的原色動物圖鑑發賣!
精密精巧無比の全原色版、通俗的で詳細な解説動物學の大家文壇大教授理學博士福井玉夫先生閱による通俗動物圖鑑發賣さる圖示されたる數實に數百、小、中學生に最適の原色圖鑑。

最新 蔬菜栽培法便覽 定價 一・四〇 佐藤昌次著 三六判洋布裝	最新 花卉栽培法便覽 定價 一・四〇 同	最新 果樹栽培法便覽 定價 一・四〇 同	最新 花卉園藝 定價 一・八〇 同	最新 珠算の詳解 定價 一・八〇 宮本治著 四六判洋布裝	初めて 代數學 定價 一・〇〇 根津治著 四六判洋布裝	例 作文の自習 定價 一・三〇 谷岡義賢著 四六判洋布裝	自 國文讀本 定價 一・三〇 隈元靜哉著 四六判洋布裝	自 現代文讀本 定價 一・三〇 同
--	----------------------------	----------------------------	-------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------

東京市神田區 淡海堂出版部・梧桐書院
電話 浪花一三六三 (座口堂淡海)
振替東京一五六一五 (座口堂淡海)
電話 八七〇九 (座口院書桐梧)
振替東京五八七〇九 (座口院書桐梧)

六〇三

淺草寺貫主 大森亮順僧正序
大正大學教授 清水谷恭順著

(最新刊) 四六判二百頁美裝函入
價一圓二十錢送十二錢

放見音經書舌 送觀音經言言

非常時には必ず觀音力を受く

誰人でも觀音の力を念じたものは、いかなる厄難困苦も忽ち消散してしまふ。全國民は正に觀音の力を唱和して、あらゆる苦難を克服する秋である。本書は最近の放送講義として絶讚を博したる名講義にして、その内容の平易さは裝幀の美しさと相俟つて、觀音の妙智力を仰がしむ。

皇軍の必勝に、英靈の慰安に、鏡後の國民の必ず所持すべき名著

六〇四

加藤咄堂著 一圓 送十二錢
佛教とは何ぞや

岡本かの子著 一圓三十錢 送十二錢
佛教讀本

加藤咄堂著 一圓二十錢 送十二錢
死後はどうなる

中村古峽著 一圓 送十錢
迷信に陥るまで

岡本かの子著 一圓六十錢 送十四錢
觀音經を語る

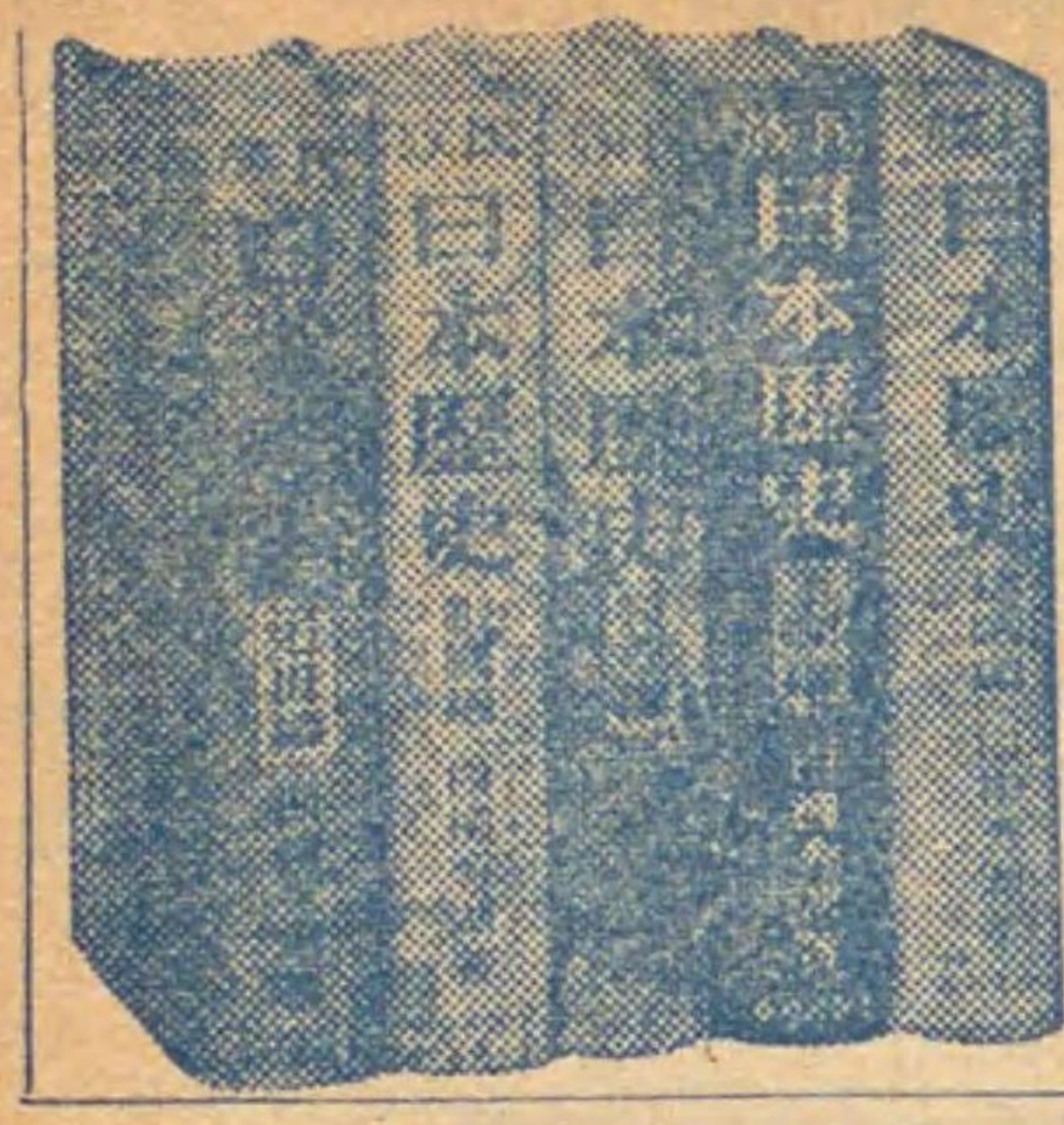
倉田百三著 一圓三十錢 送十二錢
生活と一枚の宗教

附 治らずに治つた私の體驗
駒大教授林屋友次郎著 七十錢 送十錢
佛教の戰爭觀

發行所 東京芝公園七ノ十
大東出版社
振替東京一九四七一番

民族日本歴史

全五卷遂に完成す！
日本人の世界觀と、人生觀を
創造する、不朽の國史出づ！



▲ 建國編 ▼
▲ 王朝編 ▼
▲ 封建編 ▼
▲ 戰國編 ▼
▲ 近世編 ▼

民族日本歴史は、從來の淺薄かつ抽象的また保守的なる凡ての日本歴史書に變革を與へ、後代の世界史にわが日本生成の五指針を悉く雄大な意圖を以て描かれた、全く新しき國民の歴史である。
新しき近代的史眼をあくまで磨き澄まし、更に言語學、民族學、考古學、經濟學の博き知識を縱横に驅使し日本の國家と民族、經濟と政治、藝術と宗教の成長と發展の跡を、凡ての人々に明解し得る様に解説し、物語れる歴史は本書の他に絶無だ！

白柳秀湖著

各册 一圓七十錢

四六判・送料各十二錢

東第 京一 橋 京五 倉千 房書

振電 替話 東八三八 京一七八 九一七 七二七 八五六九

六〇五

新教授要目標準・中等學校教科書

與謝野晶子先生著 (裝幀並挿繪 正宗得三郎畫伯) (教授資料付)

新制女子作文

全上・中・下 三冊 定價各五〇錢 各卷一六〇頁

曩に「女子作文新講」(全五冊)を上梓して全國女子師範學校・高等女學校より壓倒的御支持を得、逐年御採用校激増の榮に浴して居る折柄、今回稿を改め、内容の嶄新充實、編纂の劃期的新機軸も以て再び世に問はんとする本書!

本書の特色

- 一、文例は新進大家の最近の作品に採つたこと。
- 一、練習文は全國女生徒の優秀なるものも厳選し、懇切丁寧なる批評を試みてあること。
- 一、文章は極めて判り易く、しかも文學的氣品高きこと。
- 一、寫眞・圖版を多數收載し、學習上の興味を誘導すること。
- 一、要所々々に軽い國文法を挿入、自然的に文章鍛練の正格を期したこと。等々

本書の特色

文部省中等學校改正教授要目國語科の眞精神を體し、最も理想的な習字帖を完成す。筆者松崎春川先生は克く斯華の流れも汲み、判り易く、美麗の筆致を以てその永らく主宰される書道誌「管城」會員數萬の景仰の的となつてゐる。

新制中等習字帖

全上・下・上級用 三冊 定價各三三錢

新制女子習字帖

全一・四冊 定價各三五錢

(師範學校・中學校・實業學校)用

六〇七

東京市神田區小川町 閣文祥 電話田神五五五・四五六番 振替東京座八七七番

ダイヤモンド社出版 東京・麹町・内幸町 振替東京二五九七六

經濟記事の基礎知識 平易明確、經濟解説の最高峯、財政經濟産業五十篇を收録す。
ダイヤモンド社編 四六判 一七〇〇頁 價二圓二十錢 送料二十二錢

銀行實務用語辭典 常時事務に必要な商用語一萬を收録、會社銀行員並に學生必携の經濟辭典。
細井藤兵衛編 三六判 二二〇頁 價一圓二十錢 送料六錢

郵便の知識 郵便、爲替、電信、電話、貯金、保險、年金に至るまで郵便局を上手に活用する途を説いて剩す處なし。
酒井淳三著 菊半藏 四〇〇頁 價八十錢 送料九錢

旅窓に學ぶ 東日本篇 新四六判・八五〇頁・價1.80 送.12
中日本篇 新四六判・六二〇頁・價1.50 送.12
産業經濟本位の案内書 西日本篇 新四六判・八〇〇頁・(未刊)

ダイヤモンド實務知識 五篇二十二章第二百二十九節八百二十三項に亘り詳説。
ダイヤモンド社編 四六判 五〇〇頁 價一圓九十錢 送料十八錢

ポケット會社職員録 二千會社三萬人を收録、値段は大型人名録の僅か十分の一
ダイヤモンド社編 三五判 九〇〇頁 價二圓五十錢 送料九錢

ポケット會社要覽 一千に餘る多數會社を收め、然も緊要な事項は要領を擱んで残らず掲載
ダイヤモンド社編 三六判 三六〇頁 價一圓 送料六錢

鐵・鋼・鋼材 鐵の問題は非常時日本下の最大最重の問題である。鐵に關係ある事業家技術家に缺くべからざる參考書。
兒玉晋匡著 菊判 五〇〇頁 價四圓八十錢 送料二十一錢

ダイヤモンド經濟統計年鑑 有機的に編纂した獨特の統計書
ダイヤモンド社編 四六判 五四〇頁 價一圓九十錢 送料十五錢

六〇六

刊新

三昭和
年版十

現行海事法令集

送定四
料價六
三六壹
十圓千
三十八
百
錢頁

書圖事の海の評好

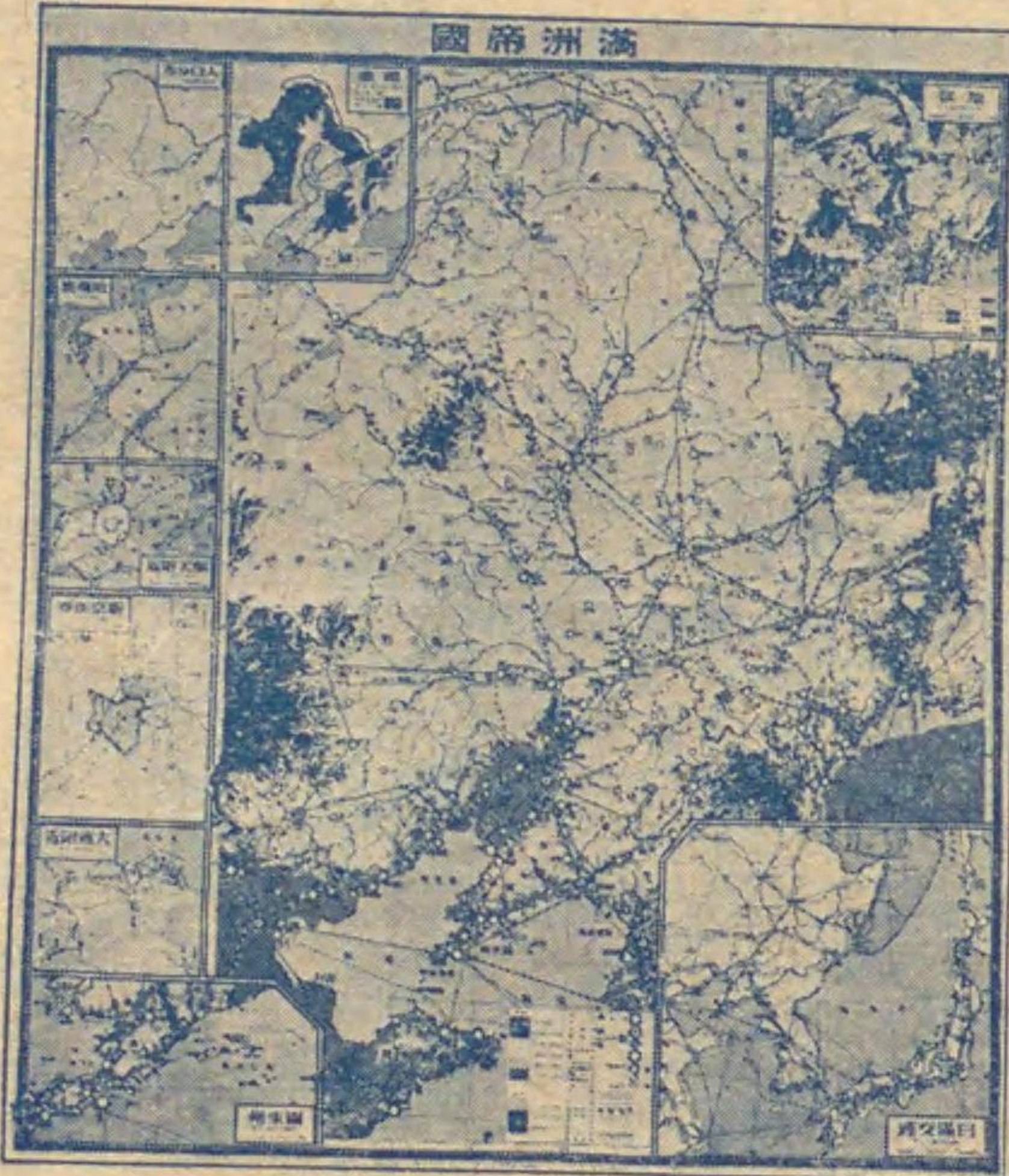
藤崎喜代太	宗藤良而	桑原周雄	越田積一	越田積一	大山文武	平井要三	井關貢新	宮本吉太郎	K.HAYASHI	永野馬太郎	根布善藏
最新 賞用									ROUTINE OF SHIPPING	正改	正改
塗裝工業並ニ塗料製造法	潜水艦の知識	造船技術	發動機の故障と修理	漁船發動機取扱問答	燒玉式發動機	デイーゼル機關	航用測器	船用英文通信		國際海上衝突豫防規則解説	海事申請手續總攬
千價五・五〇	千價一・〇〇	千價三・二〇	千價一・五〇	千價四・五〇	千價二・八〇	千價六・五〇	千價六・〇〇	千價二・五〇	千價二・五〇	千價三・五〇	千價三・〇〇

呈進第次越申御録目書圖

所賣發	所行發
一目丁二町川小區田神市京東	目丁三町元市戸神
店書堂文海	部版出堂文海
番三九九〇八京東座口替振	番五一八戸神座口替振
番二〇七二田神話電	番三二〇二宮三話電

滿洲帝國掛軸

編生先雄美荒屋守 研學理地
長會會究



實物は 縦六尺三寸 横五尺五寸
オフセット高級美術印刷十数度刷

この内容を以てこの

定價 金 六 圓

最新・美麗
完璧を誇る

待望の我が

滿洲國掛地圖 完成

▲幕進途上の滿洲帝國は日にこれ新たである。
▲されば行政區劃の如き、初めは三省であつたのが十
四省となり、更に最近牡丹江・通化二省が出来たの
で十六省となつた。
▲交通線の如き、鐵道の開通、航空路の變更増設等従
來とは全く面目を一新したから、最新の掛圖でなく
ては用をなさない。
▲地名も諸所に改稱せられたから、ウツカリ古いのを
使へば識者の笑を招くであらう。
▲本書は最新なること本邦之に及ぶものはない上、印
刷實に美しく教室用として最も鮮明、大ききも適當
で、地質・畜産・人口分布・都市の部分圖を掲げた
から實際教授上非常に便利である。
昨日の滿洲國は既に今日の滿洲國ではな
い。古いものは役に立たぬ。切に本掛圖
をお奨めする所以である。

東京市神田區
西神田一ノ三

株式 帝國書院
振替口座東京六七〇一四

新青年學校教科書

卷卷卷卷
之之之之
仁義禮智信定價四十八錢

新女子青年學校教科書

卷卷卷卷
之之之之
雪月花定價四十八錢



◇全卷完成！各縣續々決定す！
本書は青年學校以外の各縣續々決定す！他書に收録せざる作法・英語・教練・各科をも網羅し、且つ各科には詳細懇切なる脚註を施して教材の補充と教科の連絡を備へた、その内容の充實せる、その外觀の豪華なる、類書にその比を見ない。

青年學校 農業教科書

卷卷卷卷
仁義禮智信三

青年學校 國語讀本

一二三四五
卷卷卷卷卷

青年學校 商業教科書

卷卷卷卷
仁義禮智信三

青年女子 國語讀本

一二三
卷卷卷

青年學校 修身教科書

卷卷卷卷
仁義禮智信三

青年女子 修身教科書

卷卷卷
雪月花三五錢

青年學校 家事教科書

卷卷卷
雪月花三五錢

教授參考書

無代贈呈
に本書は御採用に限り贈呈

青年學校修身及公民科精義

全 菊 判 五 卷
三 百 五 十 頁
各 卷 二 圓 二 十 錢

青年學校に於ける修身及公民科の重要性については今更茲に喋々するを要しない。本書は實際指導の最高權威者を網羅して編纂に傾注、ついに新要目唯一の權威ある指導書を公刊するに致つた。
東京府社會教育主事 景山鹿造先生著

國民精神總動員教程

菊 判 洋 綴
二 百 七 十 頁
定 價 七 十 錢

陸軍・海軍・文部・農林大臣題字
青年學校・小學校教員並生徒・必讀書・全國各府縣市町村在郷軍人青年團の委員の必讀の書
法制局長官 船田中閣下著

東亞明朗のために

日支蘇英 滿の將來
四 六 判 洋 綴
三 百 五 十 頁
定 價 一 圓 二 十 錢

世界戰史の空前の大勝を收めた、然しながら支那の實情は混沌として暗雲に支那をめぐる蘇・英・米の關係は益々複雑化しつつある時、吾人は東亞をめぐる動靜を知るを以て刻下の急務なり

館文寶阪大 區西市阪大 店理代總 部版

出會育教年青本日 區田神市京東 所行發

小學校教科用圖書翻刻發行

日本書籍株式會社

社長 大橋 光吉

東京市水石川區久堅町百八番地
電話水石川 (85) 二一四三七八
二一四三七八番番番番

家事及裁縫社編

高等女學校
青年學校
一校一冊

現代家事及裁縫の施設經營

◇本書は懸賞を以て新時代に處する家事裁縫科の經營案を實際家の體
驗に求めた優篇である。現代教育上の諸施設と新經營は甚だ進歩した
は。一掃されてゐる。實際化の思潮に對して、從來の都市追隨の無意味の潮流
◇加ふるに技術的知見に於て進歩せし科學を導入したものが收めてあ
る。これは従來の因循より脱脚したる眞(新)教育への進路として實際
界を益する事多しと信する。而て各學校の各指導案は教授上の好參考
として各種の場合を盡してゐる。
(定價貳圓五拾錢・送料十四錢)

東京市來町二丁目二番
東區牛込二丁目二番
裁縫社及家事社
振替東京二七三二八番

★尋常小學校裁縫科指導細案 定價 一圓三十錢 送料 十錢

★高等小學校裁縫科指導細案 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

★郷土に
立脚せよ 家實裁縫の實際化 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

★裁縫の創作的學習 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

★婦人子供服専門講座 全六卷 定價 一圓貳拾錢 送料 十錢

★檢文 家事及裁縫科試驗問題集 定價 一圓貳拾錢 送料 十錢

★毎月一回
一日發行 家事及裁縫 定價 一部五十錢 特別號 貳錢五厘 足分申受く

全甲社のチビク漫画

チビクロー一等兵
 チビクロー伍長
 チビクロー少尉
 チビクロー中隊長
 チビクロー大隊長
 ヤンキー小衆
 ヤジキダ
 一休サン
 ミツキーマーチヤン
 ソンゴクウ
 チヨビスケ殿様
 フクチヤン
 テンプルチヤン

各冊新定價十二錢

小學校入學と受験準備書

幼児ノメンタルテスト

全五冊 函入
 定價一圓三十錢
 改訂版

昭和十三年度新版

幼稚園テスト

四六倍版附圖ツキ
 定價八十錢

教育勅語聖旨普及會

教育勅語畫解

四六倍版極彩色
 裝幀頗美本
 新定價三十八錢

吉本三平先生外

エトオハナシノ本種六

角形上製頗美本
 定價各冊三十錢

(一一) 國語

語

○文典 ○作文
 ○習字

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
國語の知識	乾輝雄	一〇〇	四一五	山房
源氏物語研究史	重松信弘	四〇〇	四三二	江書院
國語學新講	東條操	三〇〇	四四一	同
詳註小學國語讀本 口譯原據集成尋一二	新田寛	二八〇	三三三	生閣
言語研究問題篇	小林英夫	三七〇	三九三	三省堂

内務省圖書課では黒表
 人の執筆禁止

内務省圖書課では言論界劃一の建前から、先に總檢舉した人民戦線一派及び之に準ずる評論家の新原稿の禁止は勿論過去に於ける著書も時勢に照して順次出版法十九條による發賣禁止處分を命じ其の他の所謂面白からぬものは出版社を通じて自發的絶版を勧めることになり人民戦線部隊となつて左翼自由主義の著者は近く一掃されることになつた。

木板時代の出版・印刷

木板時代の出版・印刷の工程は大凡左の如くである。原稿を受け板下を書き、彫刻。板は櫻と黄楊、大本、中本(半紙)、小本、横本、寸珍本等がある。大阪にては二丁がけの板がある。江戸には少なかつた。櫻にはハシバミを附ける、本と假とある。印刷は一日に三千枚を仕上げるのは上職人で、半數位のものもあつた。部數は五十部がけ、百部がけ位(五十冊分、百冊分)。刷方の道具は半墨一枚、布圍一枚、刷臺、紙柵、硯、シヤモジ、墨壺、バレン、油入茶碗、砂糖、刷毛二丁、紙取臺。バレンの中は棕櫚繩、上物は三味線絲、それを竹皮にて包む。墨は大阪、奈良の破物、年數を経たる物ほど宜く、非常の場合には新物をも使用することがある。墨を小出しに摺鉢に入れ、リスリン砂糖を混合する。水瓶には墨と水半々位に入れる。紙は一メ(二千枚)の内より撰擇し、水をふくませ、百枚づゝ位にしめりを入れる。使用する時は片端を持つて振り、其上へ板を置く。紙は半紙、大半紙、駿河半紙、岩城、石州、岩國、白紙、畫セン紙、小菊等。

袋、扉、序は西の内、仙可、細川、大鷹、奉書、玉川唐紙、丈長美濃、土佐等。大半紙は土佐はニロウが上物。四書、五經に使用。工賃は上物にて千枚二十五錢(明治七年頃)。刷上り物を乾すには刷物の上へ吊す。新板より五百枚刷たる頃が宜しく三千枚迄が宜しい。板木はサラヒすることあり。櫻板は日光邊りのもの宜し、彫刻料は一枚一圓乃至一圓半一枚三十錢位(其當時)多く兩面彫。板下明朝字は川村が宜し。一枚二十錢位。伊豆ツキ雁皮は板下に用ゆ。四書、五經などは多く弟子が刷る。明治七八年頃半紙一丸(一萬二千枚)十俵大半紙二メ。十俵の大關一 關脇一 小結一 前頭一、末は大關、一俵五六圓位。多くは店の奥にて刷る。時に外へ出す場合は必ず留板として終りの二三枚は店にて刷らす。

(一一一) 辭典

書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
一月					
大日本人名辭書(一)	大日本人名辭書刊行會	七〇〇	四七四	辭書刊行會	
最新商業經濟辭典	阿部賢一	三八〇	二六五	同文館	
大百科事典(二ノ一)	下中彌三郎	一・二〇〇	三四	平凡社	
二月					
最新漢和大辭典	篠原 豐	三・〇〇〇	四〇〇	内外出版社	
露譯漢和字典	デト・ボズ ドノエフ	一〇・〇〇〇	一〇八	橋本保三	
政治經濟新問題辭典	經濟知識社 調査部	一・五〇〇	三六	經濟知識社	
日本文學大辭典	藤村 作	五・五〇〇	五四	新潮社	
教育學辭典	城戸幡太郎	七・五〇〇	七六	岩波書店	
書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
日本經濟史辭典	日本經濟史研究所	二・六〇〇	二八	日本評論社	
最新社會常識寶典	小倉 要	三八〇	五〇	春秋書院	
廣文庫(一一)	物集高見	七・五〇〇	一〇六	廣文庫刊行會	
フレンド英語新辭典	岡倉由三郎	二・五〇〇	九四	研 究 社	
類語新詞藻辭典	加藤武雄 水守龜之助	三・五〇〇	一〇二	東 光 社	
新撰漢和辭典	宇野哲人 長澤規矩也	二・七〇〇	二五	三省堂	
三月					
東洋歴史大辭典	下中彌三郎	六・〇〇〇	五〇	平凡社	
日本文學大辭典	藤村 作	五・五〇〇		新潮社	
コンサイス佛和辭典	丸山順太郎	四・三〇〇	一〇七	三省堂	
大百科辭典(三ノ一)	下中彌三郎	二・〇〇〇	三三	平凡社	
増補和辭典	精松 源 他二名	五・〇〇〇	五七	甲文堂書店	
大日本人名辭書	大日本人名辭書刊行會	七・〇〇〇	八六	辭書刊行會	
ゴング獨和新辭典	權田保之助	五・五〇〇	三三	有 朋 堂	

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
廣文庫(一三)	物集高見	七.五〇	圖一〇八	廣文庫刊行會
大百科事典(三ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三〇	平凡社
最新社會常識寶典	大倉要 小野周次	三.八〇	圖五〇	春秋書院
法律學辭典(五)總索引	末弘嚴太郎 田中耕太郎	四.〇〇	圖三一	岩波書店
國民百科大辭典(三)	富山房 編集部	七.〇〇	圖一〇〇	富山房
四 月				
大百科辭典(五ノ一)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三八	平凡社
大百科辭典(四ノ一)	同	二.〇〇	圖三三	同
大日本人名辭書(三)	川俣馨一	七.〇〇	圖八三	大日本人名辭書刊行會
最新日本著作者辭典	神谷敏夫	三.三〇	圖三三	大同館書店
大百科事典(四ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三二	平凡社
新法學辭典 上	末川博	三.〇〇	圖四八	日本評論社
廣文庫(一四)	物集高見	七.五〇	圖一〇五	廣文庫刊行會
東洋歷史大辭典 二	下中彌三郎	六.〇〇	圖五九	平凡社
五 月				
新佛和中辭典	井上源次郎 田島清	三.五〇	圖八五	白水社
和獨大辭典	木村謹治	二.〇〇	圖三三	博文館
日華大辭典(二)	平岡龍城	一.三〇	圖七四	東洋文化未刊圖書刊行會
婦人家庭百科辭典	齋藤精輔	一.〇〇	圖六三	三省堂
新陶器辭典	加藤唐九郎	二.〇〇	圖一〇五	工業圖書株式會社
現代國際人名辭典	國際事情 研究會	二.五〇	圖	出版會社
大百科事典(五ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三四	平凡社
新撰大人名辭典(一)	同	七.〇〇	圖七六	同
世界文藝大辭典 五	吉江喬松	七.〇〇	圖六二	中央公論社
日本經濟史辭典 六	本庄榮治郎	二.三〇	圖二八	日本評論社
廣文庫(一五)	物集高見	七.五〇	圖一〇五	廣文庫刊行會
國民百科大辭典別卷	富山房	七.〇〇	圖	富山房
法律學辭典(三)	末弘嚴太郎 田中耕太郎	七.〇〇	圖六五	岩波書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
大百科事典(六ノ一)	下中彌三郎	三.〇〇	圖三八	平凡社
東洋歷史大辭典 三	下中彌三郎	六.〇〇	圖五四	平凡社
大百科事典(七ノ一)	同	二.〇〇	圖三六	同
最新工業大辭典 一	松元竹二	二.〇〇	圖六三	平凡社
大百科事典(六ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三八	平凡社
大日本人名辭書 四	大日本人名辭書刊行會	七.〇〇	圖七〇	大日本人名辭書刊行會
兒童百科大辭典一〇	小原國芳	六.〇〇	圖六九	兒童百科大辭典刊行會
廣文庫(一六)	物集高見	七.五〇	圖一〇三	廣文庫刊行會
最新工學寶典	木下武之助	六.〇〇	圖四七	鐵道時報局
圖說植物辭典	村越三千男	一.八〇	圖七六	中文館書店
唯物論辭典	廣島定吉	二.五〇	圖五二	白揚社
七 月				
國民教訓辭典	國民修養會	五.〇〇	圖七六	日本書院
大百科事典(七ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三四	平凡社
八 月				
自動車工業大百科(一)	竹內順三郎	三.五〇	圖四七	東學社
最新機械工業大辭典	增山鐵雄	三.五〇	圖三七	博弘社
新撰大人名辭典 二	下中彌三郎	七.〇〇	圖六二	平凡社
廣文庫(一七)	物集高見	七.五〇	圖一〇四	廣文庫刊行會
大日本人名辭書 五	大日本人名辭書刊行會	七.〇〇	圖	大日本人名辭書刊行會
寫真處方大事典	岡内彰	三.五〇	圖七五	アルス
大百科事典(八ノ二)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三三	平凡社
最新工業大辭典 二	松元竹二	二.〇〇	圖六六	平凡社
大百科事典(八ノ一)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三三	平凡社
標準ラヂオ大辭典	梶井剛	四.〇〇	圖九五	日本ラヂオ協會
補西和辭典	村岡玄	七.〇〇	圖一〇〇	東京西語學會
大百科事典(九ノ一)	下中彌三郎	二.〇〇	圖三三	平凡社
自動車工業大百科(六)	竹內順三郎	三.五〇	圖四〇	東學社
廣文庫(一八)	物集高見	七.五〇	圖一〇七	廣文庫刊行會

書籍の名稱

古來書籍の名稱は大體左の如くである。

- △大 本 △中 本 △小本、豆本 △三切本 △半紙本 △美濃板 △菊判 △四六判
- △三五判 △菊倍判 △菊半截 △四六半截 △四六倍判 △ポケット △折本 △切付本
- △横 本 △枕 本 △地 本 △赤 本 △青 本 △黒 本 △五行本 △六行本
- △床 本 △小説本 △講談本 △軍談本 △音曲本 △巷談本 △草双紙 △黄表紙本
- △物語本 △蒟蒻本 △西鶴本 △合巻本 △金平本 △光悦本 △京傳本 △奈良繪本
- △智恩院本 △讀 本 △八文字屋本 △浮世草紙 △洒落本 △小泉本 △唐 本 △朝鮮本
- △字 典 △石 刻 △石 摺 △和 刻 △畫 帖 △淨瑠璃本 △畫 譜 △原稿本
- △院 本 △人情本 △手 入本 △シラミ本 △手摺本 △抄 本 △嗟峨本 △元 本
- △古渡り本 △角倉本 △初版本 △創刊本 △節 用 △初摺本 △巻 物 △官 碑
- △複製本 △寫 本 △丹 冊 △書き本 △繪 本 △錦 繪 △唐 刻 △卷子本
- △古文書 △草稿本 △書 入本 △初印本 △再版本 △改版本

(一三) 外國語

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
一月	Les Relations Medicales internationales Nippon ein überblick Current History 1937	鶴見三三 光永星郎 出立命部館	四・〇〇 五・五〇 二・五〇	三・八 五・四 三・七	鶴見論文集 編日輯電報 通日本信社	Geisha Giri An Asiatic League of Nations Hannah Riddell Wahrheit des Keiten Deutschen Reiches The Manchoukuo Year book 1937. The Japanese Empire Year book 1 937.	丸 株式會社 同 同 同 同 同 同	三・〇〇 三・〇〇 三・〇〇 三・〇〇 三・〇〇 三・〇〇 三・〇〇	丸 株式會社 同 同 同 同 同 同
二月	Asia Directory 1936—37 Whatis Nippon Kokutai? Foreign Trade Directory of Yokohama	森良治 田中顯一 横濱商工會議所	一・五〇 四・五〇 四・五〇	丸 三・九 三・九	Gleams from Japan The Social and Economic history of Japan Essays in Economics The New Japan Year book	勝俣銓吉郎 本庄榮治郎 編大觀部堂 長谷琴治	二・五〇 三・〇〇 二・〇〇 二・〇〇	四・〇〇 四・〇〇 三・八 三・八	研 究 社 日 本 研 究 所 大 觀 堂 書 店 ジ ャ パ ン 社
三月									

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
Fifty-Eighth Annual Report of the minister of State for Education	文部大臣官房文書課	一五・〇〇	一〇六	文部大臣官房文書課	The Pelagic Copepoda from the Neighboring Waters of Japan	森喬以	六・〇〇	一〇三	森喬以
Data of Athletic games and Olympic Conditions 1936	金栗四三	一五・〇〇	一〇三	體育運動協會	From Buddha to the Christ	ビ・エ・スミス	三・〇〇	一〇三	聖公會出版社
Classified Catalogue of Foreign books	東京商工會議所	三・〇〇	一〇三	東京商工會議所	英語の抑揚	エツチ・ハイマ	三・〇〇	三	拓社
現代獨逸文法講話 品詞論	岡本修助	三・〇〇	一〇三	三省堂	Diccionario Japonés, Español	ホアン・カルボ	二〇・〇〇	一〇三	三省堂
五月	花岡止郎	一・〇〇	一〇三	國際思想研究會事務所	Cinema Year book of Japan	畫國際映	二・〇〇	一〇三	同
Japanese Conflict with the Levit of Bolshevism in the Far East.	大 阪 學 帝	一・〇〇	一〇三	大阪帝國大學	The Japan Christian Year book	ブライ・テール	二・五〇	一〇三	敬文館
Collected papers from the Faculty of Medicine	勝俣銓吉郎	二〇・〇〇	一〇三	日本旅行協會	A Study of Shinto: the Religion of the Japanese Nation	明治聖德記念學會	五・〇〇	一〇三	明治聖德記念學會
Gleanings from in Japan.	佐伯好郎	三〇・〇〇	一〇三	東京文化學院	The Indo-Japanese Business Directory	日印協會	五・〇〇	一〇三	日印協會
The Nestorian Documents and Relics in China.	國 際 文 化 振 興 會	三・八〇	一〇三	東京研究所	西藏語讀本(一)	河口慧海	二・一〇	一〇三	大藏學會
Readings in Japanese Culture	川村彰一	七・〇〇	一〇三	ジヤムパン社	We Japanese, 2	山口正造	二・五〇	一〇三	富士屋ホテル株式會社
Japan in 1937	市村晴子	三・五〇	一〇三	研究社	Houses and People of Japan	ブルノ・タウト	三・八〇	一〇三	三省堂
Japanese Lady in Europe.	田丸卓郎	五・五〇	一〇三	岩波書店	How the north China affair arose.	豐島擴	三・〇〇	一〇三	日本外事協會

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
ARC of Japanese Art.	光 協 會 觀	五・五〇	一〇六	國際觀光協會	Crundtlesbuch, 1.	立澤剛	二・〇〇	一〇三	南江堂
Geographical Complete seven Figure Code in English, French, German.	白井健次	三・五〇	一〇六	白井健次	Oriental Improned Code.	山口清雄	一・八〇	一〇三	山口清雄
Tenrikyo.	天理教教廳海外傳道部	非	一〇六	天理教教廳海外傳道部	Theoretical and applied Seismology.	今村明恒	七・〇〇	一〇三	今村明恒
Japanese School life through the Camera	青木節一	三・〇〇	一〇三	振興文會	Scientific Papers. 3.	寺田寅彦	五・九〇	一〇三	岩波書店
Japanalia.	各務良幸	五・〇〇	一〇三	三省堂	Important Branches of English Law.	冠木精喜	四・六〇	一〇三	巖松堂書店
Arbeiten aus den Anatomischen Institut zu Sendai.	東 北 帝 國 大 學	八・〇〇	一〇三	東北帝國大學	The Chronicle	同	三・三〇	一〇三	同
History of Japanese Education.	Kenji Higashi	五・〇〇	一〇三	北星堂書店	Japan A Country Founded by "Mother" an outline history.	デイ・ヤング	一〇・〇〇	一〇三	ジヤパン・ニコル新聞社
More letters from B. H. Chamberlain to Lafcadio Hearn.	小泉一雄	四・五〇	一〇三	同	The Japan year book. 1937	星 島 擴	二・〇〇	一〇三	日本外事協會
Japanese tales of all Ages. W. E. Harris.	W. E. Harris	二・八〇	一〇三	同	Why Japan had to fight in Shanghai.	豐島擴	三・〇〇	一〇三	日本外事協會
Shinrun and his Religion of pure Faith.	中井玄道	二・〇〇	一〇三	眞宗學研究所	聖書の英語	市河三喜	三・〇〇	一〇三	研究社
Life of the Japanese woman of to-day.	東京女子高等師範學校	一・五〇	一〇三	研究社	The Sino-Japanese Conflict.	豐島擴	三・〇〇	一〇三	研究社
Dem-drops on a Lotus Leaf.	ヤコブ・フインシヘル	三・八〇	一〇三	同	Jadants Case in the Shinghai Hostilities.	同	三・〇〇	一〇三	同
英語論文の書き方	松本環	三・五〇	一〇三	太陽堂書店					
Science Education in Japan.	第七回世界教育會議日本事務局	三・〇〇	一〇三	日本事務局					
System des Unternehmungsvelto.	米谷隆三	三・〇〇	一〇三	有斐閣					

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
The House of Mitsui	田村鐵輔	七・五〇	四〇	田村鐵輔社	Handbooks on the national language readers of Japan.	尾島喜久惠	五・〇〇	四六	三光社
The Foreign Firms and Residents of Japan, 1939-8	ド・エム・ス・ヤング	一五・〇〇	七〇	神戶大坂	Present-day Nippon.	大道弘雄		二三	朝日新聞社
The Archaic and Evolution of The Semitic Alphabet	小辻節三	一〇・〇〇	三九	文教館	Marine fishes of the Pacific Coast of Mexico.	熊田頭四郎		一七	日産水産研究所
Niyaku no Kikai	永尾節郎	一〇・〇〇	五五	荷役機所	Bronfko Japana. 3.	野原休一	一・二〇	一七	日本エスベラ社
Glimpses of the East.	川田友之			山田友之	Japanese Catholics view the Sino-Japanese Conflict	カトリック大辭典編輯所		一四	カトリック大辭典編輯所
十一月					Commemoration Uolme.	明治聖德會			明治聖德會
An Interpretation of the life of vis-count Shidzawawa.	小畑久五郎	三・五〇	三九	澁澤青淵翁記念會	十二月				
The truth behind the Sino-japanese Crisis.	川村彰一	一・五〇	一〇四	ジヤパンタイムズ社	America and Japan in amity and trade.	石原博		三六	大阪毎日社
Japanese and Oriental Political Philosophy.	藤澤親雄	三・五〇	二六	大東文化協會	The Japan-Manchoukuo China Year book 1938	芝東伍		三三	新ヤパン・マニユール年鑑社
La Position du Japon dans le Conflit Sino-Japanais.	森新一		五	日佛同志會	Japan-china pictorial primer.	協善會			善平洋親會
El. Japan.	星一	二・〇〇	三六	星同窓會	Monumenta Nipponica.	ヨハネス・フラウス	五・〇〇	二九	上智大學
Researches into Idioms.	寺田政治	五・〇〇	五〇	興文社	Japan Photo Almanac.	古野角之助	五・〇〇		同盟通信社
Why Japan fights who is the Aggressor?	山本貴三		四	有明社	When Japan Fights.	Rercy Noei	二・八〇	二九	北星堂書店
The Japan Manchoukuo Year book 1938.	芝東伍		二七	ジヤパン・マニユール年鑑社	The Case for Japan.	編北星所堂	三	八一	同

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
Official view of the Sino Japanese Conflict.	輸出組合	非	三	輸出組合	Some remarks on the Recent Sino-Japanese Conflict.	輸出組合	非	二	輸出組合
Justification For the Sino-Japanese Conflict as seen by Japanese students.	立教大學英語會		三	立教大學					
After the Chino-Japanese incident what?	武藤貞一	二・〇〇	一〇五	立命館出版部					
Japan trade Guide.	古野伊之助	三・五〇	七三	同盟通信社					
We Japanese	山口正造	二・五〇	二〇〇	富士屋ホテル株式會社					
Rassenkunde der Aino.	古屋芳雄	一〇・〇〇	三九	日本學術振興會					
The Principle of the open doors in China and Manchoukuo	豐島擴		三	日本外事協會					
A Selection of Japans Emergency Legislation.	W. J. Sebald.	一〇・〇〇	一七	ジヤパン・クロニクル・プレス					
The Japan china Conflict and xhe attitude of Japan.	小松雄道		三	全學聯盟					
Consideraciones de los Conolicos Japanese acerca del Conflicto Sino Japonés	カトリック大辭典編輯所		五	小林珍雄					
Le Point de une Catholique sur le conflit Sino-Japanais.	同		五	カトリック大辭典編輯所					
Die Japani chen Katholiken zum chinesisch-Japanischen Streit.	同		一五	同					
Hom about gining Japan a break?	太善協會		四	善平洋親會					
The Japanese empire Year book 1938.	親善協會		三六	善平洋親會					
Directory of Made in Japan.	芝東伍		三三	ユジャパン・マニユール年鑑社					
	塚田十五郎	三・五〇	三	國際産業協會					

書名の讀ならはし

續日本記、續日本後記、續世繼の續はシヨク	
舊事記	クジキ
姓氏錄	シヨウジロク
令義解	リヤウノギゲ
令集解	リヤウノシフゲ
江家次第	ゴウケシダイ
類聚三代格	ルイジュサンダイキヤク
十訓集	シツクンシフ
庭訓往來	テイキンオウライ
古今和歌集	コキンワカシウ
古今著聞集	ココンチヨブンシウ

禮記	ライキ	
周禮	シユライ	此三書を總稱する時はサンライ
儀禮	ギライ	
淮南子	エナンジ	
舊唐書	クタクウシヨ	但地名の時はワイナン
說苑	ゼイエン	
通鑑	ツガン	
文選	モンゼン	
說文	セツモン	
參同契	サンドウカイ	

(一四) 歴史・傳記

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
日本歴史物語全集	菊池 寛	・壹圓二角	四三三	新日本社
日本建國物語	錦織竹香	・三圓三角	三三三	東洋圖書株式會社
古今服裝の研究	松下芳男	・一圓五角	四三六	忠勇社
話題の陸海軍史	村上直次郎	・四圓四角	四五五	日蘭交通史料研究會
抄バタバヤ城日誌(上)	河川愛川	・一圓五角	四九	一心社
史實日本冤罪史	河口安三	・一圓三角	三三	建設社
少年大日本史(一〇)	佐野袈裟美	・一圓六角	三六	白揚社
支那歴史讀本	藤井秀五郎	・非	一册	太閣會出版部
太閣繪卷	重森三玲	・六圓	一册	有光社
日本庭園史圖鑑				
桃山時代				

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
明治史話	井上精二	・一圓二角	二七〇	明治大正史談會
宮本武藏五輪書	大木陽堂	・八圓二角	一三	教材社
日本名婦傳	龍居松之助	・一圓八角	三五〇	北斗書房
愛知縣傳説集	愛知縣教育會	・一圓八角	三三	郷土研究社
アイヌ民譚集	知里眞志保	・二圓	一七	同
パスカル傳及論集	竹村 清	・一圓	六	新生堂
小笠原長生全集	小笠原長生	・五圓五角	五五	平凡社
東郷元帥詳傳	奥平祥一	・一圓八角	四	春秋社
尊徳全傳	アーサー・トランス	・一圓五角	二九	昭森社
ジャングル王	千村賢宗	・一圓	五	東亞書房
高橋是清傳	秋月正雄	・一圓	五	東亞書房
長尾半平傳	石井 滿	・三圓	五	文教館
建國の由來と國體の本義	有元史郎	・二圓	三	大日本教育會
北米加州スタクトン同胞史	大橋貫造	・非	一册	須市日本人會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
增補日本民家史	藤田元春	一〇〇〇	四七四	刀江書院
日本文化史點描	西村眞次	二〇〇	三六	東京堂
聖德太子と日本文化	花山信勝	三〇〇	一五	日本文化協會
東洋文化史概説	上野菊爾	三〇〇	五〇	清教社
十五年史 後編	吉田榮三郎	二〇〇	二四	電氣協會
兵庫縣書籍雜誌商組合三十年誌	柏佐一郎	一〇〇	三三	兵庫縣書籍雜誌商組合
唯物日本歴史	橋本弘毅	一五〇	四七	白揚社
教授日本文明史講話	岡輝男	二七〇	四三	南光社
奈良市史	奈良市役所	二〇〇	五八	奈良市役所
富山市史(附録)	富山市役所	二〇〇	四四	富山市役所
國文六國史(五)	今泉忠義	二八〇	四四	大岡山書店
物語日本史七(織田時代)	長坂金雄	六〇〇	四三	雄山閣
日本庭園史圖鑑	重森三玲	六〇〇	〇	有光社
江戸時代末期	香春建一	一八〇	三六	改造社
大西郷突圍戰史	小林健三	八〇〇	八元	刀江書院
建武中興と金崎	中山久四郎	二〇〇	四三	教材社
齋藤先生 記念論文集	稻葉四郎	二〇〇	三	第百書房
結城豊太郎と池田成彬	伊佐秀雄	二〇〇	三	生命の光社
林 銑十郎	海保 徳	二〇〇	四	岩波書店
皇室中心主義の急先鋒	ウオルボール作 西田 琴譯	一三〇	四五	心霊科學研究會出版部
ジエレミ	淺野和三郎	一五〇	二六	文化研究所
靈界小櫻姫物語	國民精神文化研究所	一五〇	五七	福田大將軍會
山鹿素行集(一)	黒板勝美	一五〇	四九	雄山閣
福田大將傳	雄山閣編輯局	一五〇	三三	信正社
人間豊臣秀吉	淺野歳郎	一七〇	四九	中央公論社
明治・大正・昭和 志士秘録	水野廣徳	一五〇	八四	常總新聞社
日本名將論	佐藤兼助	一五〇	四	さくら書房
日本孝子傳	日支事情調査會	一〇〇	二八	建設社
極東に躍る! フリニツヘル毛澤東とはどんな男か? 偉人讀本 高橋是清	田村 榮	一〇〇	二八	建設社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
維新史料綱要(一)	維新史料編纂事務局	六〇〇	六三	編纂事務局
蒙古近世史	I・J・コロスト 高山 洋 吉澤 武	三〇〇	四六	東學社
吉備郡史(上)	吉備郡教育會	非	二五	吉備郡教育會
少年武藏坊辨慶	上原一實	二〇〇	四二	大同館書店
巨人齋藤實	村上貞一	一三〇	三七	新潮社
聖德太子傳古今目錄抄	荻野三七彦	二〇〇	〇	法隆寺
聖德太子傳古今目錄抄の基礎的研究	同	二〇〇	〇	同
智能の英雄	京谷大助	一五〇	三三	千倉書房
陸軍名物男	綿貫六助	二〇〇	五	森田書房
人生探究者・ドストエフスキ	竹村 清	一四〇	二四	新生堂
武人林銑十郎	清川逸郎	二〇〇	天	森田書房
シンブソン夫人詳傳	香川道夫	一〇〇	三七	北斗書房
變態風俗史料	相馬二郎	一五〇	五九	金龍堂出版部
明治大正國民史(中編)	白柳秀湖	一五〇	五四	千倉書房
近世社會經濟學說大系 救世祖・三浦梅園集	尾崎行雄	一八〇	二七	誠文堂新光社
武家時代の研究(三)	大森金五郎	一八〇	四三	興文社
史料大成(三〇) 康富記(三)	川俣馨一	一三〇	四〇	内外書籍株式會社
近世中國史	風間 阜	三〇〇	三九	叢文閣
偉人暗殺史	坂井邦夫	一八〇	五二	玄林社
大日本海軍史 海の旗 風明治篇	中島 武	二〇〇	三五	芙蓉莊
歐洲大戰史の研究(一)	石田保政	一三〇	一三	陸軍大學校將校集會所
伊邪那美尊神陵の研究	山陰史蹟研究會	二〇〇	二三	大同館書店
大日本史料第一編之十	東京帝國大學	七〇〇	九五	東京帝國大學文學部史料編纂所
仙臺風俗志	鈴木省三	二五〇	三五	雨香閣
日清・日露戰爭史話	渡邊幾治郎	一五〇	四〇	千倉書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
大友史料(一)	田北學	三〇〇	三〇九	金洋堂書店
日本移民概史	卷島得壽	非	一〇〇	海外興業株式會社
物語日本史(三) 源平時代	長坂金雄	關一〇	一〇一	雄山閣
大聖寺藩史談	石川縣圖書館協會	關二五	二五三	圖書館協會
乃木將軍	木村毅	一五〇	三三六	千倉書房
大藏大臣結城と日銀總裁池田半生功罪史	小泉孝吉	二〇〇	六六	時事速報社
積惡の宗教王伊藤道海	荒井積善	二〇〇	四七	武藤直嘉
若き日の西郷	松山悦三	二五〇	三三	高千穂社
街の人物評論	杉山平助	一〇〇	三三	亞星書店
林銑十郎傳	樺山友義	一三〇	五五	北斗書房
劍客逸話集	島村喜勝	一五〇	三二	武專同窓會
回顧錄	山中忠雄	非	二七	日本旅行協會
幽谷正志齋東湖	高須芳次郎	四三六	三六	北海出版社
西村茂樹・杉浦重剛	海後宗臣	四九八	同	同
W・O・イーストレーキ 準戰時體制下の先生傳	今田見信	二〇〇	二六	齒苑社
吉田松陰論	大野慎	二〇〇	五五	東京パンフ社
本居宣長研究	國學院大學道義學會	一八〇	三六	青年教育普及會
菊池寛傳	鈴木氏亨	一七〇	五二	實業之日本社
板垣征四郎と石原莞爾	菅原節雄	二〇〇	三七	今日の問題社
杉山元と小磯國昭	同	二〇〇	三三	同
ゲートとトルストイ	菅谷恒徳譯	一〇〇	三三	藝社
金太郎誕生譚	高崎正秀	二五〇	四三	人文書院
皇國紀元二千六百年史	齊藤與治郎	關	同	同
日本歴史概説上	川上多助	二八〇	四〇	岩波書店
史觀究明高一國史の民性長養 實踐細説	大森與吉	二二〇	六九	四海書房
櫻井勝三	櫻井勝三	二二〇	六九	同
木宮泰彦	木宮泰彦	三七〇	六五	富山房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
防長維新秘録	野原秋草	七〇〇	九六	防長新聞社
寧樂時代の文化史	淺賀辰次郎	二二〇	四六	中文館書店
日本歴史讀本	早川二郎	二〇〇	四四	白揚社
民族文化史	河崎萬里譯	三〇〇	四五	刀江書院
日本文化史大系三 (奈良文化)	田中一彦	關五二	五一	誠文堂新光社
伊賀史の研究三十年	岡田榮吉	關四四	四四	伊賀史談會
明治元年 泉州堺列擧	寺石正路	一六〇	七一	寶文館
土佐藩士	池田米壽	二〇〇	二四	住吉屋書店
日本武尊の研究	吉田三男也	一七〇	五五	敬文館
新訂日本史參考	武藤長藏	四五〇	七五	内外出版印刷株式會社
日英交通史の研究	有高原	四八〇	六四	同文書院
概観 東洋通史	德富猪一郎	五〇〇	五八	民友社
近世日本國民史 筑波山一擧の始末	黑板勝美	二五〇	三一	吉川弘文館
資料 國史概観	大日本史料第三編之八	七〇〇	一〇五	東京帝國大學文學部史料編纂部
ウエルズ 少年世界文化史(一)	松平道夫	一〇〇	三七	春秋社
稻葉山城史	村瀬茂七	二〇〇	三三	博文堂書店
日本電池株式會社二十年史	可兒明義	非	二九	日本電池株式會社
維新史料綱要(二)	維新史料編纂事務局	六〇〇	六四	維新史料編纂事務局
智證大師	宮城信雅	一五〇	三六	圓城寺
維新志士の遺言書	諏訪正	二六〇	三三	諏訪正
山岡鐵舟 おれの師匠	石津寛	二〇〇	四七	春風館
先生正傳 加波山事件當時自由黨の闘士	牛山榮治	二〇〇	三三	田村長流出版部
白井治三郎生記	田村周助	一〇〇	三〇	ヘレンケラー女史歡迎委員會
ヘレン・ケラー小傳	和島芳男	二〇〇	二四	櫻雲閣
建武中興と新田義貞公	和島芳男	二〇〇	二四	櫻雲閣
深淵の人	張赫宙	一八〇	二七	赤塚書房
森永太一郎傳	山本清月	一八〇	二七	關谷書店
後藤新平(一)	鶴見祐輔	非	九九	後藤新平伯記編纂會
池田成彬	高倉忍	三〇〇	三八	青雲社
日本偉人信仰實傳上	加藤咄堂	七〇〇	一〇五	大東出版社
同 下	同	七〇〇	一〇七	大東出版社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
淺野長勳自敘傳	淺野長勳	一〇〇	一〇八	平野書房
平安老母	岡田久次郎	一〇〇	一〇八	平野書房
元祿義舉雜纂	岩崎元一	二〇〇	四六	成光堂
聖女へれん・けらあ	沖野岩三郎	一〇〇	三一	金星堂
六代目菊五郎傳	濱村米藏	七〇〇	三七	新陽社
皇軍の華後宮少尉の傳	淺野庫一	非	二八〇	步兵第六十一聯隊將校團
乃木大將	林房雄	一〇〇	二三	第一書房
五月				
増新修有職故實	江馬務	四〇〇	三五	星野書店
史學綱要	ドロイゼン 樺俊雄譯	一七〇	三三	刀江書院
自證過程としての歴史	紀平正美	非	七	國民精神文化研究所
歴史觀	川合貞一	一〇〇	天	文化研究所
綜合國史概説	太田眞亮	二五〇	七三	立命館出版部
物語日本史(二)代下	阿部眞琴	二五〇	七三	立命館出版部
長坂金雄	長坂金雄	二五〇	七三	立命館出版部
能登志 徵上編	石川縣圖書館協會	非	五五	石川縣圖書館協會
新西洋史教授資料	仲榮太郎	非	四〇	三省堂
日本文學史講話上	久松潜一	二五〇	三九	國民教育會
大日本國民史(七) 皇政維新時代	森谷秀亮	一五〇	四九	太陽閣
國史資料集(一)	國民精神文化研究所	四〇〇	四三	國民精神文化研究所
神武天皇鳳蹟志	國府犀東	三〇〇	二五	春秋社
大日本史料 第六編之二十八	東京帝國大學文學部史料編纂所	七〇〇	九〇	東京帝國大學文學部史料編纂所
偉人暗殺史	坂井邦夫	一〇〇	三三	文林社
奈良時代の土地制度	早川二郎	六〇〇	一八〇	白揚社
原始文化の研究	雄山閣編輯局	一五〇	四七	雄山閣
圖世界史話大成(八) 戰亂篇	仲小路彰	二五〇	五四	高志書房
東京府史 行政篇(一)	東京府	一〇〇	七〇	東京府
同 (二)	東京府	一〇〇	七〇	東京府
同 (三)	東京府	一〇〇	七〇	東京府

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
嵯峨天皇と平安朝文化	黑板勝美	一〇〇	三三	日獨文化協會
日本戰史の研究	澤邊哲彦	一〇〇	三三	日獨文化協會
世界大戰(四)	ウイニントン 廣瀬將他二名譯	一五〇	五六	非
東京書籍商組合 五十年史	目黒甚七	非	三〇	東京書籍商組合
大川平三郎翁逸話集	小川桑兵衛	一五〇	三六	情報之世界社
伊能忠敬	伊達牛助	一〇〇	一七	古今書院
獨學で得た博士の榮冠	春山霞男	一〇〇	三三	太陽閣
大西郷全傳(一)	雜賀博愛	三〇〇	六九	大西郷全傳發行會
孔子傳	岡村利平	二〇〇	三四	春陽堂書店
國木田獨步	福田清人	一〇〇	三〇	新潮社
宰相林銑十郎	佐伯平造	非	三三	靜軒會
景岳橋本左内	榮谷貞吉	一五〇	三五	武藏野書院
山中鹿介	滋賀貞	一〇〇	三三	武藏野書院
素上杉謙信	栗岩英治	一〇〇	二五	村及町研究所
鳥瀉博士を憶ふ	小林謙三	非	一〇〇	故鳥瀉博士追悼會有志
南洲翁逸話	宮本武藏 風の巻	一〇〇	三三	批判博士人物增補版
實傳 江川坦庵	山鹿素行 先生	一〇〇	三三	實傳江川坦庵
大日本三十至孝畫傳	日蓮門下高僧傳	一〇〇	三三	大日本三十至孝畫傳
六月				
フランシス 日露海戰前篇	伊藤銳太郎	一五〇	三七	伊藤銳太郎
文永寺史	倉田俊一	一五〇	三七	倉田俊一
物語日本史(九) 徳川時代上	長坂金雄	一〇〇	三七	長坂金雄
圖說世界史話大成(一)	仲小路彰	二五〇	四九	仲小路彰
日本建國講話	熊田葦城	一〇〇	三三	熊田葦城
大日本文庫國史篇 一	和田利彦	非	五五	和田利彦
順德天皇佐渡史	山本幸作	一〇〇	一四	順德天皇佐渡史
石神今太	吉川英治	一〇〇	六三	吉川英治
井關九郎	井關九郎	八〇〇	一〇	井關九郎
戸羽山瀨	戸羽山瀨	二〇〇	四四	戸羽山瀨
松本純郎	松本純郎	一五〇	三九	松本純郎
秋山大鳳	秋山大鳳	一〇〇	三二	秋山大鳳
秋山美桐	秋山美桐	一〇〇	三二	秋山美桐
馬田行啓	馬田行啓	二五〇	六四	馬田行啓
鹿兒島縣 教育會 大日本雄辯會 講談社				
發展社出版部				
堺屋書店				
至文堂				
大日本教				
忠孝堂				
大東出版社				
昭森社				
山村書院				
雄山閣				
高志書房				
京文社				
春陽堂書店				
順德天皇佐渡史 御靈蹟參拜會				

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
近世日本 内外交渉篇	徳富猪一郎	五〇〇	四九七	民友社	業界の指導者	中村陸男	五〇〇	一六三	帝國實業
少年國史物語(二)	前田 晁		三九	早稲田大學出版部	近江聖人中江藤樹	大久保 龍	一八〇	三六	興信社
名城ものがたり	大道弘雄	一三〇	五五	朝日新聞社	鄭 濱 子	小林橋川	二〇〇	三三	愛國婦人會
世界 大 戰(五)	廣瀬 義典 他二名譯	一五〇	五四	非 凡 閣	伯爵鹿島萩麿	鹿島 家	三〇〇	三六	愛知縣支部
世界文化史大系(一)	鈴木 良		三五	誠文堂新光社	石 原 莞 爾	西郷綱作	一四〇	三六	鹿島 家
日本 書 紀 下	鈴木初雄	五〇	七一	三教書院	江戸名人傳	邦枝完二	一八〇	三三	大都書房
改訂日本國民思想史	清原貞雄	四八〇	六五	寶 文 館	鳩山一郎の暗黒面	濱田 寛	二〇〇	三三	正 氣 社
應史編纂資料	警 視 廳	非	三五	警 視 廳	惟神道の權田直助	神崎四郎	三〇〇	三三	阿夫利神社
日本歴史教程(二)	渡部義道 他三名	一六〇	五六	白 揚 社	現代日本人物名鑑(二)	伊藤三郎	七〇〇	五三	經濟時代社
増訂日本 歴史	長沼賢海	三〇〇	五三	博文 館	青年宰相 近衛文磨公を語る	溝口直樹	二〇〇	五九	森田書房
大川平三郎傳	野依秀市	七〇	一三	秀文閣書房	七 月				
財界巨星二十人傳	人物評論社	二〇〇	六〇	人物評論社	日本文化史大系八 安土・桃山文化	田中一彦	三〇〇	三六	誠文堂新光社
日本新聞人群像	荒木武行	七〇	一六	新聞時代社	唯物史觀ドイツ史	永田廣志	一八〇	四六	白 揚 社
現代業界人物集	中島從宜	七〇	二〇	經 世 社	國 史 通 論	中村直勝	二〇〇	三三	星野書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
日本文化史の研究	長沼賢海	五〇〇	六〇	教育研究會	建國神話論考	三品彰英	三〇〇	二九	日 黑 書 店
大日本史料(第二編之六)	東京帝國大學	七〇〇	九四	東京帝國大學文學部史料編纂所	憲政五十年史	天野良和	三〇〇	三六	日 本 學 會
明治維新と天忠組	影山正治	五〇	一三	維 新 寮	勤王志士遺文集(三)	和田利彦	非	六三	春陽堂書店
朝鮮 歴史 讀本	李 清源	一五〇	三八	白 揚 社	後醍醐天皇宸翰集	國民精神文化研究所	三〇	三三	國民精神文化研究所
ソヴェトゲ・ペ・ウ秘史	日本外務省	一〇〇	三三	高山書院	長慶天皇山中陵私考	天野隆義	非	九	天野隆義
大日本國民史(六)	井野邊茂雄	一五〇	四一	太 陽 閣	明治大正國民史 (明治終編)	白柳秀湖	一五〇	四三	千倉書房
世界 大 戰(六)	ウイストン 廣瀬 義典 他二名譯	一五〇	四六	非 凡 閣	歴史 日 鑑	田原新作	二〇〇	三三	歴史日鑑刊行所
ウエルズ少年	松平道夫	一〇〇	三四	春 秋 社	歴史地理の研究	魚澄惣五郎	二五〇	三八	星野書店
幕防長勤王史談(一)	得富太郎	一〇〇	一四	幕末防長勤王史談刊行會	少年國史物語(三)	前田 晁	三〇〇	三三	早稲田大學出版部
琉球王代文獻集(一)	屋良朝陳		一六	琉球王代文獻頒布會	常野信三州ノ戰蹟 (同 附圖)	貴島次郎	三〇〇	二册	宇都宮偕行社
邦人海外發展史(上)	入江寅次	三五〇	五八	國際日本協會	畫訓二宮尊徳先生	石田傳吉	一〇〇	三五	讀 書 新 開 社
お母さんの創つた日本	星 一	一八〇	二七	星 一	ス タ ー リ ン	バルビユス 杉山英樹譯	一三〇	三八	文藝春秋社
日本歴史考古學	後藤守一	四八〇	七九	四海書房	人間西郷第二部 新日本建設の西郷	松山悦三	一六〇	二三	高千穂社
近世日本舞踊史	石井國之	三〇〇	三三	帝都演藝社	大西郷全傳(二)	雜賀博愛	三三〇	六四	大西郷全傳刊行會
物語日本史(一二)	長坂金雄		三四	山 閣	クラーク先生とその弟子達	大島正健	一八〇	二六	帝國教育會出版部

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
山本英輔大將と輝く父と母	宇垣各晟	非 二八	二八	皇國青少年教化事業聯盟
晚香岡崎邦輔	小池龍信	非 四七	四七	松雲莊文庫
嗚呼至誠堤正之君	井浦祥二郎	非 二二	二二	井浦祥二郎
噫乃木將軍	高部勘次	一五〇〇	一五〇〇	乃木將軍遺德顯揚會
楠公と頼山陽	鹽谷温	一八〇〇	一八〇〇	蒼龍閣
ドオミエと彼の時代	鈴木秀三郎	二〇〇〇	二〇〇〇	泰山房
武人時局を語る 提督山本英輔	前田義雄	二〇〇〇	二〇〇〇	森田書房
スカーリンン傳	エス・トミトリ	一四〇〇	一四〇〇	橋書店
古市公威	故古市男爵記念事業會	一四〇〇	一四〇〇	故古市男爵記念事業會
女博士列傳	長島讓	一五〇〇	一五〇〇	科學知識會
後藤新平(二)	鶴見祐輔	非 一〇〇	一〇〇	後藤新平伯爵傳記編纂會
日本業界人物傳	中村牟都雄	二五〇〇	二五〇〇	中央經濟社
八月	仲小路彰	二五〇〇	二五〇〇	高志書房
秘維新七十年圖鑑	相馬基	六〇〇	三五九	東京日日新聞發行所
大日本國民史(四)	本多辰次郎	一五〇〇	四四七	太陽閣
國史學習の心理	丸山良二	一五〇〇	二九七	晃文社
大和天河朝廷の研究	井頭利榮	一〇〇〇	一三三	皇國日報社
鎌倉大日記	頼朝會	一三〇〇	三三	頼朝會
愛媛國粹史	藤原喜代市	一五〇〇	一七五	愛媛國粹史刊行部
尾張史料の新研究	森徳一郎	一四〇〇	一七五	森徳一郎
皇國日本史	中澤宇三郎	一四〇〇	七三	萬朝報社
抄譯バタビヤ城日誌	村上直次郎	四〇〇	四四	日蘭交通史料會
國史と國體	明治大學史學會	七〇〇	一四	明治大學史學部
杵屋佐吉を語る	山崎青雨	二二〇〇	三三	世田谷蝸房
躍進日本の巨星	山田秀穂	五〇〇〇	二〇〇	銀行會社
武人時局を語る 提督山本英輔	前田義雄	二〇〇〇	二〇〇	昭和書房
佐々木平次郎	小野田正	非 七〇	七〇	小野田正

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
增支那革命外史	北一輝	二五〇	四〇	後藤傳兵衛
補支那革命外史	長坂金雄	一五〇	三三	雄山閣
藤原時代中	大森金五郎	一五〇	三三	三省堂
室町時代物語集(一)	横山重	六五〇	三三	横山重
海洋發展史	太田武夫	一五〇	三三	海洋協會
世界大戰(七)	庄又三郎	一五〇	三三	非凡閣
洪牙利史	ウラスタン	一五〇	三三	非凡閣
異論奇說新學說考	藤井尙治	一八〇	三三	牧製本出版部
大塔宮之吉野城	中岡清一	一八〇	三三	日本書莊
唯物北米合衆國史	廣島定吉譯	一五〇	三三	吉野叢書
唯物支那史	大橋哲哉譯	一五〇	三三	白揚社
新訂國史大系(五四)	黒板勝美	九〇	二四	同
少年國史物語四	前田晃	一三〇	三三	早稲田大學
人種學的に見たる民族發達史	古在學	一三〇	三三	泰山房
侯爵久通邦久傳	武島嘉三郎	非 三七	三七	飯田七三郎
藤原銀次郎論	貴島桃隆	一三〇	三三	國際經濟研究所
工學博士長谷川謹介傳	長谷川博士傳編纂會	非 三三	三三	長谷川博士傳編纂會
傳文化勳章に輝く人々	日本文化會	一八〇	三三	日本文化會
人間一茶の生涯	吉松祐一	二〇〇	四〇	大同館書店
小瀬義民の顛末	高井良水	一五〇	三三	秀錦堂印刷所
西園寺公望傳	木村毅	一〇〇	二二	傳記刊行會
ハイチ獨立運動の闘將	平山米三	四〇〇	八三	教文館
テニサント・ルーヴァアチエア	森中章光	一八〇	三三	洗心會
新島襄先生(一)	長坂金雄	七〇〇	三三	雄山閣
物語日本史(五)	吉野時	七〇〇	三三	東京帝國大學
大日本史料(七ノ七)	皇	七〇〇	三三	東京帝國大學
後小松天皇	西雅雄譯	一八〇	三三	白揚社
唯物歐洲古代史	渡邊幾治郎	一五〇	三三	太陽閣
大日本國民史(九)	日清戰役時代	一五〇	三三	太陽閣

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
日本最近世史序論	藤井甚太郎	一・〇〇	圖一〇〇	松華堂書店	河内國瀧畑 左近熊太翁舊事談	宮本常一	二・六〇	圖三〇六	アチック・ミユ ・Iゼアム
自證過程としての歴史	紀平正美	四・〇〇	圖七〇	日本文化協會 出版部	回想の寺田寅彦	小林勇	一・五〇	圖二四〇	岩波書店
大日本海の旗風 <small>昭和 海軍史</small>	中島武	二・〇〇	圖三九	芙蓉社	増補乃木希典	宿利重一	一・八〇	圖四六	春秋社
圖世界史話大成(七)	仲小路彰	二・五〇	圖四五	高志書房	増補乃木靜子	同	一・八〇	圖四三	同
防長精神史序説	小川五郎	非	圖二四	防長文化 研究会	白河樂翁公傳	佐久間男留	一・〇〇	圖一四	堀川古楓堂
東洋歴史概説	出石誠彦	一・三〇	圖一五	大觀堂書店	堤清六の生涯	内藤民治	非	圖〇九	曙光會
讚岐勤王志士遺墨集	高松中學校 如水會	非	圖二八	高松中學校 如水會	蔣介石と白崇禧	本多芳次郎	一・〇〇	圖三	森田書房
世界大戦(八)	廣瀬昌隆 チャールズ ウイニントン 他二名共譯	一・五〇	圖四四	非凡閣	南大將傳	吉武研	一・五〇	圖三四	兩豐新報社
稿金澤市史(政治編二)	金澤市役所	非	圖三三	金澤市役所	靈的方面より觀たる 牧野頭取	瀧川辰郎	二・三〇	圖五四	會通社
新東洋史綱要	丹羽正義	一・八〇	圖二八	弘文堂書房	山に逝ける人々	春日俊吉	一・五〇	圖三三	朋文堂
女性史研究	歴史教育 研究会	二・〇〇	圖四六	四海書房	聖人中江藤樹	柴田甚五郎	二・六〇	圖三	弘學社
近世日本國民史	徳富猪一郎	五・〇〇	圖五三	民友社	大和島庄石舞臺 の巨石古墳	濱田耕作	九・〇〇	圖	桑名文星堂
長州征伐	元木福治	三・〇〇	圖五	大勢出版社	國史上より見たる 豊橋地方	大口喜六	五・〇〇	圖八四三	刊豐橋市史談會
日本精神と三種の神器	大戸徹	二・五〇	圖六〇	國民教育會					

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
人種學的に見たる 民族發達史二	古在學譯	一・四〇	圖三九	泰山房	明治維新史讀本	田中惣五郎	一・五〇	圖三五〇	千倉書房
物語東洋史六隋唐時代	長坂金雄	非	圖三一	雄山閣	大村藩古切支丹 研究資料	山口宅助	五・〇〇	圖三五〇	中央書院
開港文化傳來史話	伊藤保二	二・三〇	圖二八	花東社	日本神代文化研究總論	田多井 四郎治	非	圖一五〇	田多井四郎治
日本文化史大系五 平安後期文化	田中一彦	非	圖三五	誠文堂新光社	觀史	川合貞一	一・三〇	圖五	日本文化 協會出版部
大日本國民史二 武家擡頭時代	龍肅	一・五〇	圖四三	太陽閣	幕末防長勤王史談二	得富太郎	一・〇〇	圖一六	幕末防長勤王 史談刊行會
國史寫真大集成 先史・原史	永江博	非	圖	永江博	吾文澤柳政太郎	澤柳禮次郎	二・五〇	圖三三	富山房
國史寫真大集成 吉野朝	同	非	圖	同	東海美女傳	村松梢風	一・七〇	圖五九	中央公論社
加賀志徴下	太田敬太郎	非	圖五〇	石川縣 圖書館協會	島木赤彦	守屋喜七	圖二九	久保田俊彦先 生追悼謝恩會	
物語日本史二 藤原時代上	長坂金雄	非	圖三〇	雄山閣	親としての乃木將軍	菊池又祐	二・三〇	圖四三	第一出版社
近古史談釋義	信濃教育會	九・〇〇	圖二九	信濃教育會	木内重四郎傳	馬場恒吾	非	圖四四	ヘラルド社
歷史的世界	高坂正顯	二・七〇	圖三三	岩波書店	楠木正成	武者小路 實篤	一・五〇	圖三〇	大日本雄辯會 講談社
維新史料綱要四	維新史料 編纂事務局	六・〇〇	圖六九	維新史料 編纂事務局	事變と八將軍	前田義雄	二・〇〇	圖五	東京朝野 新聞出版部
日本古代史論	清原貞雄	五・五〇	圖六三	雄山閣	苦闘田中庄一郎 を語る	岡林正統	非	圖三六	駿々堂書店
吉田藩昔語	戸田友士	二・〇〇	圖一八	吉田同鄉會	後藤新平三 鶴見祐輔	大野慎	二・〇〇	圖四	後藤新平伯傳 記編纂會 東京パンフ 社
皇室制度史一	帝國學士院	非	圖三	帝國學士院	西都南洲論	大野慎	二・〇〇	圖四	東京パンフ 社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
滿洲事變 戰疫者忠勇列傳	伊藤幸太郎	非	四三	伊藤幸太郎
大科學者の歩める道 ローベルト・コッホの生涯	宮島幹之助 石川鍊次	非	四三	富山房
俳人 蕪村全傳	加藤柴舟	四・五	四五	大觀堂書店
日本コンツエ 財界人 ルン全書一ニ 物讀本	鈴木茂三郎	一・五	三五	春秋社
西山 餘光	豐田重光	一・八	四六	協文社
機械のクライスラー 英雄	京谷大助	一・三	三九	千倉書房
新日本の建設と人物	小島德彌	二・九	四五	文教社
十一月				
フィンランド建國史話	舟岡省五 中村啓二	一・三	三三	桂千代造
琉球王代文獻集(二)	屋良朝陳	二・三	四二	琉球王代 文獻頒布會
史學要論	野々村戒三	二・三	四四	早稻田大學 出版部
モスコオ・一九三七年	リオン・フワイ ヒトワシガ 伊東鏡太郎譯	一・三	一八	春秋社
史的日本の特性	栗田元次	三・五	四六	文館
物語日本史一〇代中	長坂金雄	三・五	四六	山閣
東洋古代文化史談	石川三四郎	二・五	三七	書物展望社
モスコオ一九三七年	フワイ ヒトワシガ 加田顯治譯	一・二	四四	國際書局
櫻井忠温	櫻井忠温	一・五	四三	太陽閣
笠森傳繁	笠森傳繁	三・〇	五四	啓明會
高柳光壽	高柳光壽	一・〇	四六	三教書院
唯物支那史	同	一・〇	三七	白揚社
假名手本忠臣藏	井上十吉	四・五	一七五	丸善株式會社
新訂國史大系(二六) 增補	黑板勝美	一・〇	三三	國史大系 刊行會
物語東洋史二 春秋戰國時代	長坂金雄	二・六	三六	山閣
世界文化史大系三 古代支那及びインド	鈴木良	三・三	三三	誠文堂新光社
圖說世界史話大成(五)	仲小路彰	二・五	四三	高志書房
概觀フランス史	廣瀬哲士	一・五	三六	白水社
元帥上原勇作傳(上)	荒木貞夫	非	三六	元帥上原勇作 傳記刊行會
天慶兩軍の決戦 ハルマゲドン	酒井勝軍	三・〇	四六	神秘之日本社
御觸書天保集成(上)	高柳眞二 石井良助	七・〇	一〇四	岩波書店
五ヶ年を顧みて	三武鏡史	非	三九	國體擁護 聯合會
石清水八幡宮史 史料(八)	石清水八幡 宮社務所	三・〇	三〇	石清水八幡宮 社務所
西洋史古代・中世 物語日本史(一) 上古時代	佐藤秀男	一・五	三三	明治大學 出版部
滿鮮史研究中世第三册	長坂金雄	三・三	三三	雄山閣
國六國史(二)	池内宏	七・五	七〇	座右寶刊行會
日本文化史大系九 江戸前期文化	武田祐吉	二・五	三〇	大岡山書店
概觀朝鮮史	田中一彦	三・六	三六	誠文堂新光社
幕防長勤王史談(三) 末防	宮崎五十騎	一・五	一三	四海書房
幕防長勤王史談(三) 末防	得富太郎	一・〇	一八	幕末防長勤王 史談刊行會
物語東洋史(四)三國時代 兩晉時代	長坂金雄	非	三三	雄山閣
加賀藩史料(十一)	前田家	非	三三	石黒文吉
皇位繼承篇	元老院	非	三三	舊典類纂會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
奎普龍將軍	谷邨一佐	非	三二	山口惣吉
原六郎翁傳(上)	原邦造	非	三五	原邦造
同(中)	同	非	三五	同
同(下)	同	非	三五	同
北輝次郎と英の思想	神庭伸之助	四・四	四四	青年懇談會 出版部
小林一三	村島歸之一	一・五	三八	國民社
頭山滿翁一代記	薄田斬雲	二・三	三八	岡倉書房
藤田東湖	西村文則	四・三	五三	大都書房
賀川豊彦先生	鐘田研一	四・四	六六	日曜世界社
日本國家と聖德太子	朝倉慶友	二・五	三六	眞宗各派 協和會
遊澤榮一自敘傳	遊澤榮一	一・〇	一〇七	偉人烈士傳 編纂所
音樂家列傳	眞篠俊雄	二・八	四五	東洋圖書株式 合資會社
樂翁公傳	遊澤榮一	三・三	四六	岩波書店
藤樹先生を語る	藤樹頌德會	二・五	四六	藤樹頌德會
大西郷全傳三	雜賀博愛	三・五	六〇	大西郷全傳 刊行會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
神武天皇御東遷聖蹟考	勝井純	三・五〇	四七	勝井辰和
ナポレオン大戦回想録	ラスカーズ	一・七〇	四〇	改造社
大日本外交文書	外務省	七〇〇	四九	日本國際協會
近世日本幕長交戦	徳富猪一郎	五〇〇	五三	民友社
日本戦史七	仲小路彰	五〇〇	四六	世界興廢大戦史全集刊行會
大和王寺文化史論	保井芳太郎	五〇〇	五六	大和史學會
躍進 日本大觀	相馬基	五〇〇	七六	東京日日新聞社
日本歴史論	早川二郎	一・六〇	四九	白揚社
國民革命全史	長野朗	一・八〇	四〇	坂上書院
支那哀怨秘史	澁川玄耳	三〇〇	三〇	太平洋社
東洋小文化史	森谷克己	二〇〇	四六	白揚社
日本文化最近二十年誌	啓明會	三〇〇	四〇	啓明會事務所
神兵隊 前田虎雄と司令 ほんんな人物	山田陸奥男	四〇〇	四〇	紫明莊出版部
植村正久と其の時代	佐波直	四〇〇	八七	教文館
ムッソリーニ自叙傳	木村毅	一・三〇	四〇	非凡閣
中江藤樹先生	竺賢誠	非	四	今津中學校
フレーベル自傳	長田新一	七〇	三八	岩波書店
島津久光公	高島彌之助	三〇〇	三八	高島彌之助
織田信長(下)	鷲尾雨工	三〇〇	三〇	春秋社
吉田松陰	關根悦郎	一・三〇	四六	白揚社
岩崎彌太郎	飯田忠夫	一・三〇	三六	同
黒田清輝	坂井犀水	三〇〇	三五	聖文閣
川端康成	古谷綱武	五〇〇	二三	作品社
横光利一	同	六〇	四四	同
長谷川第三司令長官	龜井秀雄	二〇〇	三三	日華通信社
アウグスチヌス	三谷隆正	一・三〇	三三	三省堂
支那事變に躍り出た 武藤貞一の横顔	寄光勇	一・〇〇	三三	新聞批判社
天皇信仰と大國隆正	大月隆伏	五〇〇	一五	道徳運動社

太田道灌の墳墓

大東京の始祖太田道灌の四百五十年祭を七月二十六日に迎へ、市ではこの日を中心として全市に大々的な「道灌祭」を催さうと計畫してゐる折柄、この程突然その墓前祭執行の豫定になつてゐる神奈川縣中郡高部屋村上粕屋にある道灌の墳墓に對し、地元足柄史蹟研究會から異議を申出た、同氏の說によると上粕屋洞昌院裏山にある墳墓は大正七年史蹟に指定されて以來年々大祭が營まれて來てゐるがこれは胴塚であつて同郡成瀬村下糠屋大慈寺内にある道灌塚こそ眞の墳墓首塚である、洞昌院裏山の墓は江戸時代の寶篋院塔であり大慈寺の道灌塚は足利時代で、年代的にも食違ひがあり、且この寺は道灌の中興したものであつて附近には道灌坂、道灌橋等もあり、太田攝津守資須筆の『太田道灌畫像』もこゝに奉納されてあつて史實に據るも太田家は代々この寺の方を重視して禮奠を篤くしてゐるといふのである。

松陰 本山彦一翁	山崎一芳	一・三〇	四五	東海出版社
風雲兒 鮎川義介	原田積善會	四・五	五	原田積善會
原田二郎傳(上)	河野九民	五	七	紀州精華會
支那事變 紀州精華 北滿討匪 忠勇列傳	山名次郎	一・三〇	三八	實業之日本社
偉人 秘話	矢田挿雲	一・〇〇	六五	中央公論社
太閤記(十二)	森田榮作	三〇〇	二七	經濟往來社
昭和財界闘將傳	小島政二郎	一・三〇	四三〇	新潮社
清水次郎長				

讀難き書名

書名で讀み難いものが折々ある。明治以前の圖書名には漢音、吳音、作り字、アテ字等がある。佛書醫書は吳音が
多い。茲に其の讀み難い書名の一例を掲ぐることにした。

久邇門致考	(賀茂眞淵)	クニツチカウ
乞胸頭家傳		コフムネカシラカデン
奴師勞之	(太田南畝)	ヤツコタコ
四時交加	(山東京傳)	シキノユキカヒ
付喪神		ツクモカミ
奴豆乃舍長歌集	(長谷川菅雄編)	ヌテノヤ
石上私淑言	(本居宣長)	イソノカミササメコト
次峯經	(北村季吟)	ツガネフ
阿難話		タソヤ
足土根記	(若林強齋)	タラチネノキ
佐烏廢志之考	(中島廣足)	サチバシ……
金光明經		コンクワウミヤウキヤウ
泊酒舍集	(清水濱臣)	ササナミノヤシフ
後言		ジリウコト
往來芝記	(檀島公禮)	ミチシバノキ
藤篋再子	(上田秋成)	ツヅラフミ

天津靈神言行錄		ハニツレイジン
天降言	(徳川宗武)	アモリコト
枯抗集		カツクヒシフ
每關錄	(唐太行山人)	コクワンロク
亮々舍日記	(木下幸文)	サヤサヤノヤニツキ
俳優風		ワザチギブリ
假名字集	(松浦琴鶴)	ケミヤウジシフ
烹雜之記	(曲亭馬琴)	ニマゼノキ
瑣々室集	(釋辨玉)	ユラムロシフ
寬居長歌集	(足代弘訓)	ユタキ……
櫻魂紙料	(柳亭種彦)	スキガヘン
嬉殿遷宮用途記		アサメトノ
尊榮草紙	(多田義寛)	ヌナハノサウシ
齋庭之穗	(梅辻清規)	カユニハノホ
痴癖談	(上田秋成)	クセモノカタリ
聽鞭	(曲亭馬琴)	ハイベン

(一五) 地理・地圖・紀行

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
經濟地理學文獻總覽	黒正 巖	八・五	四六	文閣
最新外國地理集成一 亞細亞歐羅巴洲	佐藤 弘	三・八	七六	東京開成館
滿洲國並北支の狀勢	池田直澄	五	五	池田直澄
北亞米利加周遊記 一〇二階	岩本信一郎	五・〇	三三	田榮
東叡山名所	山田清作	非	三	山堂
二月				
南洋讀本(下)大陸篇	東亞經濟調查局	一・六	二九	改造社
静岡縣方言誌分布(二)	内田武志	二・三	一六	アチツク
鑛業經濟地理	西尾 滋	二・五	二九	文閣
書名	著譯者	定價	頁數	發行所
政治地理學研究(下)兩米	飯本信之	五・五	七〇	中興館
最近の滿洲國地誌	國松久彌	一・三	三三	古今書院
我が太平洋	齋藤助堯	二・〇	四七	森田書房
最近大日本分縣地圖併地名總攬	日下伊兵衛	二・〇	四	和樂路屋
相模國腰越考	吳文炳	三・〇	二〇	巖松堂書店
醫者の世界漫歩	西宮金三郎	非	三三	西宮金三郎
三月				
日本地理風俗大系 朝鮮地方	中村道太郎	八・〇	八〇	誠文堂新光社
指定史蹟名勝 天然紀念物	文部省	一・三	三五	文部省
隣邦ロシヤ	秦彦三郎	一・三	三五	斗南書院
世界小國地誌	國松久彌	三・八	四三	古今書院
日本交通風土記	郡菊之助	二・〇	五〇	千倉書房
新に南方を巡りて	井上雅二	三・〇	三〇	井上雅二
歐洲旅行案内	瀧本二郎	三・八	四九	歐米旅行社

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
ソヴェト旅行記	小松 清譯	一・三〇	四二頁	第一書房
世界一週啞旅行記	二川 凌雲	一・五〇	四四頁	文化時報社
四月				
世界地理風俗大系 那支	鈴木 良	五・〇〇	四七二頁	誠文堂新光社
構成地理學と國防政策	中村良之助	二・三〇	四一九頁	三省堂
伊那谷木曾谷	細井吉造	二・三〇	四三九頁	故細井吉造遺稿集刊行會
世界 讀本	圓谷 弘	五・五〇	四三七頁	日本大學出版部
新西域記 上	上原芳太郎	一五・〇〇	四四八頁	有光社
新西域記 下同				
滿洲 概観	酒葉 要		四二九頁	帝國在郷軍人會本部
最新外國地理集成(一)	佐藤 弘	二・七〇	四三三頁	東京開成館
江戸名所記(二)	山田清作	非		米山堂
松山叢談(四)	曾我 鍛	一・五〇	四三九頁	豫陽叢書刊行會
神戸市史(二)	神戸市役所		四二六頁	神戸市役所
五月				
歐洲 紀行	橫光利一	一・八〇	四三六頁	創元社
都風俗鑑(三)	山田清作	非		米山堂
紀伊國名所圖會	中貴志康親	非	四八九頁	貴志康親
周遊六萬軒	渡邊良助	二・〇〇	四二六頁	東京開成館
大日本外地寫真帖	東海通信社調査部	一〇・〇〇	四九〇頁	東海通信社
桐生市制七五年誌前編	桐生市役所	非	四七七頁	桐生市役所
同 後編		非	四七〇頁	同
東京市域擴張史(千歲村・枯村編入)	東京市監査局都市計畫課	非	四三三頁	都市計畫課
最新日本地理集成(一)	佐藤 弘	二・三〇	四三三頁	東京開成館
大分市誌	伊藤正男	七・〇〇	四七〇頁	全國市町村誌刊行會
京橋區史上	京橋區役所		四三三頁	京橋區役所
老記者の旅	徳富猪一郎	二・〇〇	四三三頁	民友社
僕の初旅世界一周	堀口大學譯	一・五〇	四三三頁	第一書房

六月

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
地理産業要覽	仲摩照久	非	四七三頁	誠文堂
臺灣の山と蕃人	田中 薫	三・五〇	四四八頁	古今書院
教材 世界新地誌 亞細亞篇	櫻井 靜	二・八〇	四二五頁	大同館書店
隣邦支那とロシア	長谷川 了	五・五〇	四三七頁	太白書房
南 島 論 叢	島袋全發	三・〇〇	四四七頁	沖繩日報社
日本地理風俗大系 關東總論東海地方	中村道太郎		四五三頁	誠文堂新光社
鐵路西と東	平山 孝	一・六〇	四三四頁	春秋社
歐米空の旅	伊藤正雄	非	四三九頁	帝國社臟器藥研究所
アルプス記	松方三郎	二・五〇	四三三頁	龍星閣
東海道俳行脚	松木喜八郎	三・五〇	四三六頁	巧藝社
六十四翁 日本語で	藤本長藏	一・五〇	四三四頁	藤丸百貨店
島崎南米移民見聞録	島崎藤村	三・〇〇	四三〇頁	移民問題研究會
七月				
亞新風景	橋爪檳榔子	一・三〇	四三二頁	河出書店
島尻郡誌	島尻郡教育會	四・〇〇	四六四頁	島尻教育會
新修日本橋區史(上)	日本橋區役所		四三四頁	日本橋區役所
大大阪發達史(乾)	關 夢 山	五・〇〇	四〇〇頁	大阪市勢研究會
鹿兒島縣郷土史大系 八島津中興史 下	松下重資	二・五〇	四四〇頁	松下重資
江戸名所記(三)	山田清作	非	四四四頁	米山堂
滿洲をのぞく	石川敬介	八・〇〇	四二六頁	カニヤ書店
大大阪發達史(坤)	關 夢 山	五・〇〇	四〇〇頁	大阪市勢研究會
栃木縣史(九)産業編	田代善吉	五・五〇	四五七頁	下野史談會
行樂と史蹟の武藏野	寺島 裕	二・四〇	四三〇頁	新生堂
日本移民の新天地 躍進三江省	水島芳靜	一・五〇	四三六頁	東亞出版社
山嶽と海岸	渡邊萬次郎	二・五〇	四三六頁	太陽閣
土匪村行脚	後藤朝太郎	二・八〇	四四〇頁	北斗書房
山水隨想	河東碧梧桐	一・六〇	四三〇頁	日本公論社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
獨逸經濟政策の根本問題	外務省調査部	一〇〇	一〇三	日本國際協會
日本印象記	宮原武雄譯	非	三	暹羅室
征空一萬五千軒	星野辰男	六〇	一〇四	朝日新聞社
八月				
京都府勢	京都市府知事官房	一八〇	一八〇	京都市府知事官房
山口縣史蹟名勝天然紀念物の概要	山口縣	非	二六	山口縣
鮮滿事情	綾部重雄	非	三〇	福徳生命保險株式會社
尼崎今昔物語	畠田繁太郎	一五〇	一五〇	萬有社
吉備郡史(卷中)	吉備郡教育會	非	三六	吉備郡教育會
新撰北海道史(四)	北海道廳	一〇七	一〇七	北海道廳
南支大觀	安藤元節	非	八〇	日本信託會社
日本風景讀本	佐藤洋之助	三〇	三〇	動く日本社
柴尾親弘	柴尾親弘	三〇	三〇	同
尾崎喜八譯	尾崎喜八譯	三〇	三〇	龍星閣
臺灣游記	中山正善	五〇〇	四八二	天理教道友社
先史地理學研究	小牧實繁	三〇〇	三四	小牧實繁
熱河	關野貞	非	二七	座右寶刊行會
本巢郡志(上)	本巢郡教育會	九二	九二	本巢郡教育會
湖南省綜覽	神田正雄	七〇〇	四三	同
支那經濟地理	ユム・カイ	一〇	三七	白揚社
西部西伯利の近況	野田健二譯	一〇	三三	白揚社
新北海道史(概説)	太田日出雄	四〇	四〇	白揚社
新日本地誌二	北海道廳	二四〇	二四〇	北海道廳
最近の印度地誌	山本熊太郎	二五〇	二六	古今書院
新日本地誌一	山本熊太郎	四〇〇	四三	同
支那人・文化・風景	佐藤定勝	五〇〇	四三	誠文堂新光社
概観世界地誌(一)	小田嶽夫	一三〇	一六	竹村書房
渡滿行紀	香川幹一	二五〇	二七〇	古今書院
田中智學	田中智學	三〇〇	四〇〇	師子王文庫

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
滿、鮮支旅行記	暹羅室	非	三〇	暹羅室
臺灣、沖繩の旅	松田毅一	一〇〇	一〇三	學校印刷部
十月				
經濟地理學	平岡市三	非	二二	日本大學出版部
日本風景讀本	風景協會	二〇	二七	古今書院
中之島誌	山口幸太郎	非	〇五	中之島尋常小學校
川内村史	島田秀太郎	非	二五	川内村役場
日光史	星野理一郎	非	三四	日光第二尋常高等小學校
北支那の地理	佐々木清治	二〇	二八	賢文館
景觀地理學講話	辻村太郎	三〇	三三	地人書館
ソヴェト紀行修正	堀口大學譯	一〇〇	一〇四	第一書房
江戸名所記	山田清作	非	三	米山堂
アメリカの旅	星野茂樹	非	七六	星野茂樹
蒙古高原横斷記	星野辰男	三〇	三〇	東京朝日新聞社
ソヴェト滞在記	勝野金政	一五〇	三三	千倉書房
鮮滿北支を旅行して	猪瀬誠意	三〇	三三	猪瀬誠意
飛行機で表南洋視察	吉田丹一郎	二〇	二〇	報知新聞社
丁丑九州行	山口八十八	冊	一五	牛田雞村
九月				
最大日本地理精義(上)	小林房太郎	非	八七	産業經濟研究所
滿洲讀本(上)	同	非	八六	同
支那讀本	長野朝一	一〇〇	一〇四	同
北米合衆國新地誌	楠田鎮雄	二〇〇	三三	坂上書院
農業經濟地理	青鹿四郎	三〇〇	四三	叢文閣
高第新地理指導書(二)	市川三代藏	三〇〇	三六	東洋圖書株式會社
小日本風俗大系	中村道太郎	五〇〇	七三	誠文堂新光社
臺灣游記	中山正善	五〇〇	四八二	天理教道友社

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
臺灣見聞記	中西伊之助	六・〇〇	四七〇	實踐社
十二月				
地理論叢(九)	京都帝大地理學教室	三・〇〇	二二六	古今書院
邑智郡誌	森脇太一	七・〇〇	四七三	森脇太一
成層圈	内田泰	二・〇〇	一四三	三省堂
世界地理風俗大系	佐藤定勝	四・〇〇	八七	誠文堂新光社
蝦夷嶋奇觀補註	福井久藏	一・五〇	一〇九	厚生閣
滿洲・支那經濟地理	野田健二譯	一・六〇	三二七	白揚社
日本民屋地理	鳥之夫	二・四〇	一四九	古今書院
支那の山寺	後藤朝太郎	二・〇〇	二九	黄河書院
植民地理	富田芳郎	二・八〇	三七	叢文閣
最新滿洲帝國大觀	佐藤定勝	七・〇〇	八七	誠文堂新光社
海南嶋最近事情	熱帶文化協會		七	熱帶文化協會
ソ聯戰時經濟地理	平竹傳三	三・〇〇	三七	時政報社
最新ポケット支那便覽	宮澤正吉	八・五〇	三六	泰山房
世界地理風俗大系	佐藤定勝	四・〇〇	六三	誠文堂新光社
後鶴崎町史	鶴崎町役場	三・五〇	五三	信濃教育會
諏訪史(二)後編	宮地直一	一・〇〇	四	諏訪部會
北蒲原郡史(三)	大木金平	非	六八	蓮池文庫
支那邊疆視察記	陳廣雅	二・〇〇	四六	改造社
行々坊行脚記	井上紅梅	二・〇〇	四六	菊池壽人先生文集頒布會
北滿北支に皇軍を慰問して	野口喜一	非	一三	新濱實業社
世界ライカ紀行	森春雄	四・五〇	四	藝術社

(一六) 法律

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
擔保物權法論	小池隆一	四・五〇	五九	清水書店
法曹會決議要録追卷	法曹會	六・〇〇	三三	同
地方自治の基本問題	宇賀田順三	五・三〇	六七	同
民事訴訟費用印紙法及登録法印紙稅法例制と通關回答決議論	柴田健太郎	四・〇〇	四八	同
行政法第一部(總論)二分册	野村淳治	四・〇〇	一三	東京プリント
行政法第二部(各論)三分册	杉村章三郎	四・〇〇	一三	東京プリント
帝國憲法制定の精神	井上孚磨	四・〇〇	一三	國民精神文化研究所
親族相續判例總評(二)	中川善之助	二・七〇	三三	岩波書店
日本判例大成(一七)	日沖憲郎	二・八〇	三〇	非凡閣
辯護三十年	塚崎直義	二・〇〇	二八	岡倉書房
判例六法全書	大曲實形	四・〇〇	四	錦松堂書店
現代法令全集(一三)ノ一	末弘嚴太郎	四・〇〇	四	日本評論社
鑛業法要義	平田慶吉	三・五〇	四七	有斐閣
法の變動	栗生武夫	三・三〇	四八	岩波書店
加除表解六法大全書(上)	松平久松	一・三〇	四	大日本法令出版株式會社
同(下)	同	一・三〇	四	同
行政執行法詳論	有松昇	一・七〇	三六	良書普及會
日本憲法(プリント)	有松昇	一・七〇	三六	同
法令全書(一二)	中村彌三次	非	二五	文進社
憲法學提要	内閣印刷局	六・〇〇	六三	内閣印刷局
民法概要債權法各論	中村彌三次	一・八〇	二六	巖松堂書店
民法概要債權法各論	柚木馨	一・五〇	一三	同
抵當權の諸問題	谷井辰藏	三・八〇	四八	常磐書房

書名	著譯者	定價	頁形數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數	發行所
日本鑛業法精義	淺野兼助	四・〇〇	四〇八	丸善株式會社	國法學第三分冊(プロ)	野村淳治	・八〇	四二八	東京プリント
判例民法研究	末川博	三・〇〇	四五六	弘文堂書房	行政法第二部(各論)第四分冊(プリント)	杉村章三郎	・三〇	四元	同
手形法論(一)	水口吉藏	五・五〇	四六五	文雅堂	判例事民法 昭和八年年度	民事法判例研究会	五・五〇	四八二	有斐閣
行政法總覽講義案(四)	宮澤俊義		四三三	宮澤俊義	外國爲替管理法解説	黛勇吉	一・〇〇	四一四	銀行問題研究会
現代法 一三ノ二(下)	末弘嚴太郎		四七五	日本評論社	憲法第三分冊(プロ)	宮野俊義		四一五	東京プリント
令全集 民事篇(下)	武藤金太郎	非	四六六	武藤金太郎	警察行政法總論	和久田鐵雄	・八〇	四一四	松華堂書店
相續法に關する研究	武藤金太郎		四三三	清水書店	最新憲法研究	國家試験編輯部	・五〇	四〇〇	育成洞
新舊商法中(修正法)	同	一・〇〇	四二六	同	判決總攬(法)諸法令中	編者	・五〇	四〇〇	育成洞
對照商法中(舊法)	同	一・〇〇	四二六	同	日本判例大成一五	日沖憲郎	二・八〇	四四六	非凡閣
損害賠償 判決	中島英次	九・〇〇	四二八	文英社	刑罰各論(二)	中野登美雄	一・三〇	四一七	早稻田大學出版部
平和の獨逸勞働奉仕制度	下松桂馬	一・三〇	四三〇	刀江書院	憲法	垣本清一		四七三	黎明社
民法大要(民法總則)	石田文次郎	一・五〇	四一五	有斐閣	帝國憲法(下)(プロ)	黒田覺		四一〇	八坂淺次郎
不穩文書臨時取締法	小椋邑吉	三・〇〇	四一六	大阪毎日新聞	帝國憲法講義案(六)	前野順一	四・〇〇	四七九	松華堂書店
法令全書(一)	內閣印刷局	六・〇〇	四三三	內閣印刷局	民事訴訟法論(第一編總則)	山田準次郎	二・五〇	四三九	山田準次郎
憲法第四分冊(プロ)	宮澤俊義	一・三〇	四一五	東京プリント	日本行政法總論				

書名	著譯者	定價	頁形數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數	發行所
全國戶籍寄留事務上 協議會決議總覽	古仙常吉		四七九	東京戶籍協會	信託法判決例輯覽	井上勇	二・三〇	四三八	嚴松堂書店
最近十二年間高等試驗 出題帝國憲法問題解説	國家試験編輯部	七・〇〇	四一六	育成洞	債權法及び擔保物權法講義案	穂積重遠	一・〇〇	四六六	有斐閣
最新憲法研究	同	五・五〇	四〇〇	同	判例體系 刑法各論上	村田憲治	六・〇〇	四九八	啓法會
行政法各論(プロ)	渡邊教授		四二八	プリント社	警察 訓話	野上傳藏	一・三〇	四二〇	新光閣
增補監獄法概論	正木亮	一・四〇	四二二	有斐閣	行政法第一部 總論第三分冊プリント	野村淳治	・八〇	四一四	東京プリント
準戰時體制と國民生活	岡野龍一	一・〇〇	四三三	日本講演社	同 總論第四分冊プリント	同		四一五	同
中田先生 法制史論集	石井良助	五・五〇	四七七	岩波書店	概説 日本憲法	杉村章三郎		四二五	八坂淺太郎
還曆祝賀 執法便覽	上田操	五・〇〇	四四二	清水書店	米穀自治管理法解説	角田八郎	一・三〇	四二五	雄松堂書店
地方稅制研究	神戶正雄	二・八〇	四三一	良書普及會	株式會社	增地庸治郎	六・五〇	四八四	嚴松堂書店
三月					民事訴訟法原理 第一卷第三分冊	中村宗雄	一・二〇	四三三	敬文堂書店
辯護士道の七燈	江橋活郎	一・五〇	四三〇	法律新報社	改訂 非訴訟事件學說 增補 判決實例總攬	中島英次	六・五〇	四七四	文英社
新法學通論	山岡通暲	二・三〇	四四九	松山房	司法改善と調停制度	森下龜太郎	非	四三三	大阪控訴院
改正選舉法と新判例	中田義孝	一・〇〇		嚴松堂書店	最新憲法研究	國家試験編輯部	・五〇	四〇〇	聯成會
現行徵收法規類纂	大藏省	五・五〇		大藏財務協會	保險法講義 第一分冊	大橋光雄	一・六〇	四一七	有斐閣
新訂商店法論	井上貞藏	二・五〇	四二六	嚴松堂書店	國家學	青木巖譯	一・八〇	四三七	第一書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
租稅制度論	天野健雄	五・〇〇	一八〇	東京商工會議所
退職積立金及退職手當法釋義	沼越正己	五・〇〇	一八〇	東京商工會議所
國法學第四分冊(プリント)	野村淳治	一・〇〇	一〇〇	東京印刷行
聖勅並憲法	廣川捨吉	一・〇〇	一〇〇	北村山部郷土研究会
素人で出来る訴訟の手續	尼田吉三	一・二〇	一〇〇	東京三崎會館法律相談部
退職積立金及退職手當法解説	岩崎博	二・三〇	一〇〇	國民書房
國稅徵收法の運用	齊藤義家	五・〇〇	一六〇	市政人社
日本判例大成(一一)特殊裁判法規一	日沖憲郎	二・八〇	一四〇	非凡閣
手形法變遷論	野津務	二・五〇	一七〇	有斐閣
國際法要義	鈴木萬美	三・五〇	一七五	文雅堂
商行為法講義	大橋光雄	二・二〇	一三三	有斐閣
米國司法制度改革の意義	小宅建一郎	非	三	明倫會出版部
帝國法令全集三篇	遊佐重四郎	三・五〇	一三六	帝國法令協會
日本行政法總論	山田準次郎	二・五〇	一三〇	山田準次郎
選舉の取締と罰則	若泉小太郎	一・八〇	一〇〇	東方書院
警察高等常識	大倉要	二・五〇	一〇〇	文泉書房
外地ニ行ハルル法律調	小野周次	二・五〇	一〇〇	拓務大臣官房文書課
土地所有權論	吉田久	四・五〇	一五〇	官房文書課
日本強制執行總論(一)	黒川眞前	三・〇〇	一四〇	同
法曹瑣談	山崎佐	二・〇〇	一〇〇	同
正しい改正選舉法の手續	平尾嘉左喜	一・〇〇	一〇〇	地方財政研究会
親族法講義案第一分冊	堀内節	一・八〇	一〇〇	精興社書店
訂海商法論	鳥賀陽然良	四・〇〇	一六〇	弘文堂書店
訂物權法論	近藤英吉	三・〇〇	一三〇	同
結城新稅法早わかり	松岡章	一・五〇	一七〇	銀行問題研究会
最新法學通論	豐田久二	二・八〇	一三〇	文修堂
商行為法	野村次夫	二・〇〇	一三〇	大同書院

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
法學通論	永田菊四郎	一・三〇	一八五	巖翠堂書店
法律學概論	佐瀬昌三	二・〇〇	一八二	文原堂
日本法制史大綱	細川龜一	二・九〇	一四〇	時潮社
思想犯保護觀察法規集	木戸芳男	一・五〇	一三四	巖翠堂書店
日本行政法講義要綱	杉村章三郎	一・七〇	一三三	有斐閣
不動產借貸借法史論	村教三	四・五〇	一五九	同
民事訴訟法第一卷原理第四分冊	中村宗雄	九・〇〇	一四〇	敬文堂書店
故辯護士岸清一訴訟記録集	堀江專一郎	六・〇〇	一六二	岸訴訟記録整理事務所
法學博士岸清一訴訟記録集	堀江專一郎	六・〇〇	一六二	岸訴訟記録整理事務所
特實用新案審決判例許意匠商標要旨集	内藤隆	一・五〇	一三七	日本協理會
新編法學通論	中村萬吉	三・三〇	一四七	東山堂書房
民法教科書總則編	吉田久	一・五〇	一三三	巖松堂書店
法令全書(三)	内閣印刷局	六・〇〇	一七三	同
民事訴訟法概論上	兼子一	一・〇〇	一五五	岩波書店
逐條新商法解説	鳥津嘉孝	一・三〇	一八六	民衆法令普及會
立憲自治の本義	宇賀田順三	二・〇〇	一三三	清水書店
稅の話	勝正憲	一・五〇	一〇〇	千倉書房
稅令全書(二)	内閣印刷局	六・〇〇	一七三	同
改訂日本行政法上	渡邊宗太郎	四・三〇	一五八	弘文堂書店
行政法總論講義案(一)	宮澤俊義	四・三〇	一五八	同
破產法・和議法大要	齋藤常三郎	一・五〇	一五五	岩波書店
新稅法要覽	大藏省財政研究会	一・八〇	一三三	三省堂
營業收益稅の話	勝正憲	一・五〇	一三六	千倉書房
藥事法令要義	柿沼三郎	四・五〇	一六〇	科學書院
飲食物稅法規總攬	竹内甲子二	四・五〇	一六〇	科學書院
結城案租稅法規總攬	稅務懇話會	一・五〇	一五〇	稅務懇話會
退職積立金及退職手當法論	後藤清	三・三〇	一三七〇	有斐閣
相續稅の話	勝正憲	一・五〇	一三六	千倉書房
手形法小切手法講義	矢部克己	一・〇〇	一三六	松華堂書店
日本判例大成(一九)	日沖憲郎	二・八〇	一三三	同
權利金老舖料造作買取請求學說實例總攬	水本信夫	三・〇〇	一三六	統判例會
所得稅の話	勝正憲	一・五〇	一〇〇	千倉書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
法律相談	大平久	二・五〇	四三〇	日本評論社	選舉違反刑罰の實例	鈴木義男	一・〇〇	四一三	有斐閣
現代法令全集總索引	末弘嚴太郎		四八〇	同	港灣關係法規集	內務省土木 局港灣課	一・八〇	四七四	港灣協會
皇國憲法(プリント)	寛克彦	二・〇〇	三三六	帝大ブリ ント聯盟	現稅關法規類纂	大藏省 主稅局	五・〇〇	四二七	大藏財務協會
行政法第一部論(プリント)	野村淳治	二・八〇	四五三	同	早稻田法學別冊八 グクセン・シユビール ゲル	金澤理康	二・〇〇	四二六	早稻田大 學法學會
法律における 進化的と普遍的	牧野英一	一・七〇	一八四	有斐閣	慣行小作權に 關する研究	野村岩夫	一・五〇	四三三	協調會
憲法講義案	中村清次郎		四二五	山本森一	印紙稅法の 起源と其の史的展開	田中秀吉	三・〇〇	四二八	第一書房
日本刑法	吉田常次郎	四・三〇	五五六	自治館	改帝國憲法新解說	國家試験 編輯部	八・〇〇	四二四	育成洞
ソヴェート國際法概要	イェー・ペー・ バシユカーニス 山之内一郎譯	二・五〇	四五二	改造社	版改帝國憲法新解說	國家試験 編輯部	八・〇〇	四二四	育成洞
日本判例大成五 債權各論二	日沖憲郎	二・八〇	四五四	非凡閣	判決要錄(二七)	法律新聞社	六・〇〇	四〇〇	法律新聞社
行政法第二部 (各論)プリント	杉村章三郎	一・七〇	四二〇	帝大ブリ ント聯盟	債權各論講義	石田文次郎	二・五〇	四三三	弘文堂書房
皇國憲法(プリント)	寛克彦		四三六	啓明社	滯貸債權保全事務 商事判例集(追録一)	妹尾一雄	九・〇〇	四二〇	文雅堂
手形法要論	堀部靖雄	非	四九六	平野書店	條約彙纂 (第二卷第七部)	小町谷操 伊澤孝平	四・八〇	四四六	岩波書店
法令全書索引目錄	內閣印刷局	六・〇〇	四四八	內閣印刷局	條約彙纂 (第二卷第七部)	外務省 條約局	九・〇〇	四六八	內閣印刷局
改版帝國憲法新解說	國家試験 編輯部	八・〇〇	四二四	育成洞	法令全書(五)	內閣印刷局	六・〇〇	四七三	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
比較婚姻法(第一部)	臺北比較 法學會	四・八〇	四七九	岩波書店	所有權登記事務 實例印紙稅法	上田啓次	一・五〇	四三七	文雅堂
不法行為概説	梅原重厚	三・八〇	四六一	嚴松堂書店	久保平三郎	四・三〇	四九七	文精社	
手形法論(三)	水口吉藏	五・五〇	四五一	文雅堂	濱田道之助	一・六〇	四三三	高陽書院	
全國戶籍寄留事務 協議會決議總覽下	古仙常吉 木附直一郎		四七七	東京戶籍 會	仁井田陸	九・〇〇	四八四	東方文化學院 東京研究所	
國家學會五 十年紀念 國家學論集	蠟山政道	六・〇〇	四八五	有斐閣	船田勇	二・〇〇	四三八	千倉書房	
日本判例大成(二三)	日沖憲郎	二・八〇	四六五	非凡閣	初級土木法規 論	秋元力	一・八〇	四二〇	工業圖書 株式會社
改版帝國憲法新解說	國家試験 編輯部	八・〇〇	四二四	育成洞	現行藥事法規集	植村靜	二・〇〇	四三四	増田鐵五郎 日本産業 研究所
逐市制町村制提議	入江俊郎	一・〇〇	四二六	良書普及會	外國爲第管理法の 改正省令と其運用	上山英三	七・〇〇	四二二	日本産業 研究所
皇國憲法(プリント)	寛克彦	二・〇〇	三三六	帝大ブリ ント聯盟	法令全書(六)	內閣印刷局	六・〇〇	四六四	內閣印刷局
行政法總論(上)	野村淳治	三・八〇	四五五	日本評論社	山梨縣警察類典(下)	山梨縣 警察部	六・〇〇	四六四	內閣印刷局
八月					戶籍事務通課回答集	前田牧郎	一・八〇	四二二	戶籍學協會
地方財政及稅制の改革	三好重夫	三・五〇	四五八	良書普及會	法令全書(七)	內閣印刷局	六・〇〇	四五二	內閣印刷局
改民事訴訟法案概説	加藤正治	一・三〇	一八九	有斐閣	改軍機保護法釋義	刑事法學會	七・〇〇	四一七	豐文社
日本判例大成(二二)	日沖憲郎	二・八〇	四五二	非凡閣	改正新要目公民科要説 に準據せる	鶴田文基 他二名	一・九〇	四三三	清水書店
臨時特別増稅と 暴利取締令	稅務研究會	二・〇〇	三六	東京パン 社	教育關係法令要覽	文部省	六・〇〇	四六四	文部省

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
羅馬法の世界史的使命	戸倉 廣	二・三〇	四三二	巖松堂書店
小切手 法	大橋光雄	一・九〇	四二六	有斐閣
判例契約解除法(上)	和田千一	一・七〇	四七三	大同書院
北支事變の真相と日支關係諸條約	高田 功	・五〇	四一四	亞細亞研究會
佛蘭西植民地法提要	佐田弘治郎	非	四三三	東亞經濟調查局
政外國爲替管理法解説	山梨 勇吉	一・三〇	四一四	銀行問題研究会
山梨縣警察類典(上)	山梨 警察部		四一四	帝國學地方會
同(中)	同		四一四	同
九月				
帝國憲法(プリント)	佐藤丑次郎	二・〇〇	四三八	啓明社
教行政法總論(プリント)	野村淳治	三・三〇	四三三	同
教行政法各論(プリント)	同	三・三〇	四三七	同
擔保權登記事務	上田啓次	一・一〇	四三六	雅堂
滯貸債權實行事務	妹尾一雄	一・三〇	四四四	同
法令全書(八)	內閣印刷局	・六〇	四七六	內閣印刷局
強制執行法要論	加藤正治	三・〇〇	四四四	有斐閣
法窓秘聞	尾佐竹 猛	一・八〇	四〇七	育生社
海損精算論	井上 茂	四・〇〇	四五三	嵩山房
民法大要物權	石田文次郎	一・五〇	四一四	有斐閣
保護觀察法とは何ぞや	大野 悌	非	四一四	越智虎吉
強制執行法總則篇	岩本勇次郎	二・〇〇	四一八	巖松堂書店
皇國憲法學一	末野徳也	三・五〇	四三三	同
手形法小切手法概論	田中耕太郎	四・〇〇	四五一	有斐閣
故辯護士法學博士岸清一訴訟記録集	堀江專一郎	六・〇〇	四〇六	岸訴訟記録整理事務所
特許審判篇一	半田健次郎	七・八〇	四九八	判決例調査所
帝人事件公判速記録	長井善藏	非	四一三	明治大學出版部
十一月				
大審院裁判例(一〇)	岡崎源一	一・八〇	四四六	法律新聞社
刑法大意	佐瀬昌三	三・五〇	四三三	清水書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
加除自在警視廳令全書	橋本金彌		四五九	行政學會
選舉罰則の研究	美濃部達吉	三・〇〇	四四五	良書普及會
帝國憲法に就いて	大串兎代夫	四	四	富士高等女學校
國法學一(プリント)	杉村章三郎	・五	四	帝國大學
判例體系(刑法)	啓法會	七・〇〇	四三三	啓法會
民法大綱(總則四)	近藤英吉	一・三〇	四一三	巖松堂書店
假處分申請と其裁判	澤村正路	二・〇〇	四三六	訴訟手續研究会
植民地自治制度論	清水満重	二・八〇	四三五	巖松堂書店
預金事務の法律的注意事項	綱島克己	・五	四一四	文雅堂
外國爲替管理法講話	石卷良夫	一・三〇	四三三	同
根抵當の法律的實際知識	井上勝馬	・五	四一四	同
株主總會決議無効論	西本寛一	二・五〇	四二八	大同書院
重訂日本刑法上	牧野英一	一・五〇	四七三	有斐閣
實務家のための臨時資金調整法令註解と手續	矢野範二	・六	四一五	矢野範二法律事務所
法令全書九號	內閣印刷局	・六	四三六	內閣印刷局
抵當權不判例集	尾山万次郎	二・〇〇	四四六	光文社
米穀法規	柴野和喜夫	二・三〇	四五八	日本評論社
手形法	大橋光雄	三・三〇	四三三	弘文堂書房
日本強制執行總論(一)	黒川眞前	・九〇	四一四	巖松堂書店
聖德太子十七條憲法と全體國家の建設	鶴岡 操	・九〇	四一四	巖松堂書店
北支事件特別稅法解説	安藤明道	・六〇	四一四	大藏財務協會
新法學全集(一六)	末弘巖太郎	・六〇	四一四	日本評論社
最新地方行政實例總覽	大山貞一	一・五〇	四三三	日本行政協會
日本判例大成(二〇)	日沖憲郎	二・八〇	四四四	非凡閣
統後の護り軍事扶助法	堀内良平	・二〇	四一四	森田書房
十周年紀念法學論文集	九州帝國大學法文學部	五・八〇	四三三	岩波書店
民事訴訟法概論(中)	兼子 一	一・三〇	四二四	同
商行爲法講義案	小町谷操三	・一〇	四一四	同
取引所學說判例總覽	田中徳一	五・五〇	四三三	田中徳一法律事務所

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
刑事法判決批評(二)	瀧川幸辰	三・八〇	四〇五〇	立命館出版部
日本憲法制定史論	渡邊幾治郎	三・三〇	四〇三三	千倉書房
臨時資金調整法の 解説と手續	中村繼男	一・五〇	四〇三三	稅務懇話會
判例民事法 (昭和十一年度)	民事法判例 研究会	四・八〇	四〇六七	有斐閣
憲法制定と 歐米人の評論	金子堅太郎	一・三〇	四〇五五	日本青年館
商行爲法概論	中村武	三・〇〇	四〇四四	南郊社
民事訴訟法原論(上)	神谷健夫	一・五〇	四〇三二	巖松堂書店
自分でできる商標の出 願手續と誰にもわかる判例	内藤隆	二・五〇	四〇六二	立興社
大審院民事判決事項 總索引	尾高武治	二・〇〇	四〇三三	尾高武治
民事・商事 問答法律	尾山萬次郎	二・五〇	四〇〇〇	第一書院
伊藤博文公修正 憲法稿本	平塚篤	非	四〇〇〇	秘書類纂 刊行會
實務を中心 とした民事裁 判手續	竹田元一	一・三〇	四〇三五	大同書院
憲法原理	今泉定助	一・五〇	四〇四四	立命館出版部
民法總則要綱 (第三分冊)	永田菊四郎	一・七五	四〇二七	巖翠堂書店
親族法論考	角田幸吉	二・五〇	四〇三〇	良書刊行會
聖德太子の十七條憲法	白井成允	三・〇〇	四〇八三	日本文化 協會出版部
乾博士帝人事件辯論 強制執行法論 (第一分冊)	金石一雄	非	四〇一七	金石一雄
帝國憲法講義	箕田正一	一・三〇	四〇一七	大同書院
法令全書(一〇)	鈴木登	一・二〇	四〇一七	松華堂書店
家族構成	内閣印刷局	六・〇〇	四〇六三	内閣印刷局
日本行政法講義要綱 (二)	戸田貞三	四・〇〇	四〇六六	弘文堂書房
商事法判例研究(一)	杉村章三郎	一・五〇	四〇一五	有斐閣
十二月	商法研究會	三・五〇	四〇三二	同
判例契約解除法(下)	和田于一	一・七〇	四〇一七	大同書院
債權法講義案	小出廉二	二・九〇	四〇三〇	明治大學 出版部
民法總則	我妻榮	一・〇〇	四〇三〇	岩波書店
日本判例大成(二四) 總索引	日沖憲郎	二・八〇	四〇四九	非凡閣

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
日本民法 (債權編契約總則)	田島順 他五名	五・〇〇	四〇五九	巖松堂書店
民事訴訟法要義(五)	細野長良	四・〇〇	四〇七一	同
民法講義	三木正雄	非	四〇四八	平野書店
九國條約	立作太郎	非	四〇〇〇	日本外交協會
日本憲法論(中)	黒田覺	七・〇〇	四〇一三	弘文堂書房
保全處分の研究	吉川大二郎	四・〇〇	四〇五三	同
輸出入品等に関する臨 時措置に関する法律に 就て	福本義亮	非	四〇五	神戸商工 會議所
貿易組合法の解説	油谷精夫	一・三〇	四〇一七	日本産業 研究所
英契約法 畏迫の研究	末包留三良	六・〇〇	四〇七三	立命館出版部
判例競賣法	金澄	三・八〇	四〇四七	立興社
牧野菊之助博士 遺稿金集	柴田義彦	非	四〇六一	ゼネツア 俱樂部
行政法第二部 第一分冊(プリント)	田中二郎	一・二〇	四〇一五	東京プリン ト行會
海法會誌(二二)	松波仁一郎	非	四〇五三	日本海法會
國策研究會パンフレット一 選舉法改正問題について	堀切善次郎	三・〇〇	四〇五元	國策研究會
同 國防經濟政策について	吉野信次	三・〇〇	四〇六元	同
保險の研究	米谷隆三	二・〇〇	四〇三六	有斐閣
民事訴訟法論 第二編乃至第五編	前野順一	三・五〇	四〇七三	松華堂書店
學說判例 公法要論 問題法理	鳥津嘉孝	一・〇〇	四〇五六	東京圖書 株式會社
交通法規	坪崎信正	二・八〇	四〇三五	鐵道同志會
民法釋義(四)	中島玉吉	六・五〇	四〇八九	金刺芳流堂
立憲主義と三民主義 五權憲法の原理	田中二郎	一・五〇	四〇一七	中央大學
現行海事法令集	海文堂 編纂部	六・八〇	四〇〇〇	海文堂出版部

新潮社の入門百科叢書

各専門の名家が平易に説いた真に初學入門者の絶好讀本!! 四六判特製送料各十四錢

▲小説の作り方 加藤武雄著 (定價一圓)

▲文章の作り方 久米正雄著 (定價一圓)

▲俳句の作り方 嶋田青峰著 (定價一圓)

▲歌の作り方 金子薫園著 (定價一圓)

▲女性の文章の作り方 吉屋信子著 (定價一圓)

▲寫眞の寫し方 吉川速男著 (定價一圓卅錢)

▲碁の打ち方 瀨越七段閱 (定價一圓廿錢)

▲挿繪の書き方 岩田專太郎編 (定價一圓卅錢)

日本に始めて出來た文藝百科大辭典 (全七卷) 定價各冊五圓五十錢 送料各冊

日本文學大辭典

文學博士 藤村作編纂

本辭典の特色 學界の權威二百餘名執筆 帝大國文學研究室同人の責任編輯 在來閑却された明治大正文學の解説 本辭典の一部は萬卷の書に匹敵す 印刷鮮明、裝幀優麗、製本堅牢、豪華版。

山本有三 總編輯 全十六卷 全部出來 (新型函入美本) 定價各一圓二十錢 送料各十錢

日本少國民文庫

小學上級生から中等學校一・二年生の少年少女に最も有益な課外讀本

現代日本一流人物の執筆、内容は少年少女の心を育てるに缺くべからざるもの、各方面に互つてこれほど興味深く懇切に執筆せられたるものは他にない。子供の爲に書を選ばば本文庫がその最たるべし

(1) 人間は どれだけの事か (一) 恒藤 恭著

(2) 人間は どれだけの事か (二) 石原 純著

(3) 日本人は どれだけの事か 西村眞次著

(4) これからの日本 下村 宏著

(5) 君達は どう生きるか 山本有三 共著 吉野源三郎 著

(6) 人生案 内水瀧太郎編

(7) 日本の偉人 菊池 寛著

(8) 人類の進歩 山本有三著

(9) 發明物語と科學手工 廣瀨 基著

(10) 世界の謎 石原 純編

(11) スポーツと冒險 飛田穂洲 共著 豊島與志雄 著

(12) 心に太陽を持って 山本有三著

(13) 文章の話 里見 淳著

(14) 世界名作選(一) 山本有三選

(15) 世界名作選(二) 山本有三選

(16) 日本名作選 山本有三選

發行所 東京・牛込 新潮社 (振替 七四二 東京)

◇◇昭和十二・三年度印行書目◇◇

吉祥眞雄著 三・四・三・刊 增訂曼荼羅圖說 洋裝 定價 金壹圓八拾錢 送料 金拾錢	服部如實著 三・六・三・刊 放送大日經講說 洋裝 定價 金壹圓也 送料 金拾錢	文政堂校訂 三・六・二・刊 辨天經并辨天品 折本 定價 金八拾錢 送料 金六錢	正田良宣著 三・七・八・刊 稻荷・御神徳 折本 定價 金貳拾錢 送料 金參錢	廣安恭壽著 三・八・一・刊 十三佛の由來 洋裝 定價 金五拾錢 送料 金九錢	松岡信貞編 三・九・六・刊 四國ヶ八十八山開 折本 定價 金拾錢 送料 金參錢	藤井佐兵衛編 三・〇・三・刊 ポケット御鬮 洋裝 定價 金參拾錢 送料 金六錢	故田中雅樂著 三・二・二・刊 田子養生訣 和裝 定價 金貳拾五錢 送料 金參錢
--	--	--	---	---	--	--	--

新井白蛾著
三・二・二・刊
易學小筌說卦傳
和裝
定價 金六拾錢
送料 金六錢

蓮生觀善著
三・三・三・刊
九條錫經講義
洋裝
定價 金壹圓也
送料 金拾錢

昭和新版
一・三・一・刊
新譯仁王經
訓讀
折本
定價 金壹圓貳拾錢
送料 金拾錢

松井輝星著
一・三・二・刊
增訂易占撥方
和裝
定價 金壹圓五拾錢
送料 金拾錢

故沙門良觀著
一・三・二・刊
地藏菩薩靈驗記
洋裝
定價 金壹圓拾錢
送料 金拾錢

發賣書籍目錄 御申越次第欣呈

京都寺町通五條上ル
山城屋
藤井佐兵衛
振替口座大阪三五一番
電話 下五八五番

☆☆獨逸語圖書院版!!

獨逸文法大要

別府千代太郎・山田健 共著
ドイツ文法の典型的自修書として獨特の名作。簡潔にして最も要を得、よくドイツ文法の奥儀を極むるの書。

谷口秀太郎著 模範獨逸語講座 (上下各冊二・三〇) 定價 金九拾錢也 送料 六錢	別府千代太郎・高橋俊夫共著 名詞・冠詞の研究 ドイツ文法大系I 定價 金一・二〇 送料 九錢	小笠原稔譯註 グリムお伽噺講義 (對譯) 定價 金八〇 送料 六錢	醫學博士 濱田三郎譯註 醫學家 臨床短文例 (獨作文の好參考書) 定價 金一・〇〇 送料 九錢	中山久譯註 獨逸物理と化學 (特價) 定價 金一・〇〇 送料 九錢	佐瀨芳太郎譯註 獨逸世界經濟 (特價) 定價 金九〇 送料 九錢
道部順・小島嶽共編 日英標準獨逸語單語辭典 定價 金一・二〇 送料 九錢	日獨書院編輯部編 獨逸文法カード (動詞篇) 定價 金五〇 送料 六錢	小柳篤二譯註 クローン獨逸日常生活 (對譯) 定價 金一・〇〇 送料 九錢	濱田三郎・高橋俊雄著 獨逸診察問答 定價 金一・八〇 送料 九錢	松室重行譯註 獨逸モルナル傑作短篇集 定價 金九〇 送料 九錢	小笠原稔著 印象的獨逸文法 定價 金八〇 送料 六錢

東京湯島二丁目五番地 獨逸書院株式會社 振替口座東京一四一三六〇
電話 小石川一七八〇

☆呈進本見容内第次越申御☆

監修 井上哲次郎博士・宇井伯壽博士・鈴木大拙博士

禪の講座 (全六册) 四六判クロス装 津田青楓装 一册 二圓 送料十四錢

論語講座 (全六册) 責任編輯 高田眞治博士・諸橋轍次博士・山口察常博士 菊判クロス装函入美本 一册 二圓 送料十四錢

支那語講座 (全五册) 菊判優美装 一册 一圓二十錢 送料十四錢

佐々木邦氏をはじめ、一流ユーモア作家の傑作を網羅す

新作 ユーモア全集 (全十二册) 四六判オフセット刷輕装挿繪入 一册 八十五錢 送料十四錢

父兄・青少年諸君必讀の愛國的文學
中山太一郎先生學生の大軍小事説出づ

國境第一戰の前後

中山太一郎著 宿敵ロシアを敵として終に戦ひの時を來た。全國民に下る動員令かくて日露は鴨綠江に第一戰の干戈を交へ、日本の第一勝は國民を感激せしめるが、遂に大苦戰の時を來る。決死的閉塞隊。南山の攻略戰。明石將軍の活躍。沙河の大遭遇戰。幕は切つて落された。痛快無類の大激戰の表裏を見よ!

北方塹壕線四十里

中山太一郎著 戰爭は長期に亘り、旅順の堅壘は難攻不落、これに對する我軍參謀長の苦惱と策戰、蜿蜒四十里に亘る大塹壕戰に兩軍は粘著したのだ。絶えぬ進軍、モスコト血の日曜日、滿蒙に於ける特殊機關、横川・沖兩志士の大活躍、目覺しき天津の間諜戰等、戰は正に酣となり、一讀血湧き肉躍る。

五軍並進の包圍戰

中山太一郎著 連戰連敗今度こそ日本軍に勝つと大軍を擁して必勝を期し奉天によるクロバトキンの策戰。日本は既に肉彈戰に要する將兵も國內の經濟力も不足をつげた。一方バルチック艦隊は堂々海を壓して東航を開始し、之を撃滅せんとする東郷艦隊は堂々活動、日本特務艦の活躍、又第一戰に戦ふ將兵の心理は如何

世の中を明るくする

◎新雑誌!

佐々木邦編輯

新時代の娛樂雜誌は

明朗潑刺たるユーモア・クラブ

▲ユーモア作家總動員の小説陣は日本一
▲あらゆる面白い隨筆、漫文を満載
▲實話・漫畫・漫文等明朗記事の充實
▲毎號、小説・漫畫・漫文等を懸賞募集

雜誌はユーモア・クラブ

每號三十セン・送料二セン

全國書店發賣!品切の際は直接本社へ!



西川光二郎著 民衆の孟子 價三・五〇送二二

大東文化 岡村利平著 大孝訓 價六・五送二〇

大東文化 岡村利平著 孔子傳 價二・〇〇送一四

法學博士 鶴澤總明著 老子の研究 價五・〇〇送三三

學府院教授 渡邊八郎著 國體と教育 價一・〇〇送一四

寛 克彦著 皇國精神講話 價四・〇〇送二二

寛 克彦著 國家の研究 價三・五〇送二二

渡邊八郎著 皇國體の大義 價一・八〇送一四

東京市本區橋本三丁目一七番 振替東京市本區橋本三丁目一七番 春陽堂書店

東京市本區橋本三丁目一七番 振替東京市本區橋本三丁目一七番 春陽堂書店

釣魚界の最高機關雜誌

水之趣味

四倍版・表紙三色版・口繪寫真十餘頁

釣魚界の最高指針！

縦に横に廣く深く釣界の聯繫を保ち釣人相互の親睦を圖り釣技の練磨に資し釣道を高唱する釣人必讀の雜誌であり且つ好伴侶である。

定價一部 金六十錢（送料二錢五厘）

一每月發行一回

半ヶ年前拂 三圓六十錢（送料共）

一ヶ年前拂 七圓二十錢（送料共）

東京市麴町區丸ノ内三ノ六 啓成社内

水之趣味社

學 生 版

大 字 典

上田萬年博士・岡田正之博士・飯島忠夫博士・外兩大家共編

國漢字典界の覇者
昭和學界の大寶典

大字典の絶對の優越
名實共に断然類書を抜く

堂々三千頁
總字數二萬五千餘
熟字成語十三萬餘
全國中等學校指定推薦
重版二千九十版發行
總發賣數貳百萬部突破

特價 金三圓五十錢

定價 金四圓五十錢

送料内地 普通二十二錢
書留四十五錢

東京市丸ノ内三ノ六

啓成社 株式會社 發行

電話丸ノ内二六八六・振替東京一〇二〇五五

選目書係關語國行刊社學文

垣 內 松 三	松 尾 捨 治 郎	德 田 淨	能 勢 朝 次	齋 藤 清 衛	大 西 雅 雄	菊 澤 季 生	石 井 庄 司	興 水 實	波 多 野 完 治	各 務 虎 雄	垣 內 先 生 選 曆 記 念 會
國語教育科學	國語法論	國語法論	六 百 番 歌 合 顯 昭 陳 狀	中 世 日 本 文 學	教 育 音 聲 學	新 興 國 語 學 序 說	國 文 學 と 國 語 教 育	國 語 教 育 理 論	文 章 學	俳 文 學 研 究	日 本 文 學 論 攷
全十二卷菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀	九菊版洋布裝幀
各卷二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇	送料二〇
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

六八五

振替東京三八七八番
電話神田三五一八番

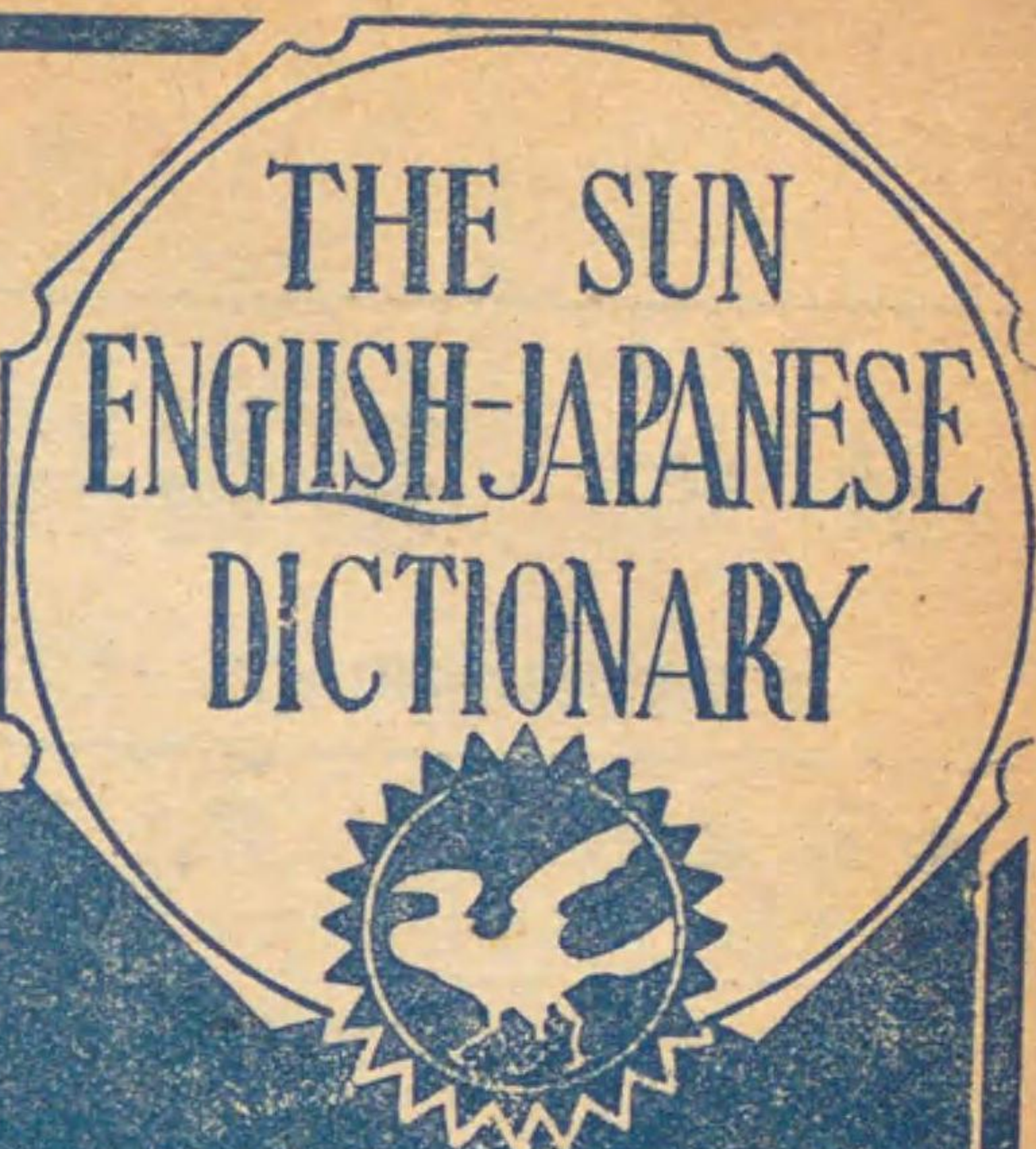


東京東區市神田區
美土代町一八番地

全國各學校
指定辭書の第一位

正則英語學校長
第一高等學校名譽教授

村田祐治著



熟語本位

サン英和辭典

紙數 1298 頁・語數約 60,000 語
新ポケット型=縦5寸2分×横2寸6分
印刷=優秀オフセット鮮明無比
裝幀=總羊革製、高雅堅牢
用紙=特選インデアン最優紙

【定價 ¥2.80】
特價 ¥2.50
(書留送料 ¥.15)

内容見本進呈

- 特 色
- ◇ 熟語の絶對的豊富
 - ◇ 文例の饒多
 - ◇ 重要基本語の明示
 - ◇ 新語の豊富網羅
 - ◇ 譯語の精練懇切
 - ◇ 新意義譯の解説
 - ◇ 發音は頗る正確
 - ◇ 重要固有名詞表

六八四

東京市神田區日英社
鎌倉町八番地
電話・神田(25)二〇四五
振替・東京 二六三三一

第四高等
學校教授

鴻巢盛廣先生著

東京市京橋一ノ八
振替東京四六八四

廣文堂

六八八

萬葉集全釋

右別製期限版六册一揃金三十一圓

(各册金三圓五十錢割)
送料金七十五錢

分賣せず

文學博士 井上哲次郎先生著
四六判四一四頁 金一圓八十錢 送料金十五錢
日本精神研究の指導的名著 ◆十五版

必讀名著提供

●日本精神の本質

●山鹿素行

配所殘筆

送金八十錢
送料九十錢

●平田篤胤

古道大意

送金八十錢
送料九十錢

●平田篤胤

出定笑語

送金八十錢
送料九十錢

●吉田松陰

武教全書講録

送金八十錢
送料九十錢

★ 語學はタイムス版 ★

米國政府選定 編輯部編纂	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	遠藤武男著	松村 寛著	松村 寛著	松村 寛著	下總好昌著 白井同風著	城谷 黙著	牧 一著	佐伯有三著
英語基礎單語四〇〇〇	受驗英語新單語	新英文解釋基礎一五〇項	新和文英譯基礎八〇項	英語基礎熟語八〇〇	英語入試問題種本調べ	和文英譯基礎單語句四〇〇	英語會話練習帳	新聞英語の讀み方	英語對照現代米語小辭典	英語書取の聽き方書き方	英語のパンクチュエーション	分解式和文英譯	分解式英文和譯
送金一四〇	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇六	〇〇四	〇〇四
小島 嶽著	鹿子木夫人著 小出直三郎著	上西半三郎著	大島桂吾著	大尾 猛著	大尾 猛著	大尾 猛著	大村雄治著	濱州 一著	松田 衛著	イ・ア・ウ・シ・リ・エ・フ著 金田常三郎編譯	ウ・ゴ・ロフ著 シ・チ・コフ著	編輯部編纂	入江啓四郎著
英文の公式	獨逸語基礎單語四〇〇〇	新聞獨逸語の讀み方	獨逸語文法整理ノート	佛蘭西語基礎單語四〇〇〇	佛蘭西語基礎熟語二〇〇〇	佛蘭西語自習書	基本新佛蘭西語文法	新聞佛蘭西語の讀み方	露西亞語基礎單語四〇〇〇	露西亞語動詞圖解辭典	露西亞語慣用句二〇〇〇	露西亞語略語新語辭典	支那新聞の讀み方
送金七〇九	一五〇四	一八〇〇	一八〇〇	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	〇〇九	一五〇〇	一五〇四	〇〇九	〇〇四	〇〇八

東京市麴町區目黒二丁目一番一
電話銀座三三〇〇
振替東京六〇〇三
電話銀座三三〇〇
東京市麴町區目黒二丁目一番一
電話銀座三三〇〇
振替東京六〇〇三
電話銀座三三〇〇

六八九

重版好評々々

教育参考書

佐賀師範主事 川上清吉著	教育原理としての	道とその行	定価 三、〇〇
佐賀師範主事 川上清吉著	教育の宗教的反省	報徳教講話	定価 一、八〇
星兵三郎著	文檢教育科問題解義	公民倫理概論	定価 四、三〇
岡田怡川著	公民倫理概論	劣等生の算術教育	定価 三、〇〇
深作安文著	劣等生の算術教育	教育珠算の理論と實際	定価 二、五〇
青木淺四郎著	教育珠算の理論と實際	數學史の實踐指導大系	定価 二、五〇
岩下吉衛著	數學史の實踐指導大系		定価 二、一四
八木瞭三著			
三本重長著			
小野文雄著			

目錄進呈

スナモ 區川石小市京東 五三町早竹

六四四五川石小話電・四五八三六京東替振

好評噴々たる!!															
◎日本マンガ															
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
オホエヤマル	ヒヨシマル	ウサギトワニ	カグヤヒメ	ウシワカマル	コブトリチチイ	イツスンバフシ	ブンブクチャガマ	シタキリスズメ	ウラシマトラウ	ウサギトカメ	サルカニカツセン	ハナサカチチイ	カチカチヤマ	キンタラウ	モモタラウ
大評判の!!															
◎イクサマンガ															
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1						
トツゲキレントイ	タラウノボウケン	ビイドンシンタン	ムテキカントイ	サンゾクセイハツ	コンコンキツネ	アカグツサンユウシ	アバレタンク	クロシヤツタイ	ライオンヘイタイ						
便利重寶なる!!															
◎懷中替古本															
新内のしほり															
小唄と端唄															
端唄のしほり															
同															
常盤津のしほり															
同															
清元のしほり															
同															
同															
長唄のしほり															
第一編															
第二編															
第三編															
前編															
續編															
前編															
續編															
全															
全															
全															
全															

七六二五二京東替振 店本堂吉日 區草淺市京東 六六七四草淺話電 三ノ一橋草淺

◇ 最新農學權威書 ◇

農學博士 高橋 偵造著 總定價一七・八〇 送料六九 合農產製造學 上中下 全三册	農學博士 齊藤 道雄著 定價四・八〇 送料三三 農產製造實習法	元農林技師 喜田茂一郎著 定價八・〇〇 送料三三 趣味と蔬菜の研究	二瓶技師 岡橋本康人著 定價三・三〇 送料二一 小麥製粉と製麵	臺灣農造研究會編 定價五・〇〇 送料三三 無水酒精製造に關する 文獻集	農學士 土井 新次著 定價一・〇〇 送料一五 燃料用無水酒精講話	農學博士 齊藤 道雄著 定價一・五〇 送料二一 ソーセイジ篇	同 定價二・〇〇 送料二一 ハム及ベーコン篇	農學博士 佐々木 治郎著 定價二・五〇 送料二一 牛 乳 篇	農學博士 齋藤 道雄著 定價四・八〇 送料三三 乳と乳製品の物理學	齊藤博士 小島正秋著 定價六・八〇 送料三三 乳と乳製品の細菌學	九大助教 川島 祿郎著 定價九・〇〇 送料四五 肥 料 學	角田技師 永田厚平著 定價三・〇〇 送料二一 厩 肥 要 說	理博農博 田所哲太郎著 定價一・五〇 送料一五 生物の呼吸と酸化	同 定價一・〇〇 送料一五 ビタミンホルモンと代謝	同 定價一・二〇 送料一五 老若男女の生化學
農學博士 三浦博士著 總定價九・〇〇 送料五七 標準林學講義 全一二三册	農學博士 中村賢太郎著 定價五・〇〇 送料三三 育 林 學 原 論	林試技師 泉 岩太著 定價二・八〇 送料二一 木 材 の 乾 燥	東大造園研究會編 一册三・〇〇 送料三三 造園研究 合本 出五册	五十嵐 精 樓著 定價四・五〇 送料三三 代表的花卉と其研究	德 田 省 三著 定價三・〇〇 送料三三 實 用 植 物 學	木下 八木 河田共著 定價一・五〇 送料一五 昆 蟲 寫 真 生 態	農學博士 橫山 桐郎著 定價一・四〇 送料一五 日本甲蟲分類學 (合本)	農學博士 三輪勇二郎著 定價三・〇〇 送料二一 日 本 甲 蟲 分 類 學	農學士 神谷 一男著 定價二・五〇 送料二一 農 業 昆 蟲 學	農林技師 和田 保著 定價三・八〇 送料三三 土 堰 堤	農學博士 山下 脇人著 定價四・〇〇 送料三三 家 畜 の 飼 養	永 田 厚 平著 定價三・〇〇 送料三三 最 新 養 豚 法	農學士 衣川 義雄著 定價五・〇〇 送料三三 最 新 養 兔 法	農學士 富田 文雄著 定價一・九五 送料一五 農村更生運動の實相	同 定價一・三〇 送料一六 郷土を護る青年團

六九六

發行所 西ヶ原刊會 東京市赤坂區一丁目三番
發行所 目黒書店 東京市東區八幡二番九〇番
發行所 西ヶ原刊會 東京市東區一丁目一四番

新 教 育 叢 書

京都帝大名譽教授 文學博士 小西重直先生著 教育精神の研究	慶應義塾大學教授 文學博士(文檢委員) 小林澄兄先生著 教育革新への途	早稻田大學教授 稻毛詛風先生著 日本教育の哲學的基礎	早稻田大學教授 高等師範部長 原田 實先生著 日本教育の史的新視野	東京高等師範學校 教授 兼 主 事 佐々木 秀二先生著 日本教育方法の獨自性	東京帝國大學教授 文學博士 入澤宗壽先生著 新教育の二十五年	新教育協會長 兒童の村小學校長 城西學園中學校長 野口 援太郎先生著 人生と教育の眞諦
-------------------------------------	---	----------------------------------	---	--	--------------------------------------	---

六九七

定價 各一冊 圓十六錢
發行所 東京市東區橋入町三番一
發行所 東京市東區橋入町三番一
發行所 東京市東區橋入町三番一

〔内容見本入型録〕

東京市神田區錦町一丁目
振替口座東京七一四八番

株式有朋堂

六九八

早稻田大學 前田定之助著 (三版)

菊判總布製函入三三〇餘頁
定價金參圓・送料金十四錢

商業英語の研究法

商英叢書第一篇 How To Study Commercial English
外國貿易實踐とか、英語通信文の研究とか所謂商業英語の
参考書は汗牛充棟も當ならぬ程流布されて居る。商業英語の
究すべきは「How To Study Commercial English」を扱は
れたものは皆無と云ふ事が出来る。
先づ「研究法」を研究してから商業英語に入れ、之が著者
の上梓せる所以である。

同志社高商 岡本春三譯 (三版)

菊判總布製函入二五〇餘頁
定價金貳圓五十錢送料金十四錢

簡易英語 商業通信文

商英叢書第二篇 Basic For Business
澎湃として世界の英語學界を風靡せるベシツク運動は、
遂に商業英語の分野にまで其の透徹せる理論を實際化せんと
して居る。ザルツェド氏の原書は單にベシツクにて書かれ
た商業英語である、岡本教授は原書の採つて以つて原文と
更にベシツク文とを比較して對照比較及翻譯せられ、
實務家の参考書、商業學徒の教科書に絶好のものとして御薦
めする。

小樽高商 長 苦米地英俊著 (六版)

菊判總布製函入本文三百餘頁
ドキメント一三一枚寫真百頁
定價金四圓五十錢送料金廿二錢

國際貿易易活法

商英叢書第三篇 Overseas Trade In Practice
開卷劈頭の營業日誌を見よ之を全卷の骨子として、Case
Method の最新方法に據り、活きたるプロシエニアを内容
とせる本書こそ、國際貿易の總ゆる Case の絢爛たる集大成
全面的展望と云ふ事が出来る。
單なる貿易實務の参考書か、非ず! 漫然たる商業通信文の
参考書か否! 之れ等の總てを包含具備せる前人未踏の新機軸
を以て編まれたるものこそ本書である。

神戸高商 中村長之助著 (三版)

菊判總布製函入三〇〇餘頁
定價金參圓・送料金十四錢

英米 商業英語檢討

商英叢書第四篇 Analysis And Synthesis English
英國式の傳統を尊ぶか、米國式の簡易平明を採るか、傳統を
重んじて繁文褥禮に甘んずるか平明を尊んでポライトを犠牲
にするか、喧々囂々として歸趨に迷ふ貿易人に、英米兩式の長
を採り、短を捨て、英文書簡文は斯くあらねばならぬと斷定を
下せるもの本書である。著者は「……謂ふ研究材料の選擇に留
意しました次に其材料の示す取引の要點を判然と擷む事に努
めました。更に其取引表示の爲に使用された言辭は果して、當
事者の意志と狀勢とに適切なりや否やの點に心掛けました。」

早稻田大學 上坂西三著 (好評)

菊判總布製函入三三〇頁
定價金參圓・送料金十四錢

統一國際賣買規則の研究

商英叢書第五篇 Study Of Uniform International Rules For The Sale Of Goods
太平洋貿易中心時代に現前せる躍進貿易日本の第一線に活
躍する諸君が世界共通の貿易規則たる「ワルソーオックスソ
ード規則」をインデアハウズ規則に對する完全なる理解
を待つことは、國家を、會社を、諸君自身を安んじて貿易運に
飛躍せしむるものである。本書こそは複雑多岐なる賣買契約
の解釋上の相違、地方的慣習の混入に依り釐成せらるる幾多
の商事係争の頻發を未然に防ぐもの、敢て貿易實務家、船船
運輸關係者、法律家、商業學徒に薦む。

山口高商教授 山崎紀男著 (好評)

菊判總布製函入四一〇頁
定價金參圓・送料金二十錢

英字新聞經濟市況の研究

商英叢書第六篇 How to Understand the Market Section of a Newspaper
眞に「役立つ」實用の書として著者の企圖せる本書こそ、單
なる學術研究書に非ず、實に英文經濟記事に通曉し、英語達
成への渴望を充たすに止まらず實に六十八種の内外著名英字
新聞より攝れる材料により、總ゆる角度より見たる經濟市況、
株式市況、商品市況、金融市況、金銀塊市況、爲替市況、運賃市
況等に懇切周匝なる問題を附し、各記事の譯註と共に、廣汎に
深奥且つ實際的經濟知識を附與せんとするもの、日本に於け
る斯種研究檢討に正に劃時代的一線を劃せるものと云ふべし

〔内容見本入型録〕

東京市神田區錦町一丁目
振替口座東京七一四八番

株式有朋堂

六九九

府立高等 菅沼太一郎先生著 二三四二〇頁 定價 金壹拾圓也

普及版 統計的研究 中學標準英單語

英語教育界諸權威の齊しく推賞する英單語書

東京帝大の市河三喜教授は中等英語教育に有力な資料を與へて呉れたと喜ばれ、東京文理大の石川林四郎教授は鳳に必須語彙の制定の必要を唱へられて居るだけに本書の出現を喜ばれ、東京帝大の澤村寅二郎助教授は常に本書を座右に置かれて居るだけにと云はれて居ると云はれて居る。等多數の英語教育界の諸先生方から推賞を受けて居る。高等學校の入試問題の標準に供せらるゝに及び高等學校では本書を問題選擇の標準に供せらるゝ所が増して來た。

本書は極平易な單語は省き、重要なもの四千を藏めアルハベツト順に排列して、發音記號を添へ、必要な譯語を附したもので中等英學生諸君のポケットに一書を携ふべきものである。

發行所 慶文堂書店
 東京市神田區錦町一丁目三番地
 電話 三五八二

(一七) 政治・經濟・社會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
軍部と政黨の對立	政治外交調査會	二〇	四〇	東京パンフレット社
古事記と建國の精神	植木直一郎	三〇	六二	日本文化協會
國體明徴の方法原理	吉田熊次	四〇	一〇三	國民精神文化研究所
明日の政黨論	城南隱士	二〇	四二	明潮社
立上るる政治家	馬場恒吾	一七〇	四三	中央公論社
一新議會制度改革號	河合靖夫	四〇	四四	日輪會
次期政權は誰が握るか	有松淳一郎	二〇	四四	今日の問題社
躍進する新朝鮮	三浦悅郎	二〇	七	廣文社
政黨勢力確認と重要法案の大修正議會を前にして	和田半一郎	二〇	九	日本政治經濟研究所
第二次インフレーション	勝田貞次	一〇〇	三六	千倉書房
日清役後支那外交史	東京文化研究所	五〇〇	七九	京都研究所
國境 第一部馬賊篇	古館清朗	一五〇	四〇	春秋社
革新的政治勢力の主力	小島喜一郎	二〇	四二	小島政治經濟研究所
會の將來	勝正憲	一〇〇	三九	千倉書房
第七十議會の全貌	和久田正虎	二〇	四二	森田書房
廣田税制の核心を語る	中村繼男	四〇	一六	巖松堂書店
膨脹豫算とインフレの前途	稻葉日郎	二〇	四〇	教材社
増税案に就て	山田龍雄	非	四〇	新日本同盟
地方税制の改革に就て	大村精一	非	四〇	新日本同盟
西安事件を轉機とし	和田半一郎	四〇	四二	日本政治經濟研究所
情の新局面とわが對支外交の前途	同	四〇	四二	日本政治經濟研究所
宮中席次上層の現狀維持と革新人物愛國陣營の觀たる色分け表	同	四〇	四二	日本政治經濟研究所
葉隠の精神	内田鐵洲	二〇	四二	指南社
右翼新黨結成の母胎と議會との將來性	中澤若太	二〇	四二	日本政治經濟研究所

政治・經濟・社會

七〇一

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
發火點上の國際關係 國體明徴と 日獨防共協定	鈴木日出輔	・二〇	四〇	森田書房	改訂貨幣及金融原理 増補	春日井 葉	・三〇	四〇	文雅堂
軍部と轉換期の政治 議會政治か フアツシヨか	猪野毛利榮 野村重太郎 他三名	・六〇	四三	協會出版部	準戦時下の財政と經濟	高橋龜吉	・一五〇	四三	千倉書房
日本の憲政を 確立すべし	報知新聞社 編輯局	・二〇	三〇	今日の問題社	最良救國策は是だ	佐藤鐵馬	・四〇	三	佐藤鐵馬
來るべき統制經濟	赤松克麿	・二〇	三〇	維新制度 研究會	新稅法の影響と對策	山田正雄	・一八〇	三	銀行問題 研究會
三井物産の思出	安田與四郎	・一〇〇	三〇	ダイヤ ンダモ 社	經濟株界二十年	神原周平	・一五〇	三	新洋報 社
作業管理代表例集	高橋敏太郎	・一五〇	三〇	文教 館	國防經濟學	小穴 毅	・一三〇	三	有朋 堂
新經濟面の 讀み方(金融篇)	宇野信三 伊藤誠輔	・三〇〇	一五	日本能率 協會	ガノ國民經濟學原理	安井琢磨	・二五〇	三〇	日本評論社
經濟學概説(二)	木村孫八郎	・一八〇	四〇	栗田書店	勞務管理代表例集	伊藤誠輔	・三〇〇	一五	日本能率 協會
遞信讀本 爲替貯金篇	松浦 要	・一〇〇	一六	巖松堂書店	最近の貿易及貿易政策	平尾彌五郎	・二〇〇	三	一元社
日本の現狀と 統制經濟の必然性	遠藤 毅	・二五〇	四四	交通研究社	滿蘇國境の大寶庫	輪堂寺 讓	・二〇〇	三	進興出版社
明治大正財政史(一〇)	長野作二郎 丹羽五郎	・二〇〇	四	統一書房	農山負債整理の 方法と實例	古瀬傳藏	・八〇	三	日新 閣
革新運動と資金問題	大藏 省	・一〇〇	一〇〇	財政經濟學會 青年懇談會 局	漁村 金か物か? 悪性インフレに備へよ 非常時の打破は思想・ 産業國防の整調充實より 日本主義運動と 時局協議會	野田 豐	・二〇〇	四	今日の問題社
	神庭伸之助	・一〇〇	一四	育年懇談會 局		不破又男	・一五〇	四	不破又男
						伊藤隆文	・二〇〇	四	今日の問題社

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
覺悟せよ次の大戦争 革新運動の主體勢力たち んミナ時局協議會の展望	海南隱士	・二〇	五	東亞書房	意外!眞?偽? 蔣介石は死んでゐる 戦慄すべき 排日教科書の内容 陸軍々備の充實と其の 精神に對する國民の反響	金井不曇	・二〇	四	東京パ ンフレ 通信社
太平洋に伸びる 列強の耳目	森本榮三	・二〇	六	綜合國策 研究所	勞働者のための退手法	南都 參次	・非	三	播州國防 研究部
廣田内閣の致命傷	高倉 晁	・二〇	五	東亞書房	混迷支那の全貌	吉塚 乙	・二〇	三	國防時報社
至高府樹立に俟つ 皇道興隆	城南尊人	・二〇	三	有恒社	帝人事件と私の心境	塚本重藏	・一〇〇	三	勞働事 務研究 所
昭和十一年中に於ける 左翼社會運動概要並に 社會運動關係者消息一 般(一)	長澤九一郎	・五〇	八	國體原 理所	世界は何處へ	村田士郎	・五〇	一七	軍事出版 社
支那秘密結社の新情勢	楠原祖一郎	・非	三	社會思想對策 會	吾が國民戰線の解剖 人民戰線の解剖 世界は日本を 何う見る?	小笠原 喜太郎	・非	四	小笠原喜 太郎
議政壇上に叫ぶ	三宅儀明	・三〇	六	中國通信社	肅軍と軍人の 政治干與問題	塚本義隆	・五〇	二	同盟通信 社
軍備倍増論 マラソン財政への警鐘	濱田國松	・二〇	四	東市支局	河野信之助	河野信之助	・非	元	國民訓 練所
宗教改革と日本 農民戰爭	重松清行	・二〇	四	世界公論社	國際事情 會	繁田淺二	・一五〇	五	太陽 閣
大毎資本関に蹂躪さ れた福澤精神	稻村隆一	・二七〇	三九	改造社	列強をのく 日本の躍進	和田日出吉	・一三〇	三	社會時報 社
外國新聞論調(六)	舊時事新報 從業員會	・二〇	六	從業員會	醫道革新論	秋月正雄	・二〇	四	東亞書 房
同	貴島外交 研究室	・非	四	國際經濟 研究所	秘密外交の破局 戦争かオリズムピツクか	諸岡 存 島影 盟 村田芳人	・一五〇 ・二〇 ・二〇	三 三 三	大東出版 社 社會事 情社
排外支那の解剖	同	・非	四	同					

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
現代日本政治外交之指 標通告東亞同志 強權的馬場財政の後退結城新 蔵相の登場とその財政方針	近衛文麿 岡部長景 和田半一郎	・二〇 ・二〇 ・二〇	圓 圓 圓	東亞同文會 日本政治經濟 研究所	朝日時局讀本一 移り行く支那 日本國體論	星野辰男 伊藤千眞三	・二〇 ・二〇	圓 圓	朝日新聞社 進教社
林内閣の運命 軍部と政黨の對立 をめぐる 憲政の危機 宇垣と軍部關係	鈴木日出輔 政治外交 研究会 上村文三	・二〇 ・二〇 ・二〇	圓 圓 圓	東京パンフレ 社	我が南進國策の指標 新對支政策の提唱 明治・大議會政治 正・昭和 裏面史 陸軍大臣へ公開質問狀 科學 日本國體正論 國策産業パンフレット の別冊附録 すめらみこと信仰	米田實 上田宏堂 鹽田盛道 相馬基 久米川 支太郎 佐藤道太郎	・二〇 ・二〇 ・二〇 ・二〇 ・二〇 ・二〇	圓 圓 圓 圓 圓 圓	東京商工 會社 東邦經濟 出版部 建國講演 會 東京日日新 發行所
政界の眞相に就て 政界の眞相に就て 政界の眞相に就て	高木斐川 神田正雄 城南隱士	・三〇 ・三〇 ・一八〇	圓 圓 圓	啓明會事務所 新日本社	宇垣より林へ 肅軍と軍人の 政治干渉問題 國家論大綱	菅原節雄 繁田淺二 岩佐作太郎	・二〇 ・三〇 ・三〇	圓 圓 圓	第百書房 社會時報社 亞細亞政 策研究所
支那資本機構 豫算と増税と無産者 明日の政治を語る 日本人の大使命	濱田峰太郎 釧路一般勞 働者組合 星野辰男 大倉常吉	・三〇〇 ・三〇 ・三〇 ・三〇	圓 圓 圓 圓	文閣 労働者組合 朝日新聞社 豐橋日本主義 俱樂部 鷹藤龍馬	國民經濟(下)滿洲資料 結城新財政策で 景氣はどうなる 貿易統制の研究(二) 支那經濟恐慌論 現代財政學の理論 日本コンシエレン全書二 三井コンツェルン讀本	松尾小三郎 谷口吉彦 木村増太郎 永田清 和田日出吉	・一〇〇 ・二〇 ・二七〇 ・二八〇 ・一五〇	圓 圓 圓 圓 圓	帝國經濟 聯盟 森田書房 斐閣 岩波書店 春秋社
故野本五郎先生の明見 國體の本義と建國の二字 國體明徴及ビ教學 刷新ニ關スル意見書 支那の財政と 經濟に就て	鷹藤龍馬 川畑眞吉 宇治田直義 東洋協會 調査會 堀江保藏	・三〇 ・三〇 ・二〇 ・二〇 ・二〇 ・三〇	圓 圓 圓 圓 圓 圓	鷹藤龍馬 川畑眞吉 東亞同文會 東洋協會 有斐閣	銀の問題 結城財政の檢討 經濟學入門 關西中堅財界の政治對 策機關政治經濟研究會 創立總會報告書全文	和野半一郎 波多野鼎 眞木傳五郎 調外務省 調査部	・一〇 ・二〇 ・二〇 ・一〇〇 ・一〇〇	圓 圓 圓 圓 圓	日本政治經濟 研究所 日本評論社 日本國際協會
滿洲國經濟建設概観 アメリカ經濟史概説 經濟原論 景氣恢復? 列國の經濟戰!! 危機財政と金融統制 日本のインフレイ ション 物價讀本 國民經濟(上)庶務必携	小泉信三 黒田正隆 高島佐一郎 勝田貞次 岩井良太郎 松尾小三郎	・二五 ・二〇 ・二〇 ・二〇 ・一〇〇 ・一〇〇	圓 圓 圓 圓 圓 圓	日本評論社 東亞書房 千倉書房 今日の問題社 千倉書房 帝國經濟聯盟	內務省 地方局 水野祐吉 多角形企業論 蒙古貿易と日本磚茶	和野半一郎 波多野鼎 眞木傳五郎 調外務省 調査部 細谷清	・一〇 ・二〇 ・三〇 ・三〇 ・三〇 ・三〇	圓 圓 圓 圓 圓 圓	日本政治經濟 研究所 日本評論社 全國都市問題 會議事務局 日本評論社 叢文閣 滿蒙社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
改訂外國爲替・金・銀 增補外國爲替・金・銀 帝人株取引ニ關スル 檢察當局ノ經濟錯覺	金原賢之助 大古田要一郎	二・〇〇 非	四七 三三	東洋出版社
計畫經濟	目崎憲司	三・〇〇	四三	有斐閣
綜合蠶糸經濟論(上)	本位田祥男	四・八〇	五四	同
國產産業パンフレット 一一 財閥は物價を操 る別冊附録すめらみこ と信仰	犬飼時男	五・〇〇	二冊	國策産業協會
最新對華經濟資料(二)	姫野徳一	一・五〇	三五	日支問題 研究会
貸金整理回收事務精義	井上勝馬	四・〇〇	五五	文雅堂
フアルク貨銀の理論	手塚壽郎	三・三〇	四三	森山書店
經濟學史	直井武夫 他一名夫譯	三・〇〇	五四	白揚社
金融論講義案	金原賢之助	非	七八	金文堂書店
海上被保險利益論	加藤由作	三・〇〇	三五	巖松堂書店
經濟學史	高橋誠一郎	四・五〇	五三	日本評論社
最近支那經濟の動向	吉田政治	四・六〇	六	東京商工 會議所

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
我生命線を脅かす 赤化の極東包圍陣	川崎巳之太郎	二・〇〇	四	樂天社
列國の關心集ふ 赤化の危險か ツシヨの危險か	藤原達策	二・〇〇	五	東亞書房
勞働組合論	自由社 ニコライ・ 西雅・ レニン 雄譯	七・〇〇	二六	白揚社
日本資本主義論争	内田穠吉	一・八〇	二九	清和書店
帝人事件ニ就テ	大久保偵次	四・三〇	三	丸善株式會社
議會亂闘史	千田理禾造	二・〇〇	四	森田書房
赤露顛覆大陰謀の真相	岡田信高	二・〇〇	四	東京パンフレ ット通信社
瀨の社會的影響	小松茂治	三・〇〇	四	診療社出版部
輓近社會學の動向	黒川純一	二・〇〇	三四	巖松堂書店
露紙論調(四)	吉村忠三	非	四	大靖協會
嗚呼二月二十六日 西安兵變の後に 來るもの?	鈴木梅四郎	非	一三	晚成社
日濠通商紛争の顛末	宮本善隆	二・〇〇	七	極東事情 研究所
新聞戦線大異變	青木武雄	二・〇〇	一三	報知新聞社
	中江燿	二・〇〇	四	新ジャー ナル社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
經濟學史	直井武夫譯	三・〇〇	五〇	白揚社
最近世界貿易概觀	國際聯盟 事務局	一・三〇	一八	日本國際協會
銀行論 日本經濟の現位 置と若干の見透	石橋湛山	非	一三	東京銀行 集會所
外國爲替管理法に基く 大藏省令の改正に就て 馬場財政から 結城財政へ	上山英三	非	一六	同
最新取引所要論	新井肅人	二・〇〇	二	今日の問題社
スペインの有油專賣	長滿欽司	三・〇〇	三〇	巖松堂
射程外から展望した 重大時局の素描	長尾桃郎	八・〇〇	一四	石油時報社
社會學の理論構成に 於ける限界性	岩崎卯一	非	八	時事展望社
西安事變の全貌	東亞協會 調査部	非	六	東亞協會
新黨樹立運動の展開	安藤信夫	二・〇〇	二	有恒社
支那の性格	原勝	七・〇〇	二四	泰山房
社會裏面集	齋藤芳明	一・五〇	二	社會研究會
商業使用人問題の研究	井上貞藏	三・八〇	六九	千倉書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
今後の世界はどうなる	酒井勝軍	二・〇〇	五	神祕之日本社
非常時日本の財政	國際問題 研究会	二・〇〇	五	東亞書房
社會裏面集	齋藤芳明	一・五〇	二	社會研究會
フアツシヨと 國家社會主義	北吟吉	一・〇〇	二〇	日本書莊
武人國を謬るか	野依秀市	一・〇〇	二四	秀文閣書房
軍部思想と政黨思想	木村順二	二・〇〇	四	有恒社
昭和十一年中に於ける 左翼社會運動概要並に 社會運動關係者消息一 般(その一)	楠原祖一郎	非	三	社會思想對策 調査會
純正日本主義青年運動 全國協議會報告第三報	中川裕	四・三〇	三	純正日本全國 運動協議會
中華帝國之崩潰與再建	神川彦松	四・三〇	三	東亞同文館研 究編纂部
非常時に處する 途一に斷あるのみ	長谷川尙一	非	三	中西貞一
農村問題に就て	那須皓	非	三	研究會政 務審査部
新黨樹立陣營内の自重 派と急進派の對立狹義 國防の準戰體制主義と 國內改造派との暗闘	和田半一郎	非	六	日本政治經濟 研究所
帝都二・二六事件背後關係者に 對する陸軍々法會議判決概要 及その餘録	楠原祖一郎	非	三	社會思想對策 調査會

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
轉換期に立つ これからの日本	御手洗辰雄	・二〇	圓 三	森田書房	政界の裏を割く 新黨運動の真相	上村文三	・二〇	圓 三	教材社
最近の社大黨勢	繁田淺二	・一八	圓 一	社會時報社	社會大衆黨の市會選舉 内紛反亂軍の處置如何 は黨の分裂?	大倉一榮	・一八	圓 四	小島政治 經濟研究所
小林順一郎氏を中心と する日本主義運動批判	小島喜一郎	・一七	圓 三	小島喜一郎	中等日本國體讀本	里見岸雄	・一〇〇	圓 三	里見日本文化 學研究所
魚争議誌史	小島龜吉	・一七	圓 一	東京府魚 商組合	軍部と庶政一新	三宅一郎	・〇八	圓 五	大和俱樂部
政黨と我等との争點	毛呂溝輝	・二〇	圓 五	純正維新共同 青年隊	軍政議會の大獅子吼	樂天社	・三〇	圓 五	樂天社
社會學論の構造と 聯關(上)	岩崎卯一	・一〇	圓 一	岩崎卯一	イギリス自主精神 の本質と起源	池田榮	・一五	圓 一	弘文堂書房
三月					國策の検討と具體化 (一)	下垣幸三郎	・四〇	圓 五	日本政治 研究所
現下の國情を憂ふ 經濟戰か武力戰か	尾崎行雄	・二〇	圓 五	森田書房	支那今後の動向を決定 する國・共合作問題と その日支關係への影響	和田半一郎	・二〇	圓 四	日本政治 研究所
最近の支那政情と 對支方策私見	寺西秀武	・一〇	圓 三	霞山會館	對滿投資の滯滞は閣内 對立へ延長せん	同	・一〇	圓 二	同
支那の再認識	長野 朗	・一〇	圓 四	大都書房	議會後に於ける政局と 軍部今後の展望	細川龜市	・二〇〇	圓 二	南 郊 社
積極擴大主義の 危険性と合理性	中野正剛	・三〇	圓 一	東大陸社	日本政治史	和田半一郎	・二〇〇	圓 三	同
外交戰略論と外交大學	三枝茂智	・二〇	圓 七	國際經濟 研究所	滿洲産業開發強行の軍部と對 滿洲投資を語る財界 滿洲産業開發五ヶ年計劃遂行 上の障礙とその克服策	同	・二〇〇	圓 三	同
祭政皇道の教學	山口鏡之助	・三〇	圓 七	本學會出版部		同	・二〇〇	圓 三	同

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
我國體より時局を眺る	南郷次郎	・三〇	圓 九	地湧日本社	現代國家財政及 財政政策	高木壽一	・二六	圓 三	時 潮 社
躍進 日本大觀	西江清正	・三〇	圓 〇〇	國際展望社	ナチスの價格統制	天野雄健	・三〇	圓 六	東京商工 會議所
政黨の罪惡と 議會制度の刷新	竹田安次	・三〇	圓 三	世界公論社	結城税制とは どんなもの	野田 豊	・五〇	圓 九	野田經濟研究 所出版部
支那現下の政治動向	田中忠夫	・一五	圓 三	學 藝 社	大資本の投資を中心に した滿洲開發の原則的 方針林内閣をめぐる軍部 財界接近の經濟的基礎	和田半一郎	・一〇	圓 九	日本政治 研究所
亞細亞聯盟論	松井石根	・二〇	圓 四	大亞細亞協會	農業 金融 論	石坂橋樹	・二〇〇	圓 三	叢 文 閣
軍部・池田・結城のコン ビは何を物語るか?	唐島基智三	・二〇	圓 完	第百書房	日本に於ける 準戰時財政經濟	山崎靖純	・非 圓	三	日本講演協會
ゲ・ペ・ウに悩む民衆 露國共產政治の真相	高谷覺藏	・非 圓	三	日本講演協會	結城財政を衝く	太田正孝	・三〇	圓 四	森田書房
マルクスの主著(資本 論)の根柢たる科學及 び自然云々の語、七百 六十ヶ所の再検討	鈴木鷺山	・圓	三	鈴木鷺山	消費組合の現在と將來	濱田道之助	・非 圓	三	全國消費 組合協會
農業經濟學(上)	直井武夫譯	・二五	圓 六	白 揚 社	日本經濟四季報(二)	日本經濟 研究所	・一三	圓 三	改 進 社
結城景氣の波に乗れ	伊藤誠三郎	・二〇	圓 三	有 恒 社	全訂經 濟 原 論	山崎覺次郎	・二〇〇	圓 三	有 斐 閣
戰爭經濟讀本	齋藤直幹	・八〇	圓 二	今日の問題社	我國金融事情解説	内野一太郎	・一〇〇	圓 二	同 文 館
林内閣と今後の經濟界	飯田清三	・非 圓	三〇	日本講演協會	有價證券擔保事務	岡野有二	・二五	圓 一	同 文 館
準戰時 軍部と政 治・經濟	上村文三	・五〇	圓 二	教材社	東北産業經濟史 (三)秋 田 藩	淺野源吾	・六〇	圓 三	東北振興會
世界經濟の動向と 日本の金融	青木得三	・三〇	圓 四	啓明會事務所	同 (四)庄 内 藩	同	・六〇	圓 三	同

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
東北產業經濟史 (五)津輕藩	淺野源吾	六・〇〇	圖三五	東北振興會
同 (六)南部藩	同	六・〇〇	圖三五	同
同 (七)會津藩	同	六・〇〇	圖四二	同
日本工業統制論	有澤廣己	二・五〇	圖二九	斐關
工業組合經營論	川端巖	二・八〇	圖三五	森山書店
湖沼學	吉村信吉	八・〇〇	圖五〇	三省堂
ソ聯邦食料品工業の近況	高谷覺藏	〇・五〇	圖五	阜月會
三井財閥とは何か? その一	久野岩雄	二・〇〇	圖四	鷺山莊
日銀新總裁	政治經濟研究會	二・〇〇	圖四	東京パンフ社
池田成彬縱橫談	研究會	一・五〇	圖三二	慶應書房
日本コンツエールン	永住道雄	一・五〇	圖三二	慶應書房
財閥住友の新研究	松本傳吉	一・五〇	圖三六	中外産業會
新日本生産力擴充	松本傳吉	一・五〇	圖三六	中外産業會
建設時代の鐵鋼國策	調查會	二・〇〇	圖三	經濟會出版部
平和外交か積極主義か	和野半一郎	二・〇〇	圖三	日本政治經濟研究所
外務省内暗流激化を省	和野半一郎	二・〇〇	圖三	日本政治經濟研究所
内強硬派を支持する一	和野半一郎	二・〇〇	圖三	日本政治經濟研究所
水社の活動とその概貌	和野半一郎	二・〇〇	圖三	日本政治經濟研究所

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
國際秘密力の研究(二) 明朗會の粉碎を意圖した兩組合の合册後問題	柳沼七郎	非	圖二六	國際政經學會
日本の使命と國民の自覺	長尾桃郎	非	圖三	時事展望社
最近の極東蘇聯	杉原正己	非	圖三	正義時代社
最近の獨逸事情	酒井榮藏	非	圖六	正義時代社
非常時局に際し天下の同愛の士に告ぐ	濱本恭輔	〇・八〇	圖五	大和俱樂部
戰勝か? 庶政一新に敗北か? 幕進する世界列強	戸田武雄	三・八〇	圖四四	日本評論社
メンガ! 社會科學の方法に關する研究	久保太助	二・〇〇	圖三七	百道刊行社
納税不良町村の指導と更生の實例	水島彦一郎	非	圖四二	猶與書院
有色民族の更生	吉村忠三	非	圖六	大靖協會
露誌論調(六)	近藤榮藏	〇・三〇	圖三	愛國勞働農民同志會本部
愛國勞働農民同志會轉向者對策委員會に就て	國際事情研究會	二・〇〇	圖四	東京パンフレ社
日ソ戰の豫言	高松敏雄	一・五〇	圖三三	刀江書院
眞日本主義國民改造と道義大亞建設	德田健兒	二・〇〇	圖三	時事展望社
津上製作所爭議の全貌	德田健兒	二・〇〇	圖三	時事展望社

書名	著譯者	定價	頁形	發行所	書名	著譯者	定價	頁形	發行所
支那新聞の記事論調 (五)	三枝茂智	圓一	三	日本國際協會	國防と總選舉	佐藤友兄	非	三	帝國在郷軍人會本部
朝日時局讀本(四) 危機に立つ歐洲	星野辰男	圓二	四	東京朝日新聞發行所	經濟提携か政治問題先決か日支關係不調の原因と冀東問題の本質	和田半一郎	圓	八	日本政治經濟研究所
中華新聞發達史	井東憲	圓一〇	一七	日支問題會	獨裁政治の實際と理論	半澤玉城	非	三	日本外交協會
非常時局論	中里介山	圓一〇	二六	隣人之友社	日獨防共協定の意義	黑田禮二	圓	四	日獨同志會
軍部・政黨・財界を繞る新政治情勢の發展と現政局の展望	伊藤操弑	圓二	二枚	日本政經勞動資料所	政治思想史上	高橋清吾	圓二	五	有斐閣
七十議會はなぜ解散されたか	永松淺造	圓一〇	三	新ジャーナル社	次期を待機する	長尾桃郎	圓	三	時事展望社
日本の憲法政治とは	竹井十郎	圓一三	三	リゾム社	政治及民心の指導原理たる國體	奥平俊藏	圓	四	恢弘會
世界の現状と皇國の進路	橋本欣五郎	圓二〇	三	高次昇	現代政治の動向	星野辰男	圓	四	東京朝日新聞發行所
條約集(七八)	赤松祐之	圓一五	二〇	日本國際協會	鐵鋼國策の再檢討を要する私見	岩城隆德	圓	四	岩城隆德
條約集(七九)	同	圓一〇	同	同	軍人の政治干與問題	小宅健一郎	非	三	明倫會出版部
條約集(八〇)	同	圓一〇	同	同	祭政一致と臣民道	大倉精神文化研究所	圓一	五	大倉精神文化研究所
林内閣の自己瓦解後南大將出馬要望・宇垣系の觀望・新黨樹立派苦肉の策	和田半一郎	圓一〇	九	日本政治經濟研究所	議會解散の真相と政府・政黨の主張	編輯局	圓一	五	自立社
陸海軍本省の完全なる統制下に置く總選舉に臨む在郷軍人會本部の態勢	五來欣造	圓一八	一四	青年教育會	政局の轉換と新勢力の擡頭	菅原節男	圓一	五	今日の問題社
フアツシズムと其國家理論	和田半一郎	圓一八	一四	青年教育會	選舉に於ける軍部と政黨	伊達圭介	圓一	五	今日の問題社
再解散反對論に内閣總辭職の運命南・松岡の出馬説と宇垣派の反南運動高潮	和田半一郎	圓二〇	二	日本政治經濟研究所	革新日本の建設	飯塚勇	非	三	政論社
第二解散反對、内閣總辭職論軍内に擡頭政黨との妥協か總辭職か苦境の政府	同	圓一六	同	同	立國の大本	板垣退助	圓	三	板垣會館
總選舉と新黨運動 各派の動向	小島喜一郎	圓二	三	小島政治經濟研究所	貨幣と信用 (資本主義篇)	米村正一	圓一	八	栗田書店
第七十回帝國議會 貴族院ニ於ケル青木議員ノ質問ト閣僚の答辯	河野高之助	圓一〇	三	日本政經勞動資料所	生産力擴大下の景氣動向	勝田貞次	圓一	三	千倉書房
對支外交の大眼目	伊藤操弑	圓三	三	日本政經勞動資料所	新興暹羅の經濟現勢	暹羅室	非	七	暹羅室
政局はどうなる	辰己吉次	圓三	三	日本政經勞動資料所	世界各國の關稅制度	外務省調査部	圓	三	日本國際協會
行政法講義案 上	田上穰治	圓二〇	三	江草重治	景氣恢復と財政政策	天野健雄	圓	五	東京商工會議所
第七十議會解散秘録	長谷實馬	圓三	三	日本精神社	南方に於ける鐵鑛資源に就て	峰整造	非	八	南方經濟會
京都市政の片影	淺山富之助	圓六	二	夏秋葵太郎	割増金附債券の研究	三木純吉	圓	三	債券之日本社

書名	著譯者	定價	頁形	發行所	書名	著譯者	定價	頁形	發行所
支那新聞の記事論調 (五)	三枝茂智	圓一	三	日本國際協會	國防と總選舉	佐藤友兄	非	三	帝國在郷軍人會本部
朝日時局讀本(四) 危機に立つ歐洲	星野辰男	圓二	四	東京朝日新聞發行所	經濟提携か政治問題先決か日支關係不調の原因と冀東問題の本質	和田半一郎	圓	八	日本政治經濟研究所
中華新聞發達史	井東憲	圓一〇	一七	日支問題會	獨裁政治の實際と理論	半澤玉城	非	三	日本外交協會
非常時局論	中里介山	圓一〇	二六	隣人之友社	日獨防共協定の意義	黑田禮二	圓	四	日獨同志會
軍部・政黨・財界を繞る新政治情勢の發展と現政局の展望	伊藤操弑	圓二	二枚	日本政經勞動資料所	次期を待機する	高橋清吾	圓二	五	有斐閣
七十議會はなぜ解散されたか	永松淺造	圓一〇	三	新ジャーナル社	政治及民心の指導原理たる國體	長尾桃郎	圓	三	時事展望社
日本の憲法政治とは	竹井十郎	圓一三	三	リゾム社	現代政治の動向	星野辰男	圓	四	東京朝日新聞發行所
世界の現状と皇國の進路	橋本欣五郎	圓二〇	三	高次昇	鐵鋼國策の再檢討を要する私見	岩城隆德	圓	四	岩城隆德
條約集(七八)	赤松祐之	圓一五	二〇	日本國際協會	軍人の政治干與問題	小宅健一郎	非	三	明倫會出版部
條約集(七九)	同	圓一〇	同	同	祭政一致と臣民道	大倉精神文化研究所	圓一	五	大倉精神文化研究所
條約集(八〇)	同	圓一〇	同	同	議會解散の真相と政府・政黨の主張	編輯局	圓一	五	自立社
林内閣の自己瓦解後南大將出馬要望・宇垣系の觀望・新黨樹立派苦肉の策	和田半一郎	圓一〇	九	日本政治經濟研究所	政局の轉換と新勢力の擡頭	菅原節男	圓一	五	今日の問題社
陸海軍本省の完全なる統制下に置く總選舉に臨む在郷軍人會本部の態勢	五來欣造	圓一八	一四	青年教育會	選舉に於ける軍部と政黨	伊達圭介	圓一	五	今日の問題社
フアツシズムと其國家理論	和田半一郎	圓一八	一四	青年教育會	革新日本の建設	飯塚勇	非	三	政論社
再解散反對論に内閣總辭職の運命南・松岡の出馬説と宇垣派の反南運動高潮	和田半一郎	圓二〇	二	日本政治經濟研究所	立國の大本	板垣退助	圓	三	板垣會館
第二解散反對、内閣總辭職論軍内に擡頭政黨との妥協か總辭職か苦境の政府	同	圓一六	同	同	貨幣と信用 (資本主義篇)	米村正一	圓一	八	栗田書店
總選舉と新黨運動 各派の動向	小島喜一郎	圓二	三	小島政治經濟研究所	生産力擴大下の景氣動向	勝田貞次	圓一	三	千倉書房
第七十回帝國議會 貴族院ニ於ケル青木議員ノ質問ト閣僚の答辯	河野高之助	圓一〇	三	日本政經勞動資料所	新興暹羅の經濟現勢	暹羅室	非	七	暹羅室
對支外交の大眼目	伊藤操弑	圓三	三	日本政經勞動資料所	世界各國の關稅制度	外務省調査部	圓	三	日本國際協會
政局はどうなる	辰己吉次	圓三	三	日本政經勞動資料所	景氣恢復と財政政策	天野健雄	圓	五	東京商工會議所
行政法講義案 上	田上穰治	圓二〇	三	江草重治	南方に於ける鐵鑛資源に就て	峰整造	非	八	南方經濟會
第七十議會解散秘録	長谷實馬	圓三	三	日本精神社	割増金附債券の研究	三木純吉	圓	三	債券之日本社
京都市政の片影	淺山富之助	圓六	二	夏秋葵太郎	經濟學の領域及方法	ケーンズ	圓	九	春秋社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
財閥三菱の新研究	松下傳吉	一・五〇	三三〇	中外産業會社
リカア軍事公債論	三田村一郎	一・三〇	一四〇	三田村一郎
經營學論	小島昌太郎	一・五〇	一八〇	有斐閣
世界政治經濟情報一	堀江邑一	一・二〇	三六〇	清和書店
日本コンツエルン全書三	岩井良太郎	一・五〇	三六〇	春秋社
三菱コンツエルン讀本	大藏省	三・〇〇	二二〇	内閣印刷局
昭和十帝國豫算修	主計局	三・〇〇	二二〇	日本印刷局
二年度正綱要	宇野信三	三・五〇	一〇〇	技術師協會
貨銀額法定の基本方策	猿橋義夫	非	三六〇	六社
谷孫六自慢の即實行財話集	大藏省	非	九四〇	財政經濟學會
明治大正財政史(五)	大藏省	非	九四〇	財政經濟學會
金融論研究第一分冊	正井敬次	一・二〇	一六〇	大同書院
農業經濟の基本問題	大槻正男	二・八〇	四〇〇	岩波書店
聯邦に於ける通貨制度	伊部政一	非	三三〇	平野書店
理論經濟學講義案(上)	伊藤久秋	非	三三〇	平野書店
英國社會經濟史	矢口孝次郎	二・五〇	三三〇	甲文堂書店
都市社會進化史	中澤辨次郎	二・〇〇	二〇七	日本農村問題研究所
原子物理學	三村剛昂	三・五〇	四三三	中文館書店
物理學通論上	若桑光雄	三・〇〇	三三九	文明社
わが有機化學	山岡望	四・五〇	三三三	内田老鶴圃
鐵鋼電氣冶金學	向山幹夫	二・四〇	二五五	工業圖書株式會社
音騷	守田榮	二・二〇	二九	岩波書店
電熱工業化學	向山幹夫	四・五〇	四九	同
石炭と炭鑛業の知識	厚見利作	二・五〇	四三三	厚見利作
有機化學上	小竹無二雄	一・〇〇	五九	共立社
東京帝大震研所彙報第五號第一冊	東京帝大震研所	四・八〇	三七	東京帝大震研所
因襲打破論	松島宗晴	三・五〇	二六	因襲打破論社
日本海軍の秘密を衝く	山本實	二・〇〇	四	東京パンフレット社
林内閣を撃つ	牧野良三	二・〇〇	四	森田書房
社會大衆一般運動	馬場幸八	非	五	馬場幸八
黨三年度方針概要	全日本労働總同盟	非	五	馬場幸八
運動方針	全日本労働總同盟	非	五	馬場幸八

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
經濟記事の基礎知識	石山皆男	三・二〇	一五六	モンド社
明治初期經濟史(一)	慶應義塾經濟史學會	一・五〇	三四	巖松堂書店
地方財務疑解	谷口壽太郎	二・五〇	四八	地方事務會
改訂日本財政論公債篇	大内兵衛	一・三〇	四三	改造社
スペイン革命の政治的經濟的基礎	ハリス・カンネス	一・三〇	二七	文閣
佐渡愛三譯	豊崎稔	一・八〇	二二	甲文堂書店
貨幣的景氣理論	福林正之	非	九	經濟研究會
ブルム社會黨政府下の佛蘭西財界	末高信	四・九〇	四四	明善社
保險經濟大綱	谷口吉彦	六	六	京都府會
國防と經濟	上野陽一	一・八〇	三四	千倉書房
購買管理倉庫管理	姫野徳一	一・五〇	二七	日支問題會
最新對華經濟資料(三)	津村秀松	一・五〇	三四	實業之日本社
金廻り物語	相馬良作	二・五〇	七三	平書院
カウツキー農業問題	上田貞次郎	三・〇〇	六七	協調會
日本人口問題研究(三)	同上	同上	同上	同上

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
農村問題入門	猪俣津南雄	一・五〇	四〇五	中央公論社	世界戦争はもう始まつてゐる	武藤貞一	一・八〇	四〇三	新潮社
第七十議會解散の是非	福田實甫	一・〇〇	四〇七	昭和通信社	フリーメイソンの正體	四王天延孝	一・〇〇	四〇四	愛國義團本部
我が大陸政策と	渡邊剛	一・〇〇	四〇三	新刊帝國社	議會制度の個人主義的解釋を排す	松永芳市	一・〇〇	四〇九	日進堂印刷所
小林順一郎氏の思想を解剖する	神庭仲之助	非	四〇三	青年懇談會出版部	軍部と其の革新思想	神庭仲之助	非	四〇六	青年懇談會出版部
全體主義へ！搖ぐ全產聯と大黨の構み	和田半一郎	一・〇〇	四〇九	日本政治經濟研究所	林内閣を撃つ	牧野良三	非	四〇四	立憲政友會本部
階級團體論の脅威	近衛文麿	一・〇〇	四〇三	東亞同文會	支那問題大系一	藤枝丈夫	三・〇〇	四〇八	叢文閣
日支兩國の識者に望む	岡部長景	一・〇〇	四〇三	東亞同文會	支那問題總論	繁田淺二	一・〇〇	四〇三	社會時報社
遍く東亞の同志に懇む	鈴木梅四郎	一・〇〇	四〇八	晚成社	五月	唯物論會	三・八〇	四〇三	白揚社
嗚呼二月二十六日	尾崎行雄	一・八〇	四〇五	五城樓	ドイツ・イデオロギー	研究會	三・八〇	四〇三	白揚社
日本はどうなるか	今岡十一郎	一・〇〇	四〇七	東京パンフレット社	不安定政局の前途	蒲生弘三	一・〇〇	四〇三	有恒社
ソ聯邦に於ける回教民族	大野慎	一・〇〇	四〇四	東京パンフレット社	總選舉の實戰	朝倉昇	一・〇〇	四〇三	朝倉經濟研究所
政局はどう轉換するか？	石山皆男	非	四〇四	ヤモンド社	帝國獨特の憲政	林正享	一・〇〇	四〇六	森田書房
新日本の前夜を語る	楠本寛	非	四〇七	安久社	皇道政治の眞髓	中野昇	一・〇〇	四〇三	日本パンフレット協會
第七十議會と地方交付金問題	小島喜一郎	非	四〇三	小島政治經濟研究所	歐洲現下の政局	米田實	一・〇〇	四〇四	新日本同盟
社會大衆黨の選挙費は何處から出るか？									

書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數體	發行所
祭政一致の政治とは何か	佐藤清勝	一・〇〇	四〇三	帝國漢學會	近世の國體論	河野省三	一・〇〇	四〇四	國民精神文化研究所
アルコール 專賣制度概要	阿知波嘉一	一・〇〇	四〇四	專賣協會	眞の皇道政治	千駄ヶ谷山人	一・〇〇	四〇四	地湧日本社
ルース屬領統治論	若木禮	一・〇〇	四〇四	叢文閣	躍進國策の提唱と大陸政策	國策研究會	非	四〇七	國策研究會
動く日本	下村海南	一・八〇	四〇五	第一書房	支那をめぐる國際航路の眞相	國際事情會	一・〇〇	四〇三	東京パンフレット社
近代政治思想と皇道	藤澤親雄	一・〇〇	四〇四	青年教育會	我國の製鐵政策	伍堂卓雄	非	四〇三	新日本同盟
林内閣の苦慮益々深刻となる林權助男・本庄大將の政權説有力に擡頭	和田半一郎	一・〇〇	四〇六	日本政治經濟研究所	國防並に資本の要求としての生産力擴充政策	和田半一郎	一・〇〇	四〇九	日本政治經濟研究所
政黨内閣は果して復活するか	山内一郎	一・〇〇	四〇四	森田書房	新聞經濟面の讀み方相場篇	木村孫八郎	一・八〇	四〇四	栗田書店
國體の本義	文部省	一・〇〇	四〇五	内閣印刷局	新聞經濟記事の基礎知識	阿部賢一	一・〇〇	四〇五	同
ナチス政策綱領	千徳岩雄	一・〇〇	四〇五	健康日本社	外國爲替論	正井敬次	一・〇〇	四〇九	大同書院
政變の切迫と次期政權を語る座談會	今日の問者	一・〇〇	四〇五	今日の問題社	經濟學の基礎知識	高橋龜吉	一・〇〇	四〇九	千倉書房
全政治科學原論	高橋清吾	四・八〇	四〇六	有斐閣	金融理論の新傾向	新庄博	一・〇〇	四〇三	甲文堂書店
獨逸に於ける電力國策の現状	落合高次	一・〇〇	四〇五	東邦電力株式會社	動く滿洲經濟	樋口弘	一・〇〇	四〇五	ダモンド社
新南方國策實行の基幹	峰整造	一・〇〇	四〇三	南方懇話會	經濟政策の基礎としての國家觀	吉川兼光	非	四〇六	吉川兼光
滿鐵を語る	松岡洋右	一・〇〇	四〇三	第一出版社	明治染織經濟史	服部之總信夫清三郎	三・五〇	四〇七	白揚社

書名	著譯者	定價	頁形體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
マルクス主義經濟學教 程一 生産・價值・貨幣	橋本弘毅	一・三〇	四〇四	白揚社	經濟學文獻大鑑(三)	大阪商科大學 研究會	三・〇〇	四二九	經濟研究所
日本産業經濟全書	安田庄司	・三〇	四三三	同	外國爲替新讀本	山崎靖純	一・五〇	四三三	立命館出版部
國民主義經濟學の 基礎理論	古川武	三・四〇	四三三	叢文閣	我が中南米貿易と 此等諸國の爲替管理	高山洋吉譯	一・八〇	四三一	東京學社
綜合蠶糸經濟論 下	本位田祥男	四・三〇	四〇九	有斐閣	支那幣制改革の批判	天野健雄	三・三〇	四一五	東京商工
日本社會經濟史の 諸問題	土屋喬雄	一・七〇	四三六	南郊社	日本資本主義史論集	林維英 東京會社 所譯	非	四二二	東京銀行
中小商工金融實務誌	井關孝雄	四・五〇	四三〇	銀行問題 研究会	物價騰貴と賃銀對策	土屋喬雄	二・八〇	四三〇	育生社
明治大正財政史(四)	大藏省	二・八〇	四二八	財政經濟學會	産業組合金融 下	町田辰次郎	非	四四〇	協調會
新興コンツェルン全書(二)	三宅晴輝	一・五〇	四三〇	春秋社	日本經濟政策	小平權一	一・五〇	四三三	高陽書院
準戰時財政論	高木壽一	三・〇〇	四三三	千倉書房	經營經濟學原論(一)	松井辰之助	一・五〇	四三三	大同書院
各軍需景氣の渦紋	原祐三	一・〇〇	四三三	岩波書店	經濟統制下の日本	有澤廣己	一・五〇	四四〇	改造社
研究經濟學(六)	東北帝國大 學經濟學會	一・三〇	四三六	日本評論社	統制經濟と企業經營	日學會 大阪毎日新 聞經濟部	三・五〇	四三〇	同文館
マルクス資本論 第一卷上	長谷部文雄	四・五〇	四八〇	日本評論社	第六大投資相談	木村禧八郎	二・三〇	四三八	一元社
朝日時局讀本(三)	星野辰男	四・五〇	四二二	朝日新聞社	日本産業經濟全書 外國爲替		四・三〇	四二二	白揚社
貨幣銀行概論	服部文四郎	四・五〇	四三〇	明善社					

書名	著譯者	定價	頁形體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
激蒙中央亞細亞 燃料及び水力資源解説	東京工業大學 工業調査部	非	七〇	東京工業大學 生命保險 會社協會	質銀闘争の推進力とな れる東京全市從業員の 歴史學發展	大西滿雄	四・〇〇	四〇七	日本政經勞働 資料所
明治大正保險史料 第一編 第二卷	吉村忠三	四・〇〇	四八五	生命保險 會社協會	南洋は日本をいかに観る	竹井十郎	一・七〇	四三九	日本書莊
露誌 論調(八)	和田半一郎	四・〇〇	四七	日本政治經濟 研究所	支那新聞の記事論調 (九)	三枝茂智	四・〇〇	四〇七	日本國際協會 調査部
日支關係轉換の焦點・ 冀東政府消滅の流布	和田半一郎	四・〇〇	四七	日本政治經濟 研究所	現代世相讀本	阿部眞之助	一・八〇	四〇七	東京日日新聞 發行所
「國際危局認識國民運 動」の目標	小島喜一郎	四・〇〇	四〇	小島政治 經濟研究所	夫婦間の貞操問題	島津嘉孝	一・八〇	四三三	松光書院
愛國労働農民同志會批 判「小林イズム」の檢討	蠟山政道	一・六〇	四三三	高陽書院	極東の事情	南都參次	非	四二六	會本部
現代社會思想講話	幼少年教 化研究部	三・〇〇	四三三	泉書院	現代の都市美	都市美協會	非	四四九	都市美協會
少年不良化の 原因と其對策	大平進一	一・一〇	四三三	今日の問題社	國防産業の確立と製鐵 事業法案の再檢討	永田耀	三・三〇	四三三	世界經濟 情報社
支那に於ける 列國の爭覇戰	和田半一郎	四・〇〇	四二〇	日本政治經濟 研究所	現狀打開論	中里介山	三・三〇	四八三	隣人之友社
資本主義經濟利用によ る國防と社會政策の徹 底化總選舉後の政局を 左右する軍部不動の諸 政策	三枝茂智	四・〇〇	四三〇	日本國際協會 調査部	地方に於ける勤勞階級 政黨の闘争目標と其戰 術	木戸好和	非	四〇九	大阪時局 調査所
支那新聞の記事論調 (八)	宮崎龍介	四・〇〇	四一	日本國際協會 調査部	世界の動向と日本(二)	荒木貞夫	非	四四四	日本パンフレ ット協會
非常時認識國民 運動要旨	楠原祖一郎	非	四七	社會思想對策 調査會	躍進支那を診る	神田正雄	一・五〇	四三三	海外社
最近米國に於ける産業 界の勞働爭議事情その一	同	同	同	同	紙業國營論の提唱	貴島桃隆	三・〇〇	四〇四	國際經濟 研究所
同	同	同	同	同	大金鑛の秘密	高田申作	三・三〇	四二二	今日の問題社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
爭議の合法性 法的認容歴殺運動 英人の觀たる 支那の建設運動	長尾桃郎 東洋協會 調査部	非	七	時事展望社	北和南進論の客觀的氣 運動く高度國防と國內 改進黨對峙の調停案	和田半一郎	非	九	日本政治經濟 研究所
勞働時間問題 支那新聞の記事論調	暉峻義等 三枝茂智	非	五	東洋協會	危機に立つ日支關係 物價奔騰と勞働爭議	增田光 吉田茂	非	三	又新俱樂部
資本主義機構上の國防 防か、その變革による國 防か、高度國防強行の國 諸矛盾發生を繞ぐる政 治闘争激化せん	和田半一郎	非	二	日本政治經濟 研究所	正氣時に光を放つ下 革新原理 新國民主義 としての 個人 議會制度の個人 主義的解釋を排す	山本英輔 島中雄三 松永芳市	非	三	日本パブリ ック協會
滿洲國を中心とする諸 國に對する我國國民の關 心を促す	岩瀬正治	非	二	日本政治經濟 研究所	革新日本の國民總意 傳へられる革新政黨樹 立運動と總選舉後に於 ける諸力の動向	木戸好和 和田半一郎	非	三	大松永芳市 時局 調査所
國際問題研究(二) 日本を如何にすべきか	國際問題 研究会 井乃香樹	一・五	三六	立命館出版部	民衆富んで國防完し 謎の日本	河野密 武野藤介	一・三	三	日本學 術 會 所
液體燃料問題の檢討	朝倉昇	一・〇	四	朝倉經濟 研究所	渦卷く南方 日蘇戰爭は 何時始まるか?	能仲文夫 國際事情 研究会	一・〇	三	中央情報社
澎湃たる勞働爭議の波 瀾に直面、社會政策と 國家統制の全體主義的 勞働政策の登場	和田半一郎	一・〇	八	日本政治經濟 研究所	國民勞働の精神	高谷覺藏 伊藤輔利	一・〇	九	太陽 閣 思想 部
再革命成るか? 混亂のソ 聯邦	小澤 柏	一・〇	三	武藏野文庫			一・〇	九	思想 研究 所

六月

危機は歐州か極東か 船内細胞組織重視論	菅田均 杉山善太郎	一・〇	五	國政一新會 愛知昭和毎夕 新聞	ナチス準戰時國家體制 革新陣營の期待空しく 一轉反擊態勢近衛内閣 成立をめぐる諸事情と 國內相剋激化の展望	具島兼三郎 和田半一郎	一・〇	三六	千倉書房
昭和新と稅制改革 近衛内閣の使命	三輪外三 金近靖	非	一八	三輪外三 高山書院	近衛文麿公の思想の 經綸	城北外史 伊藤武	一・〇	三六	大文字書院
産青聯内に農村独自の 政治組織生る農政革新 同盟の綱領政策趣意書 全文	和田半一郎	一・〇	一八	日本政治經濟 研究所	近衛内閣と經濟界の 前途	齊藤國次 青木得三	非	四	福島 町村長 會
初期の警察制度(二) 科學政策論	警視廳 石井友幸	非	三六	警視廳	躍進日本の姿と 資源問題	井尻百歩 東邦國策 研究会	一・〇	三	第百書房
新内閣の財政々策 とその前途	和田半一郎	一・〇	三	日本政治經濟 研究所	經濟思想史研究 上	北澤新次郎 小島精一	一・五	三	松堂書店
政治學大意 國策の檢討と具體化 (二)	吉川兼光 下垣幸三郎	一・〇	二六	三省堂 日本政治 研究所	鐵鋼經濟讀本 インフレーション 來りなげ	勝田貞次 相澤秀一	一・五	三	千倉書房 秋社
公論統治原理 冀東政府の全貌	大石義雄 新見浩	一・五	四	日本評論社 成社	黎明期の市民經濟學 金のインフレはどう 問題か金準備の没落	景氣研究所 濱谷源藏	一・五	三	景氣研究 所
皇道政治早わかり	能勢岩吉	一・〇	三	正中會社	貿易經營概説	濱谷源藏	一・五	三	同文館

書名	著譯者	定價	頁形數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數	發行所
新經濟學入門上	ラビドス 橋本弘毅譯	三〇〇	三〇〇	慶應書房	各國貿易管理及爲替管理通觀	加納友諒	非	三〇〇	日本護謄製品輸出組合
經營豫算實務	岩垂至	一〇〇	四三三	同文館	日本コンツェルン全書四	和田日出吉	一〇〇	三三三	春秋社
在支紡績の發展とその基礎	岡部利良	五〇	四三三	東洋經濟新報社	世界政治經濟情報二	堀江邑一	一〇〇	四三三	清和書店
財閥安田の新研究	松下傳吉	一〇〇	四三三	中外産業調査會	朝日時局讀本五	星野辰男	一〇〇	四三三	朝日新聞社
ナチス政治經濟讀本	エルマース 多田潔譯	九〇	四三三	慶應書房	準戰時統制經濟	事業と會社	一〇〇	四三三	朝日新聞社
ナチス經濟法	日滿財政經濟研究會	二〇〇	四三三	日本評論社	賀屋財政下の景氣と株界はどうなる	研究會	一〇〇	四三三	朝日新聞社
インフレーション問題に就て	木村三郎	非	四三三	政治經濟研究會	世界政治 昭和十一年度	出版ス	三〇〇	四三三	朝日新聞社
統制經濟讀本	加田哲二	二〇〇	四三三	一元社	南方論と北部 セレベス事情に就て	柴田鐵四郎	非	四三三	朝日新聞社
明治初期社會經濟思想史	池内信行	一〇〇	四三三	森山書店	内外經濟問題の解説	大坂毎日東京日新新聞社	二〇〇	四三三	朝日新聞社
經營經濟學と社會理念	石濱知行	三〇〇	四三三	育生社	最新對華經濟資料四	コノミスト社	二〇〇	四三三	朝日新聞社
特殊金融機關史論	高山洋吉	一〇〇	四三三	東洋經濟新報社	日本に迫る影	鈴木東民譯	一〇〇	四三三	朝日新聞社
財政學講義案	岩部晃次郎	一〇〇	四三三	精興社書店	林の退陣と近衛内閣出現の真相	唐島基智三	一〇〇	四三三	朝日新聞社
國民經濟と膨脹財政	阿部勇	一〇〇	四三三	潮社	國民運動の提唱!!	西田秀雄	一〇〇	四三三	朝日新聞社
					再革命成るか? 混亂のソ聯邦 何があの時あゝまでか 右翼に活氣を與へたか	小澤 柏	一〇〇	四三三	朝日新聞社
						長尾桃郎	非	四三三	朝日新聞社

書名	著譯者	定價	頁形數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形數	發行所
東京交通労働組合の地下戦術・争議資金工作	小島喜一郎	一〇〇	四三三	小島政治經濟研究所	支那原始社會史考	呂振羽	二〇〇	四三三	改造社
制度・時・人	末川 博	二〇〇	四三三	日本評論社	議會主義政黨樹立運動と實力結集方針への二方向選舉並に政權依存主義失敗を轉機とする愛國陣營	和田半一郎	一〇〇	四三三	日本政治經濟研究所
ひとのみち致國事件に關する調査資料その三	楠原祖一郎	非	四三三	社會思想對策調査會	賣笑問題と女性	小島光枝	一〇〇	四三三	大日本更生社
同	同	非	四三三	同	裏から見た林の没落と近衛内閣の成立	伏見武夫	一〇〇	四三三	今日の問題社
慄へ上る赤軍	三島康夫	一〇〇	四三三	今日の問題社	福利施設の現状	井上信明	三〇〇	四三三	今日の問題社
鐵鋼國策の確立に就いて近衛内閣に奉るの書	永田 耀	三〇〇	四三三	世界經濟情報社	世界軍需工業の陰謀を暴く	山下麒一郎	一〇〇	四三三	東京パンフレット社
非常時に躍つた人々	松波治郎	一〇〇	四三三	教育社	日本精神の復活	平泉 澄	一〇〇	四三三	大阪府思想問題研究會
近衛内閣の頭腦を衝く	山内藤介	一〇〇	四三三	第百書房	太平洋問題	赤松祐之	一〇〇	四三三	日本國際協會
新黨樹立問題その他を繞り純正維新共同青年隊遂に解散に注目する、今後の動向	和田半一郎	一〇〇	四三三	日本政治經濟研究所	綜合國策樹立の爲に	太田武雄	一〇〇	四三三	日本政治問題調査會
太平洋問題と其解決案	神川彦松	非	四三三	日本外交協會	ロシヤ共產黨の實情と其の極東政策	高見覺藏	一〇〇	四三三	日本文化出版部協會
遂ひに斃る林内閣の経路	上村文三	一〇〇	四三三	教材社	社會學史概要	安西文夫	一〇〇	四三三	平野書房
荒野に呼ぶ聲	賀川豊彦	一〇〇	四三三	第一書房	最近支那紙の對日論調	山上 昶	非	四三三	東洋協會
經濟上に於ける日本の危機	渡邊精吉郎	一〇〇	四三三	秋豐閣出版部	世界建設の大道	西村展藏	一〇〇	四三三	無名閣
極東	上脇 進譯	一〇〇	四三三	改造社	大義名分思想	田崎仁義	一〇〇	四三三	甲文堂書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
宗教療法の掃蕩	谷内肇	二〇〇	四〇	國策樹立協會
近衛内閣の出現に當りて	野依秀市	一〇〇	三六	帝都日刊社
百千萬民衆に訴ふ	蔣介石 村田孜郎譯	一五〇	三五	河出書房
支那問題の基礎知識	謝國城	一〇〇	三九	哲刀閣
ソビエト聯邦事情崩壞途上のロシア事情	笠原幸雄 上村文三	一〇〇	三七	教材社
ブーゲル・價值社會學	河合弘道	一三〇	二七	三笠書房
日本救世軍の内幕を衝く	田中健三	一〇〇	三三	今日の問題社
極東情勢に關する基礎資料	安藤英夫	一三〇	二〇	泰山房
産業組合獨裁王	山野三吉	一〇〇	二五	今日の問題社
千石興太郎を裸にする	松木重治	非	六	日本外交協會
支那の中心勢力を解剖す	石田三郎	一〇〇	三〇	日本講演社
近衛内閣と新黨計畫の全貌	鈴木檢路朗	一〇〇	四〇	森田書房
救世軍の假面を剥ぐ	尾瀬敬止	一〇〇	三六	同
露滿國境異狀あり	林貞四郎	一〇〇	三三	北海國民黨結成準備會
日本主義と既成政黨	同	一〇〇	三三	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
大衆を基調とする政治	小高長三郎	非	一〇	日本パンフレット協會
近衛内閣批判	黒田重吉	一〇〇	三三	都新聞社
世界政治論	松本重治 他一名譯	一〇〇	四〇	叢文閣
愛同本部理事會に於ける新黨問題の討論・荻窪會議と新政黨運動	徳田健兒	一〇〇	九	時局解説會
明治天皇と立憲政治	渡邊幾治郎	二〇〇	三九	政經書房
社會大衆黨の資金網一覽表	山崎文雄	一〇〇	四四	世界公論社
國體に醒めよ	石川清治	非	七	島田滿治郎
政治篇 神策	藤井正一	一〇〇	三六	實業之日本社
佐藤宇内混同秘策	搦田惠吉	一五〇	二六	大同館書店
信大黨・政友・民政の政治資金解剖	鈴木興一	一〇〇	三三	日本書房
市政財 政 篇	木村利夫	一〇〇	二二	市政人社
警察行政法(各論)	和久田鐵雄	二〇〇	五三	松華堂書店
米材取引の慣習に關する回答書集録	東京商工會議所	非	二四	東京商工會議所
物價問題に關する座談會記錄	同	一五〇	八〇	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
支那社會史	サファロフ 早川二郎譯	二〇〇	四三	白揚社
ロシアの本體を衝く	茂森唯士	一〇〇	三三	今日の問題社
綜合歸一の日本	茅原廉太郎	一〇〇	二〇	内觀社
フラン切下及關係	外務省 通商局	一〇〇	三六	日本國際協會
支那新聞の記事論調	三枝茂智	一〇〇	二四	日本國際協會
近衛内閣關係の全貌	永松淺造	一〇〇	三三	森田書房
石油國策論集(二)	長谷川尙一	非	一九	中西貞一
少年不良化の原因と其對策	幼年教化 研究部	一〇〇	八	日本少年會
無神の共產主義を排す	田口芳五郎	一〇〇	五	カトリック中央出版部
軍部の抱く勞働政策とは如何なるものか	徳田健兒	一〇〇	八	時局解説會
最近に於ける共產黨の運動に就いて	池田克	一〇〇	三〇	阜月會
支那新聞の記事論調(十一)	三枝茂智	一〇〇	三	日本國際協會
時代錯誤の自由主義	小山富三	非	六	日本パンフレット協會
非常時政局を繞る人々	角屋謙一	一〇〇	三三	文王社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
蘇聯の實狀と共産黨の内情	高谷覺藏	非	三	神戸貿易會
太平洋問題與其解決案	神川彦松	一〇〇	一〇	東亞同文會
電氣事業今日の問題	新妻郁朗	一〇〇	一〇	日本電氣
日本を包圍する列國の趨勢好條件に恵まれた今後の移植民問題	大倉一榮	一〇〇	六	對外國問題研究所
會社の窓から	北山勇之助	非	二五	北山勇之助
裏から見た支那人	笠井孝	一〇〇	四二	高山書院
コミンテルンと民族問題	秋山憲夫	一〇〇	七	阜月會
滿蘇國境紛争事件の全貌	宇治田直義	一〇〇	三	東亞同文會
國民體位向上への新提言	池村平太郎	一〇〇	三三	隆文堂
日支連携の基礎概念	一水社	非	六	一水社
富 籤 論	佐田弘治郎	一〇〇	一五	改造社
反産運動に關する日誌	千石興太郎	一〇〇	三	産業組合
ソヴェトロシアの對支政策と赤軍肅正工作問題	小島喜一郎	一〇〇	九	小島政治經濟研究所
帝人事件公判速記録	大古田要一郎	非	二七	亨社
對スル豫審判事ノ許可關係部分其ノ二	同	一〇〇	三	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
社大黨の將來を打診する	神庭伸之助	非	三	青年懇談會出版部
最近我國主要企業における労働事情並重要争議事情	楠原祖一郎	非	六	社會思想對策會
黒龍江明日の風雲日支の對立愈々深刻化	南都參次	非	三	播州國防研究會
國際收支の均衡維持と生産力擴充政策の矛盾・新内閣の財政經濟政策の特徴と前途	和田半一郎	圓	三	日本政治經濟研究所
最近の支那の動き	下村敬三郎	圓	七	在國在郷軍人會本部
革新時代 中島知久平の黨領を研究す	山北太郎	圓	一三	交通研究所
戰爭と財産	野田豊	圓	六六	今日の問題社
日本の南進策を世界は斯く見る	國策情勢研究会	圓	三一	太陽閣
金の悲喜劇	塚本義隆	圓	九	同盟通信社
北支事變の急迫とソ満國境の現況・トハチエフスキー事件の真相とスターリン統帥權確立問題	和田半一郎	圓	七	日本政治經濟研究所
有馬伯は何をなすか	柴尾親弘	圓	二六	動く日本社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
高物價と如何に闘ふか 物價問題に關する座談會記録三	平野學	圓	七	社會大衆黨出版部
ウイザア自然價值論	東京商工會議所	圓	三	東京商工會議所
配給理論	大山千代夫	圓	二八	大山千代夫會
日支經濟提携の前途	向井梅次	圓	五九	叢文閣
朝鮮工業經濟讀本	若杉浪雄	圓	二〇	東亞國勢研究所
絲綢安定施設法 制定に關する諸問題	朝倉昇	圓	五	朝倉經濟研究所
東京商科大學研究年報 經濟學研究 五	森徳久	圓	三〇	農村經濟調查局
支那及滿洲の通貨と幣制改革	東京商科大學經濟學會	圓	三三	岩波書店
利殖の書	越智元治	圓	六九	東亞同文館
理論經濟學の對象と基礎概念 人絹、ステイブル・フアイバー、バルブ	鈴木勉	圓	二六	國民圖書協會
最近の進歩を語る 日本經濟四季報(三)	山口忠夫	圓	三三	有斐閣
日本經濟四季報(二)	古屋巖	圓	二五	帝國人造絹糸株式會社
内外經濟四季報(一)	日本經濟研究所	圓	二四	改進社
フランスの統制經濟	東京商工會議所	圓	二六	東京商工會議所

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
支那新聞記事論調(四)	三枝茂智	圓	九	日本國際協會調查部
賣淫公認制度廢止論	伊藤秀吉	圓	六	國民純潔同盟
日本人口政策	上田貞次郎	圓	三	千倉書房
不安の歐洲を巡る	河上清	圓	六	大阪每日新聞
現下の物價問題とドイツ價格統制	有澤廣己	圓	三	東京商工會議所
世界政治經濟情報(三)	美濃部亮吉	圓	三	清和書店
財政經濟便覽	堀江邑一	圓	三六	國政一新會
ペンタム經濟發展の理論	船田中	圓	三〇	國政一新會
内外經濟概觀	中山伊知郎	圓	七九	岩波書店
何れの道をとるか 物價騰貴の支那經濟制覇を完成しつゝある國際猶太財閥の活躍	東畑精一	圓	六	野村合名會社調查部
經濟全史(四)	國政一新會	圓	一七	國政一新會
日本コンツェルン全書 八證券財閥讀本	犬塚惟重	圓	四	日本外交協會
支那經濟讀本	高山洋吉	圓	一八	東學社
現代臺灣經濟論	栗林正修	圓	三六	春秋社
ソ聯の金融問題に就いて	河野嘉三郎	圓	五	早月會
アメリカ統制經濟論	小原敬士	圓	三三	一元社
財政學要義	松下周太郎	圓	四六	嚴松堂書店
物價問題に關する座談會記録	東京商工會議所	圓	七	東京商工會議所
輸出爲替事務	山本正志	圓	一七	文雅堂
國民經濟と世界經濟	作田莊一	圓	九	國民精神文化研究所
現代知識一	文化之社	圓	三三	文化之日本社
外國爲替論	谷口吉彦	圓	四	千倉書房
戰機を孕む國境 日ソ勢力の相剋線	茂森唯士	圓	四	今日の問題社
列國海軍の現狀と其の趨勢	中村龜三郎	圓	六	京都府防協會
重要關係諸國の諸情勢 惟神會に依て 何を待たか	水島齊	圓	五	國際思想研究所
爭議對策	古川清治	圓	三	惟神會
爭議對策	福島康文	圓	七	問題通信社

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
米國極東政策の真相	ラルフ・大江專一譯	一・五〇	三〇	日本國際協會	世界征服を目ざすもの	リリー・アベツク	一・三〇	三〇	時局評論社
日支開戦の危機緊迫	和田半一郎	一・〇〇	一三	日本政治經濟研究所	滿洲國產業行政權に於ける治外法權撤廢の實狀	塚野俊郎	非	二八	日滿實業協會
北支事變の性質と日支關係の將來	上村文三	一・〇〇	一〇	敎材社	我が大和民族の使命	庄司新二	一・〇〇	一七	庄司新二
北支爆發の真相	和田半一郎	一・〇〇	一〇	日本政治經濟研究所	大亞細亞主義語意(一)	野田秀雄	一・〇〇	三三	大亞細亞建設社足尾支部
傳へられる陸軍八月定期異動豫想各方面齊しく注目の新陣容とその動向	田代重徳	一・〇〇	一〇	世界敎育會議	唯物論全書	新島繁	一・〇〇	三三	三笠書房
最近の世界の動きと日本	吉村忠三	一・〇〇	一〇	日本時事局	朝日時局讀本六	星野辰男	一・〇〇	三四	朝日新聞社
ソ聯の真相	山下駈一郎	一・〇〇	一〇	東京パンフレット社	革新政治下の米國	高谷覺藏	非	一六	日本外交協會
ソ聯陰謀事件の真相を衝く	成光堂	一・〇〇	一〇	成光堂出版部	ロシア共產黨の實狀と其の極東政策	波多野乾一	一・五〇	一五	改造社
最近の支那軍備と諸情勢	編輯部	一・〇〇	一〇	國際反共聯盟	現代支那の政治と人物	田邊宗英	一・〇〇	一七	窓光社
赤軍將校陰謀事件の真相	山内封介	一・〇〇	一〇	綜合書房	宗教政治の提唱	石崎健司	一・〇〇	一七	自由通信社
相スターリン暗黒政治の暴露	水野嘉雄	一・五〇	一〇	日本政治經濟研究所	輝く憲政	田澤義鋪	一・五〇	一七	選舉肅正中央聯盟
世界の戦標	和田半一郎	一・〇〇	一〇	日本政治經濟研究所	自治三則	和田半一郎	一・〇〇	一〇	日本政治經濟研究所
近衛政権を繞ぐる政黨的動向・既成政黨の質的轉換は果して可能か	長野朗	一・〇〇	一〇	坂上書院	對日抗戦か、現地協定承認か、チレンマに陥る南京政府	拓務局	一・〇〇	一〇	拓務局
日支共存への道	蘭領印度統治組織	一・〇〇	一〇	拓務局			一・〇〇	一〇	拓務局

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
貴族院改善私見	加藤順次郎	一・五〇	一〇	圖南堂書店	世界經濟界の現在と將來	小汀利得	非	一六	東肥青年會
滿洲に於ける帝國の權利	蟻川新	一・三〇	一〇	清水書店	日本經濟事情	石橋湛山	一・〇〇	一五	帝國敎育會第七屆日本事務局
南洋に於ける帝國の權利	同	一・五〇	一〇	同	經濟全史(五)	高山洋吉	一・八〇	一五	東學社
地方行政論	蠟山政道	一・三〇	一〇	日本評論社	日本資本主義發展史	宮田徹彌	一・三〇	一〇	叢文閣
救護事務提要	大阪市救護事務協議會	一・〇〇	一〇	大阪市救護事務協議會	戰爭と經濟	有澤廣己	一・八〇	一〇	日本評論社
特高教程	青木貞雄	一・七〇	一〇	新光閣	紙價は何故暴騰したか	堀越登吉	一・五〇	一〇	産業經濟通信社
日本革新黨の性格と指導精神	神庭伸之助	非	一〇	青年懇談會出版部	戰爭と株式投資	川田三郎	一・〇〇	一〇	第百書房
貴族院制度改革に關する研究資料	國策研究會	非	一〇	國策研究會	鐵道運賃論	增井幸雄	一・五〇	一〇	春秋社
日本民族の政治哲學	藤澤親雄	一・五〇	一〇	巖松堂書店	日滿經濟五ヶ年計畫	小島精一	一・五〇	一〇	同
國際政治から觀た日支の抗争	田中直吉	一・五〇	一〇	立命館出版部	戰爭と財産について	永田八郎	一・〇〇	一〇	東京書籍協會
林内閣	塚田昌夫	一・〇〇	一〇	林内閣編纂所	準戰時下の海運現勢	下村健一	一・五〇	一〇	東洋經濟新報社
敎育勅語と警察精神の發揚	松井茂	一・〇〇	一〇	松華堂書店	明治大正財政史(六)	大藏省	一・〇〇	一〇	財政經濟學會
戰爭と株式	緒方勝次	一・〇〇	一〇	新日本社	惡化する日支關係と我が株式金融界	飯田清三	一・三〇	一〇	今日の問題社
財政讀本	土方成美	一・五〇	一〇	日本評論社	評價問題の研究(一)	計本會	一・〇〇	一〇	森山書店
北支事變と財政經濟政策	龜谷正司	一・三〇	一〇	日本經濟政策研究所	同	同	一・〇〇	一〇	同